

# 中，池遺跡

丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## Ⅱ

2000. 3

丸 亀 市

松本考古学研究所

# 中，池遺跡

丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## Ⅱ

2000. 3

丸 亀 市

松本考古学研究所



溝・N2-SD-1 遺物出土状況

## はじめに

丸亀市の要請によって実施した中ノ池遺跡の調査は三次に及んでいる。すでに一次調査については、1999年3月に報告書を刊行したが、本書はその二次と三次の報告である。調査面積は二次が502.78㎡、三次が439㎡で、調査面積としてはむしろ僅かなものに過ぎない。しかし出土した土器や石器、多数の溝は多くの情報を含んでおり、一応基本的な資料の整理は実施することができた。

しかしそれらの資料の分析は今後の課題となった。中ノ池遺跡の推定面積は62,500㎡を越えるものと思われるが、われわれの調査はその2パーセントにも及んでいない。しかもその調査は断片的なものであり、遺跡の性格を的確に把握するためには資料不足は否めない。

それでも得られた資料は極めて貴重なものであり、今回の報告書では果たすことができなかったこれらの分析や、論考は、体勢を立て直しⅢ次調査報告として刊行することとしており、猶予を賜りたい。

最後に発掘調査及び資料整理に対して、ご支援を頂いた丸亀市および市教育委員会に深く感謝いたします。

2000年3月

松本考古学研究所  
所長 松本豊胤

## 例言

- 1 本書は、丸亀市の総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財（中ノ池遺跡）の、平成9年度第二次及び平成10年度第三次発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 第二次発掘調査は、平成9年9月12日付けで第三次は平成10年12月2日付けで丸亀市長長山圭之と、松本考古学研究所所長松本豊胤との間で締結した「丸亀市運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財（中ノ池遺跡）発掘調査業務委託」の契約によって実施した。
- 3 資料整理は平成11年6月22日付けで丸亀市長片山圭之と松本考古学研究所所長松本豊胤との間で締結した「丸亀市運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財（中ノ池遺跡）出土品等資料整理業務委託」の契約によって実施した。
- 4 中ノ池遺跡は丸亀市金台町道上中ノ池に所在する。
- 5 中ノ池遺跡は平成9年5月に第一次調査を実施している。本報告は第二次及び第三次調査によって検出された遺構の調査状況と出土した遺物の整理の状況を報告し、中ノ池遺跡での遺構の位置付けや、出土品についての歴史的な位置づけは、第三次報告書として併行する予定である。
- 6 調査主任及び資料整理・報告書作成等は松本豊胤が中心となり、吉井繁美および四国学院大学の考古学研究室の学生諸氏の協力をあおいだ。
- 7 本書挿入図中のレベル高はすべて海拔をあらわし、方位は磁北を示す。また挿入図の一部に国土地理院発行の25,000分の一の地形図を使用した。
- 8 発掘調査、資料整理を通じて、丸亀市開発整備課及び丸亀市教育委員会からは適切な助言を頂き、また丸亀市金台町地元有志の方々からもご支援を頂いた。

発掘調査及び資料整理参加者  
吉井 繁美

四国学院大学学生

1999年度卒業	浅野 信	近藤 有紀
(考古学)	竹下 諒乃	壇上 治樹
	沼田 宏隆	細谷 美恵
	吉田 竹彦	
4 回 生	岡山 和史	斉藤 智嗣
(考古学)	白神 賢士	高谷 安希
	中谷 忍	溝淵 盛治
	桃田 昭芳	森長 亮介
3 回 生	小野 博史	鳥飼 完
(考古学)	平松 広成	藤井 大輔
	峰松 一馬	山内 宗匡
	山内 善文	吉田 健一
2 回 生	松浦幸次郎	川人 知見
(考古学)	川真田陽一	蛸谷 浩美
	平野 順	細川 大介
	丸山 佳章	山中 草

調査協力機関

財団法人元興寺文化財研究所  
アース開発株式会社  
コスモ土木株式会社

# 目次

目次	1
はじめに	3
例言	4
目次	5
<b>第I章 中ノ池遺跡の立地</b>	
第1節 中ノ池遺跡の立地	11
<b>第II章 調査区の設定と調査の経過</b>	
第1節 調査区の設定	13
第2節 調査の経過	15
1. 第二次調査発掘日誌抄	
2. 第三次調査発掘日誌抄	
<b>第III章 二次調査</b>	
第1節 二次調査の概要	17
1. S調査区/2. N調査区/3. E調査区	
第2節 S調査区	20
1. S1調査区/2. S1調査区(貯水槽)/3. 溝・S1-SD-1	
4. 溝・S2-SD-2/5. 溝・S3-SD-1/6. 溝・S3-SD-2	
7. S3調査区	
第3節 N調査区	27
1. N1調査区配石遺構/2. 溝・N1-SD-1/3. 溝・N1-SD-2	
4. 溝・N2-SD-1/5. 溝・N3-SD-1/6. N2調査区	
第4節 E調査区	33
1. 溝・E1-SD-1/2. 溝・E4-SD-1/3. E4調査区	
4. E5・6調査区	
<b>第IV章 三次調査</b>	
第1節 第一調査区	37
第2節 第二調査区	41
第3節 第三調査区	43

## 第V章 遺物・二次調査

S調査区出土土器	48
1. 溝・S1・2調査区/2. 溝・S1-SD-1/3. 溝・S2-SD-2	
4. S3-SD-1/5. S3-SD-2	
N調査区出土土器	66
1. N1調査区/2. N1-SD-1/3. N1-SD-2	
4. 溝・N2-SD-1/5. 溝・N3-SD-1	
E調査区出土土器	91
1. 溝・E1-SD-1/2. 溝・E4-SD-1/3. E4-E5調査区	
石器	104
1. S2-2/2. S3調査区/3. S1-SD-1	
4. S3-SD-1/5. S3-SD-2/6. N1-SD-1	
7. N1-SD-2/8. N2-SD-1/9. E調査区	

## 第VI章 遺物・第三次調査

第一調査区出土土器	109
第二調査区出土土器	116
第三調査区出土土器	117
石器	125
1. 第一調査区/2. 第二調査区/3. N8-SD-2	

## 表目次

表1	第一調査区N4第二層ビット計測値	31
表2	第一調査区N4第三層ビット計測値	31
表3	第二調査区ビット計測値	32
表4	N1区出土遺物集計分類表	36
表5	N2区出土遺物集計分類表	37
表6	N2SD-1出土遺物集計分類表	39
表7	N2SD-2出土遺物集計分類表	43
表8	N2SD-3出土遺物集計分類表	45
表9	N2SD-4出土遺物集計分類表	47
表10	N3区出土遺物集計分類表	48
表11	N3SD-1出土遺物集計分類表	50
表12	N3区集石出土遺物集計分類表	61
表13	N4区出土遺物集計分類表	62
表14	N4区第三層出土遺物集計分類表	64
表15	第二調査区出土遺物集計分類表	65
表16	第三調査区出土遺物集計分類表	67
表17	中ノ池遺跡(第一調査区)出土石器の一覧表	105
表18	石器一覧表	111

## 図版目次

巻頭図版1	第一調査区全景
巻頭図版2	N3SD-1南壁面
図版1	第一調査区全景
図版2	第一調査区N4区
図版3	N3SD-1
図版4	N2SD-1
図版5	N2SD-1
図版6	第一調査区南壁断面
図版7	N3SD-1南壁断面
図版8	N2SD-1南壁断面
図版9	N2SD-2南壁断面
図版10	N1SD-1・2
図版11	N2SD-3
図版12	N2SD-4
図版13	N4調査区第二層
図版14	N4調査区第三層
図版15	N4調査区出土集石
図版16	N4調査区第三層
図版17	N4調査区・N4SD-1
図版18	N4調査区・N4SD-1
図版19	N3区集石
図版20	N3区集石
図版21	第二調査区全景
図版22	第二調査区南断面
図版23	第三調査区北から
図版24	第三調査区北から
図版25	第三調査区W5SD-1
図版26	N2SD-1出土壺
図版27	N2SD-2出土壺
図版28	N3SD-1出土壺
図版29	N3SD-1出土壺
図版30	N4区出土壺

図版31	N3SD-1出土壺
図版32	N3SD-1出土壺
図版33	N2区出土壺
図版34	N2区出土壺
図版35	N4区出土壺
図版36	N2SD-1出土壺
図版37	N3SD-1出土壺
図版38	N3SD-1出土壺
図版39	N2SD-1出土壺
図版40	N3SD-1出土壺
図版41	N3SD-1出土壺
図版42	N3SD-1出土壺
図版43	N2SD-1出土壺
図版44	N2SD-1出土壺
図版45	N3SD-1出土壺
図版46	N2SD-1出土壺
図版47	N2SD-1出土壺
図版48	N1区出土壺
図版49	N2SD-2出土壺
図版50	N2SD-4出土壺
図版51	N2SD-3出土壺
図版52	N2SD-1出土壺
図版53	N3SD-1出土壺
図版54	N2SD-1出土壺
図版55	N2SD-1出土壺
図版56	N2SD-1出土壺
図版57	N2SD-1出土壺
図版58	N2区出土壺
図版59	N2区出土壺
図版60	N3SD-1出土壺
図版61	N2区出土壺
図版62	N2区出土壺
図版63	N3SD-1出土壺
図版64	N3SD-1出土壺
図版65	N2区出土壺
図版66	N2SD-1出土壺
図版67	N5区出土壺
図版68	N2SD-2出土壺
図版69	N3SD出土壺
図版70	N3SD-1出土壺
図版71	N3SD出土壺
図版72	土師及び紡錘車
図版73	N3SD-1出土木製品
図版74	N3SD-1出土木製榫柱鑑定写真
図版75	N3SD-1出土木枕
図版76	N3SD-1出土木杭榫柱鑑定写真
図版77	N4区出土サマカイト剥片 1
図版78	N4区出土サマカイト剥片 2
図版79	N4区出土サマカイト剥片 3
図版80	N4区出土サマカイト剥片 4
図版81	N4区出土サマカイト剥片 5
図版82	N4区出土サマカイト剥片 6
図版83	石鏃
図版84	石鏃
図版85	石鏃
図版86	石鏃及び石鏃
図版87	石鏃
図版88	石鏃

## 表 目 次

第1表	S1区ビット計測表	20	第19表	溝・N2-S-D-1出土土器底部分類表	86
第2表	S3区ビット計測表	26	第20表	溝・N3-S-D-1出土土器底部分類表	87
第3表	N2区ビット計測表	32	第21表	溝・E1-S-D-1出土遺物分類表	91
第4表	第三調査区ビット計測表	44	第22表	溝・E4-S-D-1出土遺物分類表	92
第5表	第三調査区溝計測表	45	第23表	E4・E5調査区出土遺物分類表	93
第6表	S1・S2調査区出土遺物分類表	47	第24表	第二調査区出土遺物分類表	109
第7表	S1・S2調査区出土土器底部分類表	48	第25表	第二調査区包含層出土遺物分類表	115
第8表	溝・S1-S-D-1出土遺物分類表	52	第26表	第二調査区溝・N8-S-D-1出土遺物分類表	115
第9表	溝・S1-S-D-1出土土器底部分類表	53	第27表	第二調査区溝・N8-S-D-2出土遺物分類表	115
第10表	溝・S2-S-D-2出土遺物分類表	54	第28表	第三調査区包含層出土遺物分類表	118
第11表	溝・S2-S-D-2出土土器底部分類表	55	第29表	第三調査区ビット内出土遺物分類表	118
第12表	溝・S3-S-D-1出土遺物分類表	57	第30表	第三調査区溝(S-D)出土遺物分類表	118
第13表	溝・S3-S-D-2出土遺物分類表	64	第31表	土器一覽表 二次調査	127
第14表	N1調査区出土遺物分類表	66	第32表	石器一覽表 二次調査	134
第15表	溝・N1-S-D-1出土遺物分類表	69	第33表	土器一覽表 三次調査	138
第16表	溝・N1-S-D-1出土土器底部分類表	70	第34表	石器一覽表 三次調査	140
第17表	溝・N1-S-D-2出土遺物分類表	72			
第18表	溝・N2-S-D-1出土遺物分類表	84			

## 図 版 目 次

図版1	溝・S1-S-D-1	図版33	第二調査区、溝・S-D-01
図版2	溝・S3-S-D-2	図版34	第一調査区、P15区の碑碣
図版3	S1調査区貯水槽出土状況	図版35	第二調査区、溝・S-D-03
図版4	S3調査区ビット群	図版36	第三調査区、溝・ビット群
図版5	S1調査区ビット群	図版37	第三調査区の溝(S-D)
図版6	溝・S3-S-D-2	図版38	第三調査区の溝(S-D)
図版7	溝・S3-S-D-1	図版39	N1-S-D-2出土壺
図版8	溝・S2-S-D-2	図版40	S3-S-D-2出土壺
図版9	溝・N2-S-D-1遺物出土状況	図版41	S2-S-D-1出土壺
図版10	溝・N3-S-D-1	図版42	S3-S-D-2出土壺
図版11	溝・N2-S-D-1	図版43	S3-S-D-2出土壺
図版12	S1調査区配石と溝・N1-S-D-1	図版44	S1-S-D-1出土壺
図版13	N2調査区ビット群	図版45	E2出土壺
図版14	S1調査区・配石遺構	図版46	N2-S-D-1出土壺
図版15	溝・N1-S-D-1	図版47	N2-S-D-1出土壺
図版16	溝・N1-S-D-2	図版48	N2-S-D-1出土壺
図版17	溝・N3-S-D-1	図版49	N2-S-D-1出土壺
図版18	N2調査区ビット群	図版50	S1-S-D-1出土壺
図版19	N2調査区ビット群	図版51	S1-S-D-1出土壺
図版20	溝・E1-S-D-1	図版52	S1-S-D-1出土壺
図版21	溝・E1-S-D-1のド層	図版53	S1-S-D-1出土壺
図版22	溝・E4-S-D-1	図版54	S1-S-D-1出土壺
図版23	E5調査区	図版55	S2-S-D-2出土壺
図版24	E4調査区	図版56	S1-S-D-1出土壺
図版25	E4調査区	図版57	S2-S-D-2出土壺
図版26	E4調査区	図版58	S2-S-D-2出土壺
図版27	第一調査区全景	図版59	S2-S-D-2出土壺
図版28	第一調査区、溝・S-D-2	図版60	S3-S-D-1出土壺
図版29	第一調査区、溝・S-D-1	図版61	S3-S-D-2出土壺
図版30	第一調査区、木組み遺構	図版62	S3-S-D-1出土壺
図版31	第二調査区、溝・N8-S-D-1	図版63	N1-S-D-1出土壺
図版32	第二調査区、溝・N8-S-D-1	図版64	N1-S-D-1出土壺

- 图版65 N1-S D-1 出土壶  
 图版66 N1-S D-1 出土壶  
 图版67 N1-S D-1 出土壶  
 图版68 N1-S D-1 出土壶  
 图版69 N2-S D-1 出土壶  
 图版70 N3-S D-1 出土壶  
 图版71 E1-S D-1 出土壶  
 图版72 N3-S D-2 出土壶  
 图版73 N2-S D-1 出土壶  
 图版74 S1-S D-1, N2-S D-1 出土壶  
 图版75 E4-S D-1 出土壶  
 图版76 N1-2 出土壶  
 图版77 N2-S D-2 出土壶  
 图版78 N2-S D-1 出土壶  
 图版79 N2-S D-1 出土壶  
 图版80 N2-S D-1 出土壶  
 图版81 N2-S D-1 出土壶  
 图版82 N2-S D-1 出土壶  
 图版83 N2-S D-1 出土壶  
 图版84 N2-S D-1 出土壶  
 图版85 N2-S D-1 出土壶  
 图版86 N2-S D-1 出土壶  
 图版87 S1-S D-1 出土壶  
 图版88 S1-S D-1 出土壶  
 图版89 S1-S D-1 出土壶  
 图版90 S1-S D-1 出土壶  
 图版91 S1-S D-1 出土壶  
 图版92 S2-S D-1 出土壶  
 图版93 S3-S D-1 出土壶  
 图版94 S3-S D-1, 2 出土壶  
 图版95 S3-S D-1 出土壶  
 图版96 S3-S D-1, 2 出土壶  
 图版97 S3-S D-1 出土壶  
 图版98 S3-S D-1 出土壶  
 图版99 S3-S D-1 出土壶  
 图版100 S3-S D-2 出土壶  
 图版101 S3-S D-2 出土壶  
 图版102 S3-S D-1, S3-S D-2 出土壶  
 图版103 S3-S D-2 出土壶  
 图版104 S3-S D-2 出土壶  
 图版105 S3-S D-2 出土壶  
 图版106 S3-S D-2 出土壶  
 图版107 S3-S D-2 出土壶  
 图版108 S3-S D-2 出土壶  
 图版109 S3-S D-2 出土壶  
 图版110 S3-S D-2 出土壶  
 图版111 S3-S D-2 出土壶  
 图版112 N2-S D-1 出土壶  
 图版113 N2-S D-1 出土壶  
 图版114 N2-S D-1 出土壶  
 图版115 N2-S D-1 出土壶  
 图版116 N2-S D-1 出土壶  
 图版117 N2-S D-1 出土壶  
 图版118 N2-S D-1 出土壶  
 图版119 N2-S D-1 出土壶  
 图版120 N2-S D-1 出土壶  
 图版121 N1-S D-1 出土壶  
 图版122 N2-S D-2 出土壶  
 图版123 N1区出土壶  
 图版124 N1区出土壶  
 图版125 N1区出土壶  
 图版126 N1区出土壶  
 图版127 N1区出土壶  
 图版128 N1区出土壶  
 图版129 N1区出土壶  
 图版130 N1-S D-1 出土壶  
 图版131 N1-S D-1 出土壶  
 图版132 N1-S D-1 出土壶  
 图版133 N1-S D-1 出土壶  
 图版134 N2-S D-1 出土壶  
 图版135 N2-S D-1 出土壶  
 图版136 N2-S D-1 出土壶  
 图版137 N2-S D-1 出土壶  
 图版138 N2-S D-1 出土壶  
 图版139 N2-S D-1 出土壶  
 图版140 N2-S D-1 出土壶  
 图版141 E5区出土壶  
 图版142 N2-S D-1 出土壶  
 图版143 N1-S D-1 出土壶  
 图版144 N1-S D-1 出土壶  
 图版145 S3-S D-2 出土壶  
 图版146 N1-S D-1 出土壶  
 图版147 第一调查区出土壶  
 图版148 N1-S D-1 出土壶  
 图版149 N1-S D-1 出土壶  
 图版150 N1-S D-1 出土壶  
 图版151 S3-S D-2 出土壶  
 图版152 S3-S D-1 出土壶  
 图版153 S2-S D-2 出土底部  
 图版154 S3-S D-2 出土底部  
 图版155 S3-S D-1 出土底部  
 图版156 N2-S D-1 出土底部  
 图版157 N1-S D-1 出土底部  
 图版158 S1-S D-1 出土底部  
 图版159 S3-S D-2 出土底部  
 图版160 S3-S D-1 出土底部  
 图版161 S3-S D-2 出土底部  
 图版162 N1-S D-1 出土底部  
 图版163 N1-S D-2 出土底部  
 图版164 N2-S D-1 出土底部  
 图版165 N2-S D-1 出土底部  
 图版166 N2-S D-1 出土底部  
 图版167 N2-S D-1 出土底部  
 图版168 N2-S D-1 出土底部  
 图版169 F4-S D-1 出土底部  
 图版170 小形土器  
 图版171 小形土器  
 图版172 土罐  
 图版173 纺轮  
 图版174 小形土器  
 图版175 土罐·门盘形土制品  
 图版176 小形土器  
 图版177 N2-S D-1 出土壶  
 图版178 N2-S D-1 出土壶  
 图版179 S2-S3 调查区出土石器  
 图版180 S1-S D-1 出土石器

- 图版181 S 1-S D-1 出土石器  
图版182 S 3-S D-1 出土石器  
图版183 S 3-S D-2 出土石器  
图版184 S 3-S D-2 出土石器  
图版185 S 3-S D-2 出土石器  
图版186 S 3-S D-2 出土石器  
图版187 S 3-S D-2 出土石器  
图版188 S 3-S D-2 出土石器  
图版189 S 3-S D-2 出土石器  
图版190 S 3-S D-2 出土石器  
图版191 S 3-S D-2 出土石器  
图版192 S 3-S D-2 出土石器  
图版193 S 1-S 3-S D-1 出土石器  
图版194 N 1-S D-1 出土石器  
图版195 N 1-S D-1 出土石器  
图版196 N 1-S D-1 出土石器  
图版197 N 1-S D-1 出土石器  
图版198 N 1-S D-2 出土石器  
图版199 N 1-S D-2 出土石器  
图版200 N 1-S D-2 出土石器  
图版201 N 2-S D-1 出土石器  
图版202 N 2-S D-1 出土石器  
图版203 N 2-S D-1  
图版204 N 4-E 调查区出土石器  
图版205 N 8-S D-1 出土壶  
图版206 N 8-S D-1 出土壶  
图版207 N 8-S D-1 出土壶  
图版208 N 8-S D-1 出土壶  
图版209 N 8-S D-1 出土壶  
图版210 N 8-S D-1 出土壶  
图版211 N 8-S D-1 出土壶  
图版212 N 8-S D-1 出土壶  
图版213 N 8-S D-1 出土壶  
图版214 N 8-S D-1 R 出土壶  
图版215 N 8-S D-1 出土壶  
图版216 N 8-S D-1 出土壶  
图版217 N 8-S D-1 R 出土壶  
图版218 N 8-S D-1 出土壶  
图版219 N 8-S D-1 出土壶  
图版220 N 8-S D-1 出土壶  
图版221 N 8-S D-1 出土壶  
图版222 N 8-S D-1 出土壶  
图版223 N 8-S D-1 出土壶  
图版224 N 8-S D-1 出土壶  
图版225 N 8-S D-1 出土壶  
图版226 N 8-S D-1 出土壶  
图版227 N 8-S D-1 R 出土壶  
图版228 N 8-S D-1 出土壶  
图版229 N 8-S D-1 出土壶  
图版230 N 8-S D-1 出土壶  
图版231 N 8-S D-1 出土壶  
图版232 N 8-S D-1 出土壶  
图版233 第一、第三调查区出土壶  
图版234 第一、第三调查区出土壶  
图版235 第二调查区出土壶  
图版236 第二、第三调查区出土壶  
图版237 第二调查区出土壶  
图版238 N 8-S D-2 出土壶  
图版239 N 8-S D-2 出土壶  
图版240 第一调查区表上出土石器  
图版241 N 8-S D-2 出土石器  
图版242 N 1-N 2-第一调查区表上出土石器  
图版243 第一调查区表上出土石器  
图版244 N 8-N 8-S D-2-N 9 调查区出土石器  
图版245 N 8-S D-1-N 9 调查区出土石器  
图版246 N 8-S D-2 出土石器  
图版247 N 8-N 8-S D-1 出土石器  
图版248 第一调查区表上出土石器  
图版249 N 2 调查区出土石器  
图版250 第一调查区表上出土石器  
图版251 N 8-S D-1-2 出土石器  
图版252 N 8-S D-1 出土石器  
图版253 N 8-S D-1 出土石器  
图版254 第一调查区表上出土石器  
图版255 N 8-S D-1 出土石器  
图版256 N 8-S D-1 出土石器  
图版257 N 3 调查区出土石器  
图版258 第一调查区表上出土石器  
图版259 N 8-S D-1 出土石器  
图版260 N 8-S D-1 出土石器  
图版261 N 8-S D-1 出土石器  
图版262 N 8 调查区出土石器

# 第I章 中ノ池遺跡の立地



第1図 丸亀西北部地形図

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 中ノ池遺跡 | 4 三条遺跡 |
| 2 田村廃寺  | 5 南橋遺跡 |
| 3 田村池遺跡 | 6 三井遺跡 |

## 第1節 中ノ池遺跡の立地

遺跡は丸亀市金倉町道上に所在する。一帯は丸亀市の郊外とはいえ、まだまだ田園風景が残されている。遺跡の北には堤高4.9m、堤の長さ1100mの平池があり、東には堤高6.3m、堤長928mの先代池がある。しかし1998年10月この平池の南側に香川県立陸上競技場が建設され、あわせて丸亀市が周辺を運動公園として整備することとなった。この

事業の進展に伴って周辺の景観は大きく変化していった。

遺跡の西約500mに金倉川が流れており、この川が旧那珂郡と多度郡の郡境になる。遺跡はこの金倉川の川口からおよそ2.5kmほど遡った東側に位置し、この川によって形成された沖積層が遺跡の基盤となっている。

つぎに遺跡の基盤について、等高線を辿ってみると、遺跡は標高10mから15mの間にあり、15mの等高線は、平池の所で大きく膨らみ、微高地が形成されていることがわかる。



第2図 遺跡周辺の地形

事実、ため池は下流の水田に配水しなければならないために、受益水田よりは高い位置に構築されるのが普通である。あわせて10mの等高線も平池の延長線上がやはり北に膨らんでいることからすると、平池から中ノ池遺跡一帯、さらにその北にかけて微高地が形成されていることが分かる。

ちなみに水田の標高を計ってみると、平池の池尻に近い三次調査の第1調査区の990-1番地が10.94mから11.19mの間にあり、第二次調査のS調査区が11.7mで第二次、第三次調査にかかる調査区では最も高い位置にある。

遺跡の東側、先代池の西方では10.2mとなり、遺跡一帯が最も高く、僅かながら西、東共に低くなる。従ってこの微高地上に道上、中ノ池の集落が形成され、隣接して3か寺も寺院が建設されることとなった。



第3図 中ノ池遺跡調査区設定図

## 第Ⅱ章 調査区の設定と調査の経過

### 第1節 調査区の設定

#### 1 二次調査

二次調査・丸亀市から指示された調査区を  
S・N・Eの3調査区に区分して実施した。

##### 〈S調査区〉

地籍・992-1番地、  
標高・11.26m  
地籍・1010-1番地、  
標高・11.17m  
発掘面積・144.9㎡  
(幅2.3m、長さ63.0m)

##### 〈N調査区〉

地籍・1008番地、  
標高・10.64m  
地籍・1004番地、  
標高・10.59m  
地籍・1003番地、  
標高・10.48m  
発掘面積・161㎡  
(幅2.3m、長さ70m)

##### 〈E調査区〉

地籍・1003番地、  
標高・10.48m  
地籍・994-1番地、  
標高・10.20m  
発掘面積・200.79㎡  
(幅2.3m、長さ87.3m)

【二次調査の調査面積】  
502.78平方m

#### 2 三次調査

丸亀市から指示された調査区を第一から第  
三調査区に区分して実施した。

##### 〈第一調査区〉

地籍・990-1番地、  
標高・10.94m  
発掘面積・200㎡  
(幅4m、長さ50m)

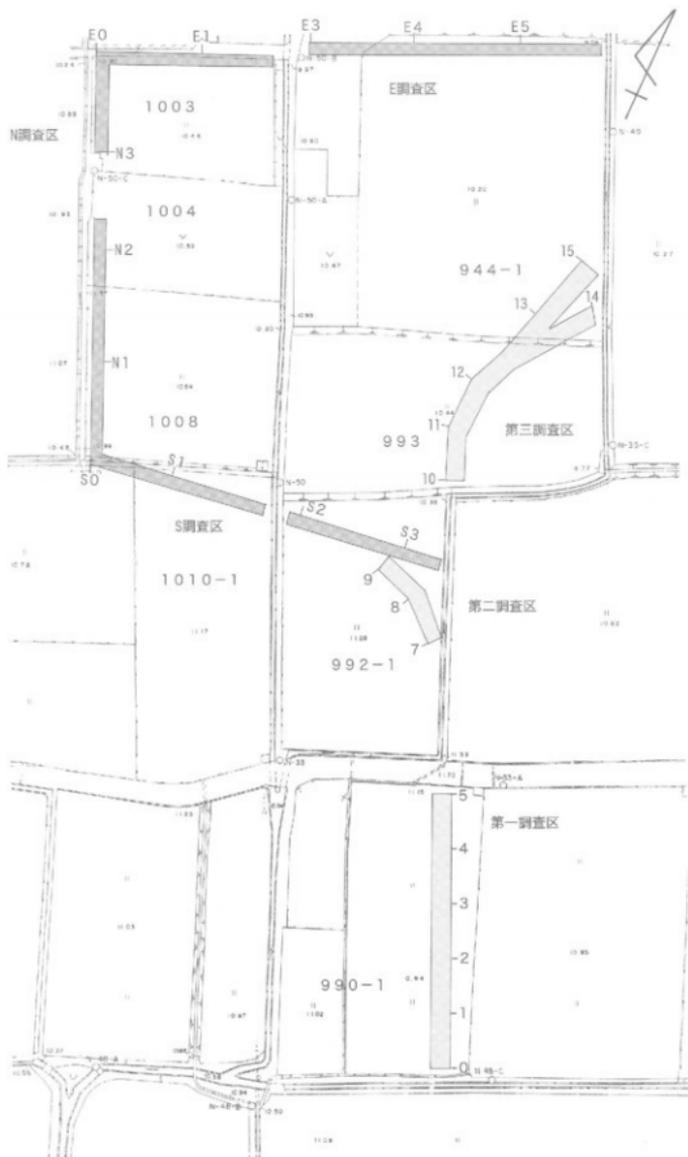
##### 〈第二調査区〉

地籍・992-1番地、  
標高・11.26m  
発掘面積・48㎡  
(幅3m、長さ16m)

##### 〈第三調査区〉

地籍・993番地、  
標高・10.44m  
地籍・994-1番地、  
標高・10.20m  
発掘面積・191㎡  
(幅3m、長さ64m)

【第三次の調査面積439㎡】



第4図 二次・三次調査区設定図



## 第2節・調査の経過

### 1 第二次調査発掘日誌抄

平成9年

9月24日 準備工・現地盤測量

25日 現地盤測量、S、N、E区表土掘削

26日 雨

29日 機械掘削、S4区遺構掘削、ピット検出

30日 機械掘削測量、S3区SD-2人力掘削

10月1日 S調査区人力掘削

2日 雨

3日 S2-SD-2掘削

4日 水替工

5日 水替工

6日 S3-SD-2人力掘削

7日 S3-SD-2人力掘削

8日 S3-SD-2掘削終了・清掃

9日 SD-2壁面調整、S3-SD-2遺物取り上げ、写真

10日 水替工

11日 水替工

13日 S3-SD-2下層掘削、S2調査区掘削

14日 S1、S2区掘削、S3-SD-2写真

15日 S3-SD-1・2掘削終了、S1、2掘下げ

16日 N1区掘削、SD-1、2検出

17日 N1-SD-1・2掘削

18日 水替工

20日 N1-SD-1・2掘削、N2区掘削

21日 N1-SD-1・2掘削、N2-SD-1掘削

22日 N2-SD-1掘削、多数の土器が検出される

23日 N2-SD-1実測、S1-S D-1掘削開始

24日 N2-SD-1遺物取り上げ、S1-SD-1掘削

25日 水替工

26日 水替工

27日 S1-SD-1、N3-SD-1掘削

28日 N3-SD-1、N2-SD-1掘削終了、S1-SD-1掘削

29日 S1-SD-1、N2-SD-3掘削、S4実測、写真、S3-SD-1、2写真撮影

30日 S1、4区ピット検出、写真撮影、N3、4区掘削、E1区掘削

11月3日 水替工

4日 S2-SD-1溝検出、E1-4調査区掘削

5日 S2-SD-1完掘、E1-SD-1検出、S1ピット実測

6日 S1調査区精査

7日 E1調査区掘削

10日 E4区掘削

11日 N調査区写真撮影、E4区掘削

12日 E4-SD-1掘削終了

13日 E4、5区掘削

14日 E5区掘削、清掃、写真

18日 E調査区写真、実測、E1-SD-1実測

19日 E-E調査区断面実測

20日 E-E区断面実測、写真

21日 N調査区深掘り、S-W区深掘り

25日 E区深掘り、実測

26日 雨天休業  
27日 調査区細部点検  
28日 調査区終了点検  
12月4日 撤去

## 2 第三次調査発掘日誌抄

平成10年12月

11日 丸亀市立ち会いでポイントの確認  
14日 杭打ち測量  
15日 杭打ち測量及び安全柵設置  
16日 第三調査区の盛り上部分を機械掘削  
17日 第一、第二、第三調査区盛り上部分を機械掘削  
18日 第一調査区、盛り上除去、表土部分まで機械掘削  
19日 第三調査区人力掘削に入る  
20日 第三調査区人力掘削  
21日 第二調査区も人力掘削、第三調査区N14区で礫床検出  
24日 第二調査区N15区で溝検出、13区でビット検出  
25日 第三調査区の清及びビットの検出

平成11年1月

5日 第一、第二調査区人力掘削、第三調査区遺構検出  
6日 第三調査区遺構検出終了・写真撮影  
7日 第一調査区人力掘削、すき床層以下20cmまで遺物包含層掘削  
8日 第一調査区人力掘削  
11日 第一調査区遺物包含層掘削  
12日 第一調査区遺物包含層掘削  
13日 第一調査区で溝検出、第二調査

区で溝N7-SD-1とN8-SD-1検出

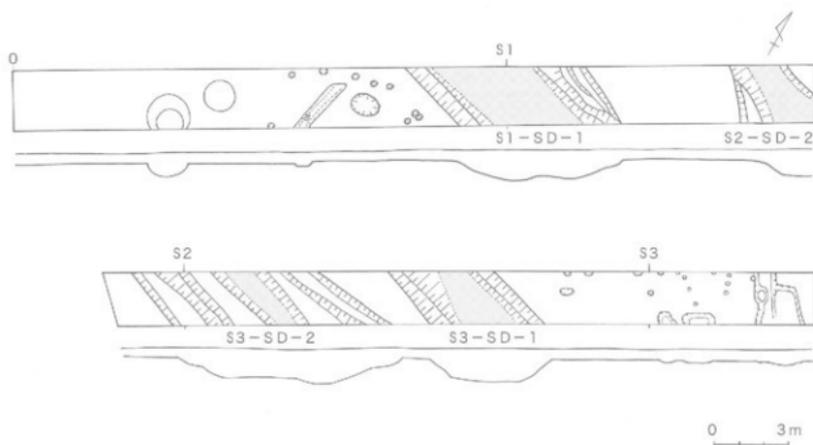
14日 第一調査区溝掘削、第二調査区溝掘削（表土から70cm）  
18日 第一調査区溝検出終了、第二調査区溝N7-SD-1検出終了  
19日 雨天休業  
20日 第一調査区遺物包含層以下20cmを機械掘削、N5-SD-1検出  
第三調査区測量、第二調査区N8-SD-1表土から1mまで掘削  
22日 第二調査区溝完掘、第三調査区測量  
25日 雨天休業  
26日 第三調査区人力掘削、第二調査区測量  
27日 第一調査区掘削、第一調査区測量  
28日 第一調査区黒色ベルト層の検出、第三調査区遺構面の掘下げ  
第二調査区断面図実測、第一調査区写真、測量、断面実測  
29日 第一調査区精査  
2月1日 第一調査区測量、断面実測、第二調査区断面実測、第三調査区掘削終了

2日 第一、第二調査区断面図  
3日 第一調査区平面図及び断面図終了  
4日 実測図等最終チェック（発掘終了）  
5日 調査区埋戻し復元作業  
6日 調査区埋戻し復元作業完了

# 第Ⅲ章 二次調査

## 第1節 二次調査の概要

### 1 S調査区



第5図 S調査区遺構検出状況

#### S調査区

S調査区は、幅2.3m、長さ63mを20m間隔でS1区、S2区、S3区の各調査区を設定した。

その内32.5mまでをS-W区、36.5mから67mまでをS-E区とした。

調査は、表上約20cmは機械掘削を行い、以下は人力掘削をおこなった。この調査によって検出された遺構は以下の通りである。

#### S1区

ピット11基及び溝1条、貯水施設3基、溝・S1-SD-1

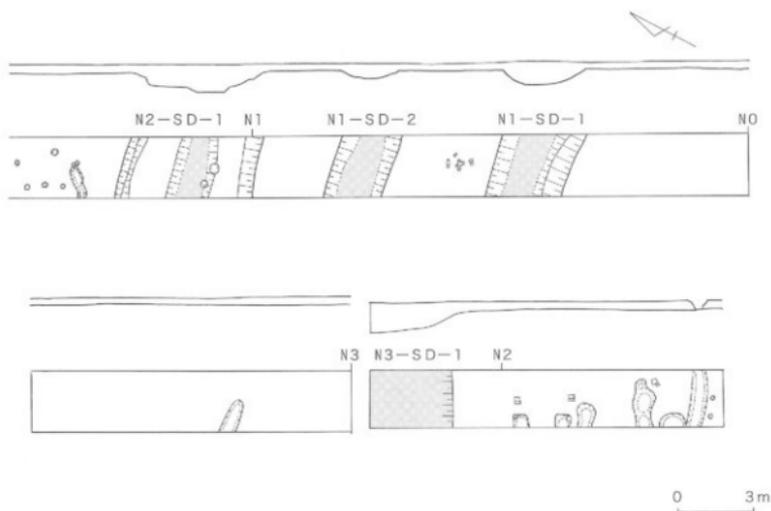
#### S2区

溝・S2-SD-2

#### S3区

ピット11基  
溝・S3-SD-1  
溝・S3-SD-2

## 2 N調査区



第6図 N調査区遺構検出状況

### N調査区

N調査区は、幅2.3m、長さ70mを調査区としたが、45m地点から、15mの区間は調査区間から除外された。従って発掘区延長は50mである。調査にあたっては、20m間隔でN1からN4までの調査区を、設定した。

調査は、表上約15cm程度を機械掘削し、以下は人力によって掘り進めた。検出された遺構は以下のとおりである。

### N1区

配石遺構、  
溝2条  
溝・N1-SD-1  
溝・N1-SD-2

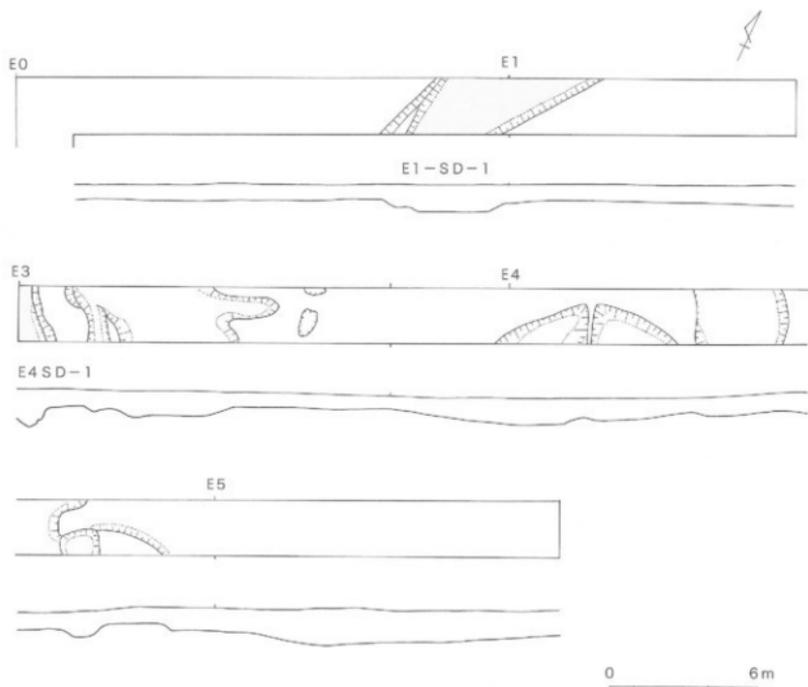
### N2区

溝1条  
ピット11個  
溝・N2-SD-1

### N3区

溝1条  
溝・N3-SD-1  
各溝共に深さ1.5mまで掘り上げ上層の観察、及び遺物包含の状況を観察したが、遺物は検出されなかった。

### 3 E調査区



第7図 E調査区遺構検出状況

#### E調査区

20m間隔でE1からE5区までの調査区を設定した。

調査は表土約20cmまでは機械掘削し、以下は人力によって掘りすすめたところ、E3地点から5区までの区間は、ほぼ全面にわたって、粘土を採掘した痕跡があり、花崗上が入っていた。ただしE1区とE4区から溝がそれぞれ1条検出された。

#### E1区

溝1条

溝・E1-SD-1

幅3.5m、深さ1m

#### E4区

溝1条

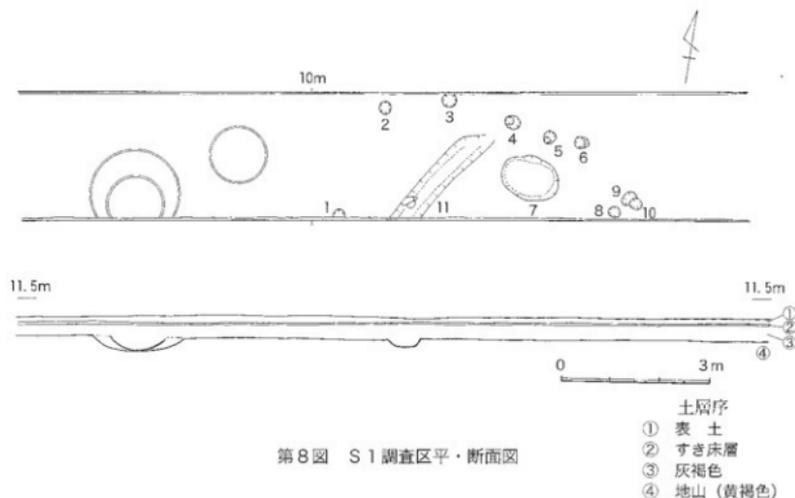
E4-SD-1

幅1.5m、深さ1.5m

E1-SD-1及びE4・5区については約1.5mの深さまで掘削、土層の堆積状況及び遺物の包含の有無について調査したが、遺物は殆ど検出されなかった。

## 第2節 S調査区

### 1 S1調査区



#### S1ピット群

S1調査区からは表土から50cm程掘下げたところで地山に達し、10m地点から、17m地点にかけてピット10基、および溝1条が検出された。

検出されたピットは、第1表のとおりで、7は長径115cm、短径90cmの浅い凹みになっているが、それ以外の1から10までのピットは、直径28cmから20cmまでの比較的小さなもので、深さも6が28.3cm、4が25cmを計るものの、その他のものはいずれも10cm未満に過ぎない。ピット1から9、10までの間隔は6mほどで、或いは住居用の柱穴の可能性もあるが、調査範囲が限られているために、確信は持てない。

溝・11は幅41cm、長さ2.1mで深いところでも11cmで、中から河原石数個が検出されているが、その性格は明らかでない。

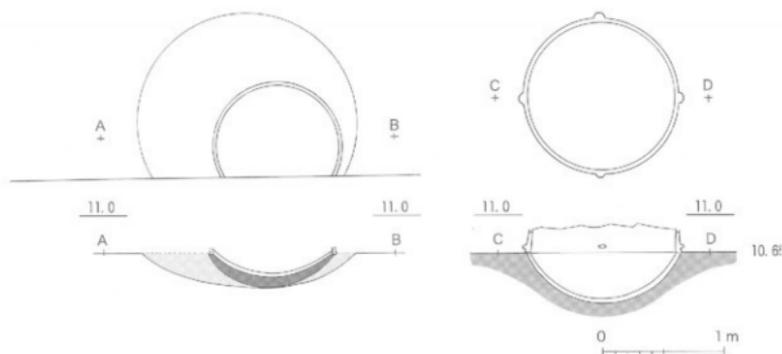
時期的にはピット、溝共に弥生時代に位置づけられるものと思われる。

S1調査区から出土した遺物総数は1036点、その内石器及び剥片等3点であった。

表1 S1区ピット計測表

番号	直径cm	深さcm
1	22×	8
2	20×	7
3	28×	3
4	27×	25.15
5	27×	11.9
6	28×	28.3
7	90×115	10
8	21×	3
9	27.5×	9
10	23.5×	5
11	41×210	

## 2 S1調査区（貯水槽）

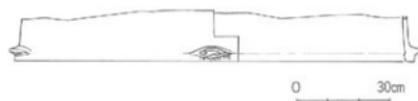


第9図 S1調査区「貯水槽」平・断面図

### S1 貯水槽

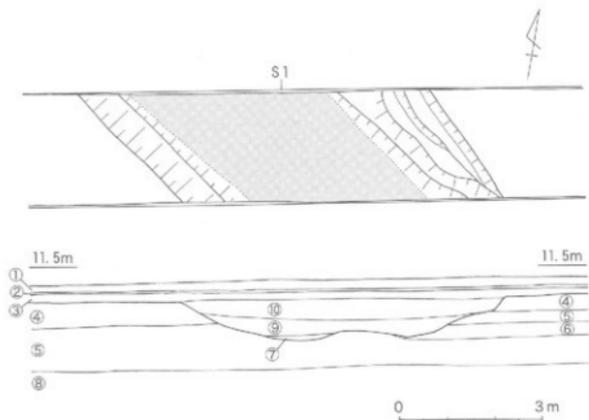
起点から6.5mの地点で両側の壁に接して「貯水槽」2基が重なった状態で検出された。（この種の貯水施設は地方ではノツポと呼ばれるが、ここでは貯水槽として紹介していきたい）2点は中心がずれているところからすると、意識的に重ねたものではないことが分かる。下の貯水槽は、直径182cmで、地山を掘り窪めた状態で検出された。それに対して上の貯水槽は直径104cmで底は凹レンズ状に凹んでおり、砂混じりの粘質土を叩き締めていた。縁には素焼のカメが僅かに残っており、側壁は大カメまたは井戸の枠を使用していたと思われる。

貯水槽3は1、2号のやや北寄りに検出されたもので、これも地山を凹レンズ状に掘り窪めて、底には砂混じりの粘土を叩き締めていた。縁は素焼きの土器を使用しており、対称的に4つの取っ手が付けられていた。高さが僅か15cm程度しか残されていなかったのも、これも井戸枠を使用したものか或いは大カメを転用したものかは明らかでない。時期は明確ではないが、昭和初期の頃に周辺で盛んに設置されていたということであり、本例もその頃のものと思われる。



第10図 S1調査区3号「貯水槽」実測図

### 3 溝・S1-SD-1



第11図 溝・S1-SD-1平・断面図

溝・S1-SD-1は、起点から15.8mと23.1mの地点で検出された。幅は天幅で計測すると、北側が7.4m、南側が6.0mを計測する。溝の方位はN48度Wを示し、地山の標高は10.86m、溝の最も深い所までは1.3mである。側壁の東側は2、3段とやや乱れているが、西側は2段になっている。

溝内部の土層序は最下層が灰色砂質土で、底部は基盤となる灰色砂質土に達している。上層は黒褐色土で多数の遺物を包含しているものの、その下層の灰褐色砂質土からは遺物は比較的少なくなる。

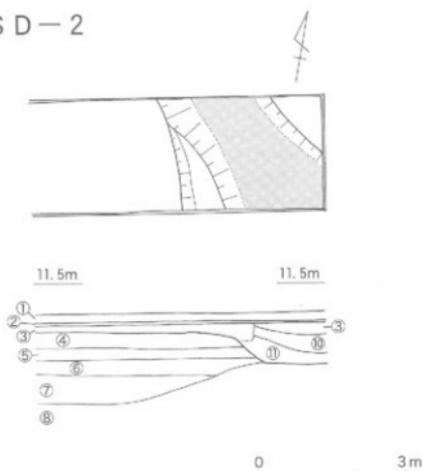
地山と呼んでいる基盤は、東側では黄褐色土層の次に灰色砂質土層、茶灰色砂質土となり、次が灰色砂質土、その下に礫層がある。

ここから検出された遺物総数10,041点、その内石器及び剥片等507点である。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山 (黄褐色)
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑥ 茶灰色砂質土
- ⑦ 灰色砂質土
- ⑧ 礫層
- ⑨ 灰褐色砂質土
- ⑩ 黒褐色

#### 4 溝・S2-SD-2



第12図 溝・S2-SD-2平・断面図

溝・S2-SD-2は、S-W調査区の東の端で検出されたもので北東隅に堅い粘土質の段状のものが検出されており、これが溝の東の端を意味するものかやや疑わしいものがあるが、階段状の下の段ということにして計測すると、幅3.0mを越えており、底幅は1.8mを計る。深さは地山から計測すると70cmに達する。一部かつての試掘溝がかかっている。

方位はN45度Wを示す。

内部の土層序は上部に堅い灰褐色の土層があり、その下に黒褐色の遺物包含層、次に灰茶褐色土層となる。

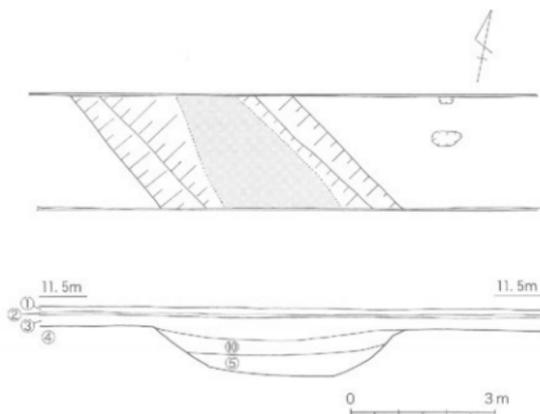
底部は礫層で、この礫層は東に向かうに従って深くなっている。基盤となる地山は黄褐色土層、灰色砂質土、茶灰色砂質土層と堆積し、最下層は礫層となる。なおこの礫層はS2-SD-2では表土から1.1mであるのに対して、西に次第に深くなって2mにまで達する。

出土した遺物総数は833点で、その内石器及び剥片等は63点である。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山(黄褐色)
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑥ 茶灰色砂質土
- ⑦ 灰色砂質土
- ⑧ 礫層
- ⑩ 黒褐色
- ⑪ 茶灰褐色

## 5 溝・S3-SD-1



第13図 溝・S3-SD-1平・断面図

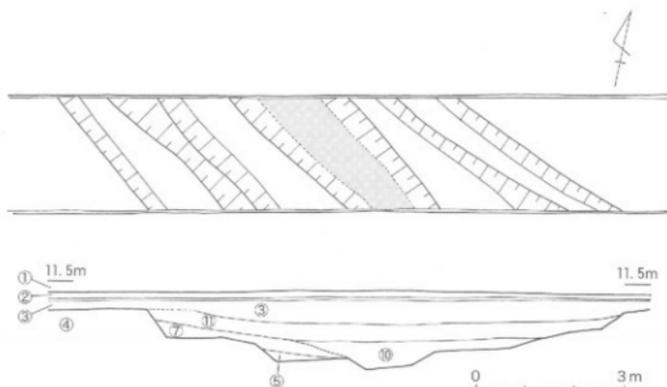
溝・S3-SD-1は、48.75mから、53.3mの間に検出され、天幅は北側では、4.5m、南側で5m、深さは地山から最も深いところを計測すると1mとなる。ちなみに地山の標高は10.77mとなっている。

溝内部の土層序は最下層が灰色砂質土で、その上に黒褐色土層があり、多数の遺物を包蔵していた。

出土した遺物総数は3,180点で、その内石器及び剥片等は182点である。

- 土層序
- ① 表土
  - ② すき床層
  - ③ 灰褐色
  - ④ 地山(黄褐色)
  - ⑤ 灰色砂質土
  - ⑩ 黒褐色

## 6 溝・S3-SD-2



第14図 溝・S3-SD-2平・断面図

溝・S3-SD-2は、37.65mから45.7mに検出され、天幅は北側で8.05m、南側では9.6m深さは、最も深いところで地山から1.1mを計測する。

溝の主軸の方位はN50度Wを示す。

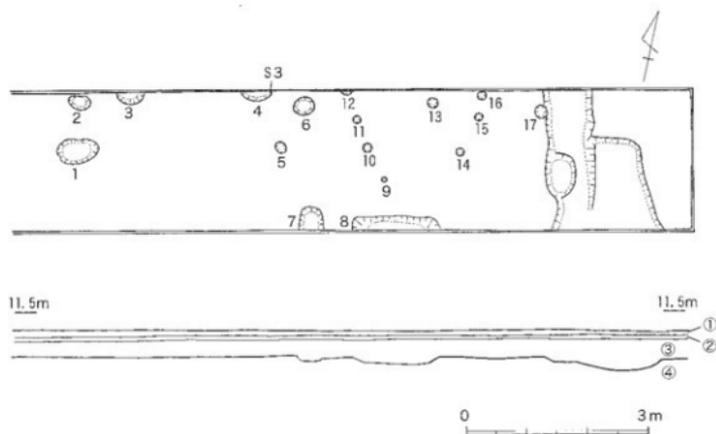
溝内部の土層序は、最上部は灰褐色の堅い粘質土が覆い、その下に茶灰褐色土層が認められた。この茶灰褐色土層の下は溝の東寄りでは黒褐色土層となるものの、西寄りでは灰色砂質土と、灰褐色砂質土が二層になっている。

このことからすると、7・5の土層が溝を埋めた後、新たな溝が形成され、10・11の土層の堆積があったものと思われる。側壁は両側共に二段になっており、底は東側がやや深くなっている。

出土した遺物総数は7,851点に達し、その内石器及び剥片等は649点である。

- 土層序
- ① 表土
  - ② すき床層
  - ③ 灰褐色
  - ④ 地山(黄褐色)
  - ⑤ 灰色砂質土
  - ⑦ 灰色砂質土
  - ⑩ 黒褐色
  - ⑪ 茶灰褐色

## 7 S3調査区



第15図 S3調査区平・断面図

S3調査区からは、地山にビット17基と、溝状の落ち込みが検出された。この溝状の凹みは深いところでも10cmに満たない程でそのありかたからすると、何らかの目的で構築された遺構とは考えられない。

ビットは8が直径73.5cmで深さも30cmを計測しているが、1のように直径66cm×44cm、4の直径55.5cmや、2、3のようにやや大形のビットでも深さはいずれも10cmに満たない浅いものである。それに対して直径20cmに満たない小形のビット9、10、11、12、13、14、15、16、などは深さが20cm以上のものはなく、僅か17が35cmを計測する。

ビットの分布状況やその大きさ、深さなどから、現状ではその性格は明らかでない。

土層序は表土で11.26m、地山の面は10.76mである。

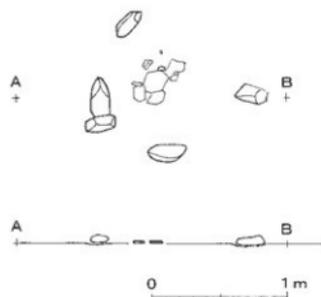
- 上層序
- ① 表土
  - ② すき床層
  - ③ 灰褐色
  - ④ 地山(黄褐色)

表2 S3区ビット計測表

番号	直径cm	深さcm
1	69×44	2
2	38×22	3
3	43×	6
4	55.5×	5
5	21×17	20
6	35×	12
7	39×38	20
8	73.5×	30
9	10×	5
10	15.5×	11
11	13.5×	18
12	19×	3
13	20×	16
14	14×	6
15	16×	3
16	16×	6
17	22×	35

### 第3節 N調査区

#### 1 N1調査区配石遺構



第16図 N1調査区配石遺構

#### N調査区配石遺構

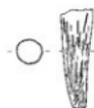
N調査区の起点から12m地点で、地山に接して検出されている。

配石は30cm程の砂岩5個をほぼ円形に配しており、その中央に小石に混じって土器片が検出されている。

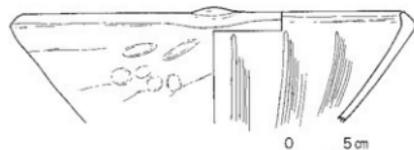
図17は、土釜の支脚である。器面はへら磨きされており、薄くススが付着している。

図18は摺鉢で、口径15.8cmで口縁部は内傾する。内面に3から4本を単位とする刻み目が入っている。焼成は比較的堅めの素焼質で、器面には指頭を押し付けた調整痕がみられる。

なお周辺からはピットは言うまでもなく、生活の痕跡も認められないので、性格については明らかでない。

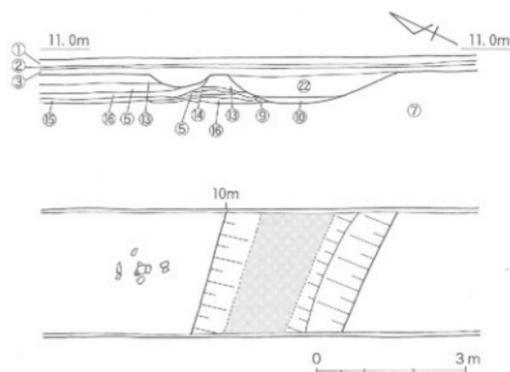


第17図 土釜支脚実測図



第18図 摺鉢実測図

## 2 溝・N1-SD-1



第19図 溝・N1-SD-1

### 溝・N1-SD-1

溝・N1-SD-1は、北東側6.5mから10mの間に検出されている。天場で計測すると北東側で3.5m、南西側は3mを計測し、方位はN80度Eを示す。

深さは、最も深い所で、表土から75cmに達する。内部の土質は、下層に厚さ10cm程の黒褐色の土層がほぼ水平に入っており、その上に暗褐色の土層が厚く覆っている。

遺物の殆どは、この暗褐色の土層に包含されていた。

両側壁共に顕著な段は認められず、全体に凹レンズ状を呈している。

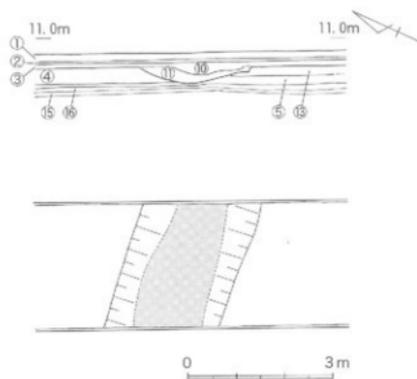
基盤となる地山は上層に黄褐色の土層があり、次に灰色砂質土、茶灰色砂質土、鉄分を含む砂質土と堆積し、溝底あたりの深さから灰色粘質土層になる。

出土した遺物の総数は4,498点、その内石器及び剥片等は226点である。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑦ 灰色砂質土
- ⑨ 灰褐色砂質土
- ⑩ 黒褐色
- ⑬ 茶灰色粘質土
- ⑭ 礫を含む灰質土
- ⑮ 鉄分を含む茶褐色
- ⑯ 鉄分を含む灰砂質
- ⑳ 花崗岩
- ㉒ 暗褐色土

### 3 溝・N1-SD-2



第20図 溝・N1-SD-2

#### 溝・N1-SD-2

溝・N1-SD-2は、北東側14mから16.45m地点に検出され、幅2.45mを計る。深さは最も深いところで、地山から60cmを計測する。溝は両側壁共にレンズ状の凹みをもっている。

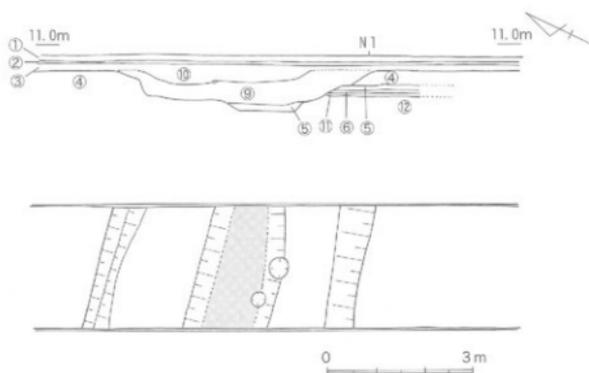
溝内部の上層は、上層が黒褐色、下層は茶灰褐色を呈する。

出土遺物総数2,116点、その内石器及び破片等147点に達する。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 灰色砂質土
- ⑤ 黒褐色
- ⑬ 茶灰褐色
- ⑭ 茶灰色粘質土
- ⑮ 鉄分を含む茶褐色
- ⑯ 鉄分を含む灰砂質

#### 4 溝・N2-SD-1



第21図 溝・N2-SD-1

溝・N2-SD-1は、北東側の19.4m地点から24.9m地点に位置し、幅は北東側で5.5m、南西側5.7m、深さは最も深い所で、地山から80cmを計測する。溝の方位はN75度Eを示す。底は2段になっており、中央部で計測すると上の段が4.35m、下の段が1.35mで20cm程深くなっている。

溝内部の埋土の状況は、上層に黒褐色土層、その下に厚く灰褐色砂質土が堆積している。大部分の土器は、この灰褐色砂質土層から検出されている。

溝の底にビットが2基検出されているが、土質の関係でビット状の凹みになったものと考えている。

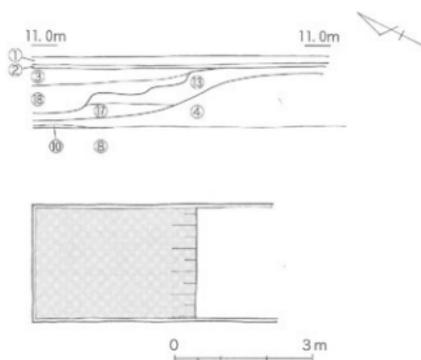
基盤の地山は、黄褐色土層の間に灰色砂質土、茶灰色砂質土、茶灰褐色土層が帯状に入り、その下が灰色粘質土層となる。

溝の底はこの層に達している。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山(黄褐色)
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑥ 茶灰色砂質土
- ⑦ 灰色砂質土
- ⑧ 礫層
- ⑨ 灰褐色砂質土
- ⑩ 黒褐色
- ⑪ 茶灰褐色
- ⑫ 灰色粘質土

## 5 溝・N3-SD-1



第22図 溝・N3-SD-1

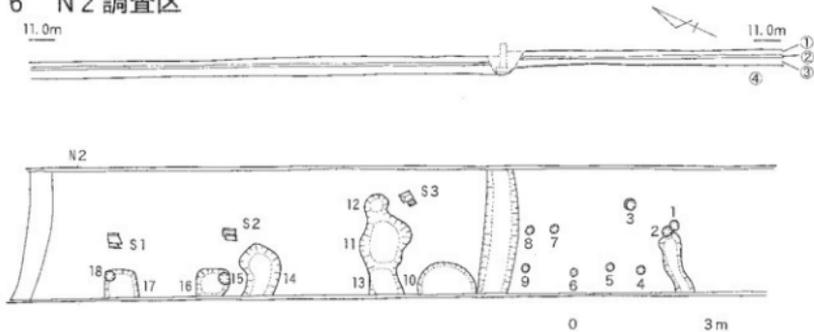
溝・N3-SD-1、40m地点から次第に深くなり深い所で地山から75cmに達する。側壁の断面をみると、階段状の掘り方がみられるが、ごみ捨て場として掘削されていたところである。

溝の幅は北側の掘削が出来なかったので、明らかでないが、状況からすると、相当幅の広い溝であったものと思われる。

### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山(黄褐色)
- ⑧ 礫層
- ⑩ 黒褐色
- ⑬ 茶灰色粘質土
- ⑰ 黄灰色粘質土
- ⑲ 茶褐色粘質土

## 6 N2調査区



第23図 N2調査区平・断面図

### N2調査区

起点から26mから37mの間にピット群が形成されている。

ピットは18基が検出されている。そのうち11、12、13、14は掘りかたが不整形で、遺構というより、後世の攪乱の跡と思われる。また10も中から比較的新しい「ゴミ」が出土しているので、これも弥生時代の遺構とは思えない。

あわせて1、2のピットに接続する形の溝も攪乱痕である。

ピットは2タイプがあり、1は13、16、17で、いずれも方形のプランをもつ。深さも16が20cm、17が30cm、13が15cmあり、ピットとしては比較的しっかりした掘り方をしている。或いは弥生時代の遺構の可能性はあるが、16と17のピットのセンターの間隔は1.1m、16と13の間隔が1.6mで今一つ建造物のピットとしては早計であるかも知れない。

円形のピットは9基が検出されているが、その配列状態からは、住居跡などを復元することは困難である。

なおS1、S2、S3の石の並びはかつてのブドウ畑の際の支柱の基礎である。

また31m地点に調査区を横断する溝が検出されているが、かつての畔の痕跡である。

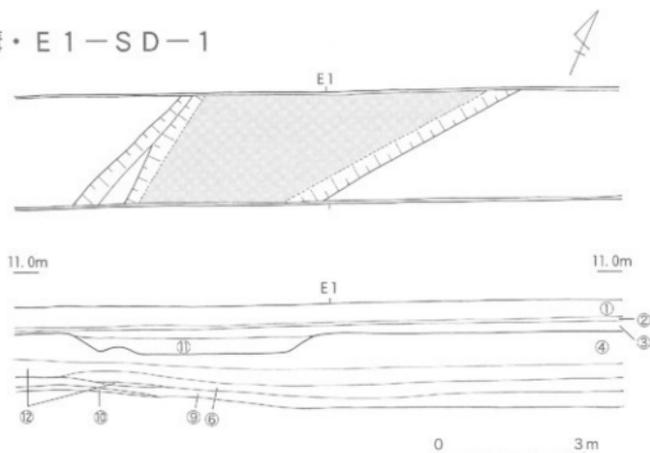
- 上層序
- ① 表土
  - ② すき床層
  - ③ 灰褐色
  - ④ 地山(黄褐色)

表3 N2区ピット計測表

番号	直径cm	深さcm
1	22×	3
2	26×	45
3	17×	20
4	30×	35
5	20×	23
6	16×	16
7	14×	23
8	18×	7
9	20×	19
10	103×	40
11	35×	15
12	18×	8
13	40×	15
14	50×60	16
15	37×32	20
16	10×	30
17	30×28	30
18	13×	35

## 第4節 E調査区

### 1 溝・E1-SD-1



第24図 溝・E1-SD-1平・断面図

起点から20m地点、E1を中心にして溝、E1-SD-1が存在する。幅は北側で6.7m、に対して南側は5mで、北に向かってやや広がっている。深さは最も深い所で、地山から40cmを計り、溝の底もほぼ平坦になっているが、底幅も南側は2.7mに対して北側では5.5mとやや広がっている。

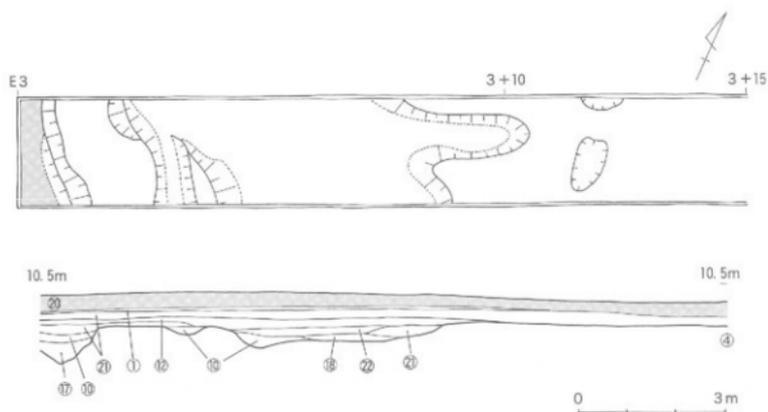
溝内部に堆積する土砂は茶灰褐色の粘質土で、包含する遺物は極端に少ない。また溝の底に黒褐色の土層が形成されていないことからすると、この溝は常に水が流れたり、滞水するような状態ではなかったことを物語っている。

溝の基盤となる黄褐色の土層は、上の層が50cm程の厚さがあり、その下に灰色粘質土、灰褐色粘質土、茶灰色粘質土等、灰色を基調ベルト状の土層が重なり、地山から1.5m程で灰色粘質土となる。この土層には一部黒褐色土層も混じって地下水が湧き出ている。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山(黄褐色)
- ⑥ 茶灰色砂質土
- ⑨ 灰褐色砂質土
- ⑩ 黒褐色
- ⑪ 茶灰褐色
- ⑫ 灰色粘質土

## 2 溝・E4-SD-1



第25図 溝・E4-SD-1平・断面図

溝E4-SD-1はE調査区のE区の最西端に検出されたもので、しかも調査区の関係で部分的なものしか検出されていない。現状は南側で1.4m、に対して南側は0.75mと狭くなっている。

深さは現地表面から1.5mを計り、ちなみに標高は8.65mである。

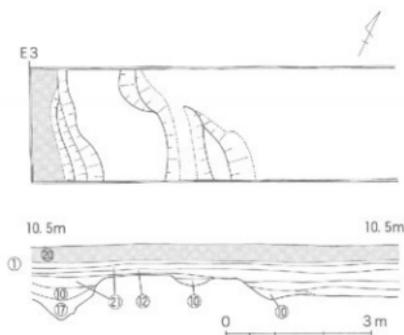
底部はV字状に凹んでいることが注目される。土層序は表土には約30cmにわたって花崗土を敷き詰めてあり、その下に旧耕作土が残されており僅かに旧状を止めている。

地山の表面には灰白色粘質土が薄く覆い、その下に灰色粘質土、次に黒褐色土層がレンズ状に入る。この層が遺物包含層となる。

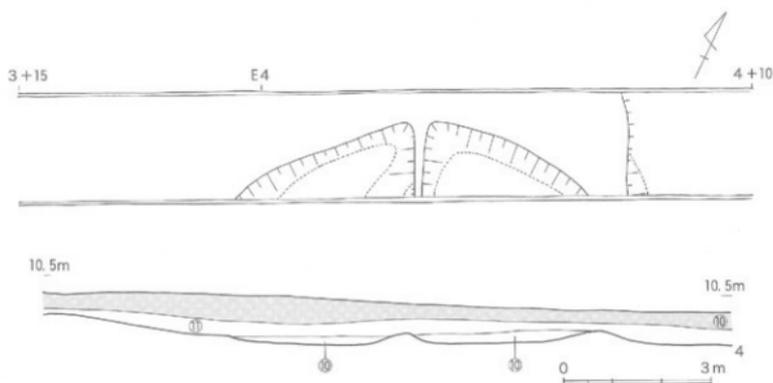
最下層は黄灰色粘質土が入っている、従ってこの段階では地下水の浸透性は少ない。

- 土層序
- ① 表土
  - ⑩ 黒褐色
  - ⑫ 灰色粘質土
  - ⑬ 黄灰色粘質土
  - ⑭ 花崗岩
  - ⑮ 灰白色粘質土

### 3 E4調査区



第26図 E4区遺構平・断面図



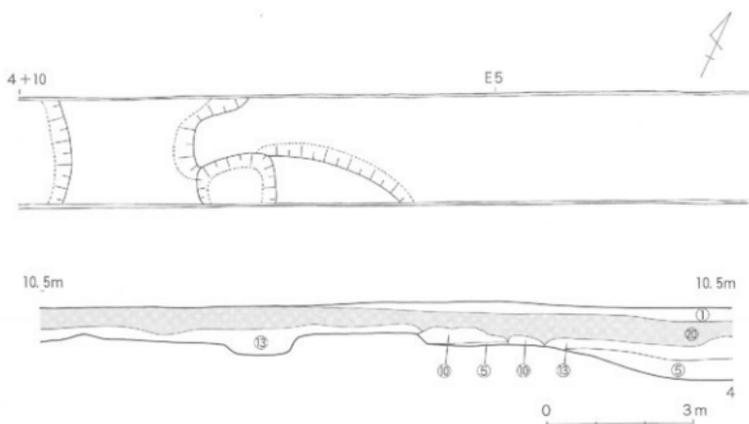
第27図 E5区遺構平・断面図

E4調査区は旧表土上に花崗土が敷きつめられており、溝・E4-S D-1の周辺だけは旧状を止めているが、E3地点を起点として4mから10mの間は地山が掘下げられている。またE4地点では、厚く花崗土が敷き詰められており、その下に茶灰褐色土層、黒褐色土層があり、粘土の採掘の痕跡が窪みになっている。

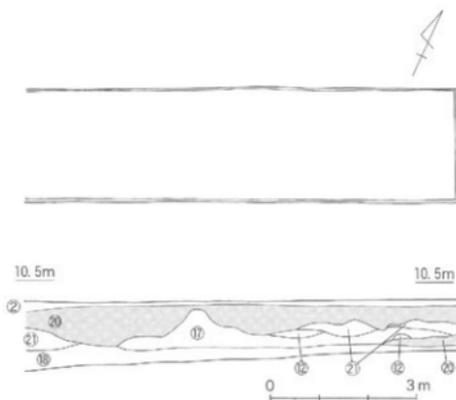
#### 土層序

- ① 表土
- ④ 地山(黄褐色)
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑩ 黒褐色
- ⑪ 茶灰褐色
- ⑫ 灰色粘質土
- ⑬ 茶灰色粘質土
- ⑭ 黄灰色粘質土
- ⑮ 茶褐色粘質土
- ⑯ 花崗岩
- ⑳ 灰白色粘質土
- ㉑ 暗褐色土

#### 4 E5・6調査区



第28図 E5・6区遺構平・断面図



第29図 E6区遺構平・断面図

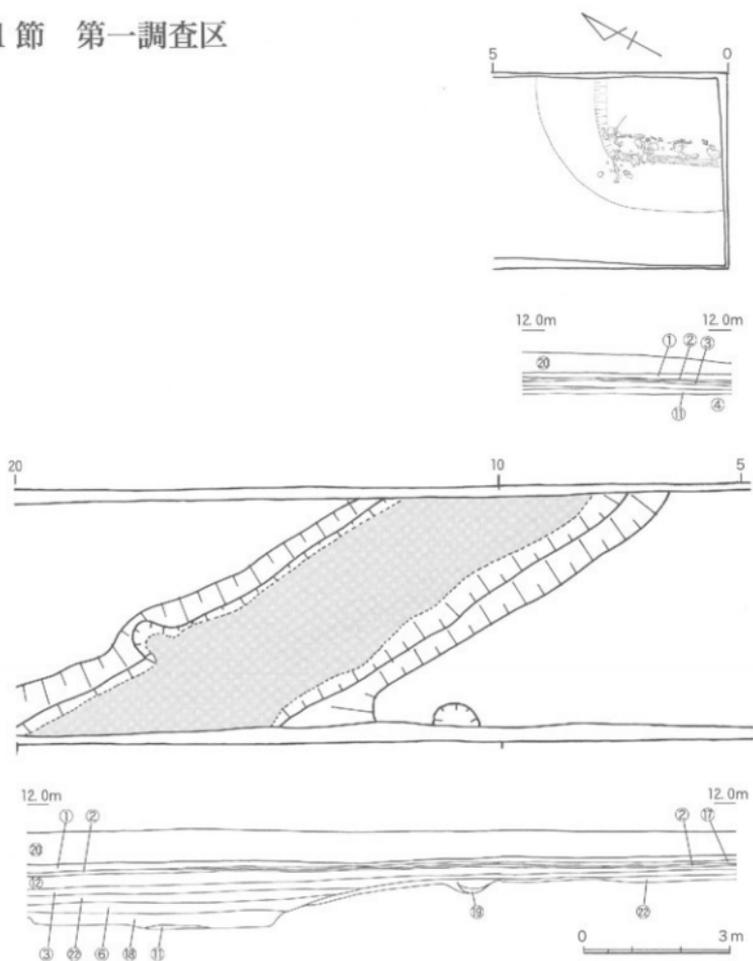
E5調査区は耕作土が上層にあり、その下に花崗土が厚く敷き詰められている。地山は不整形に掘り窪められており、深いところでは1.5mに達している。

#### 土層序

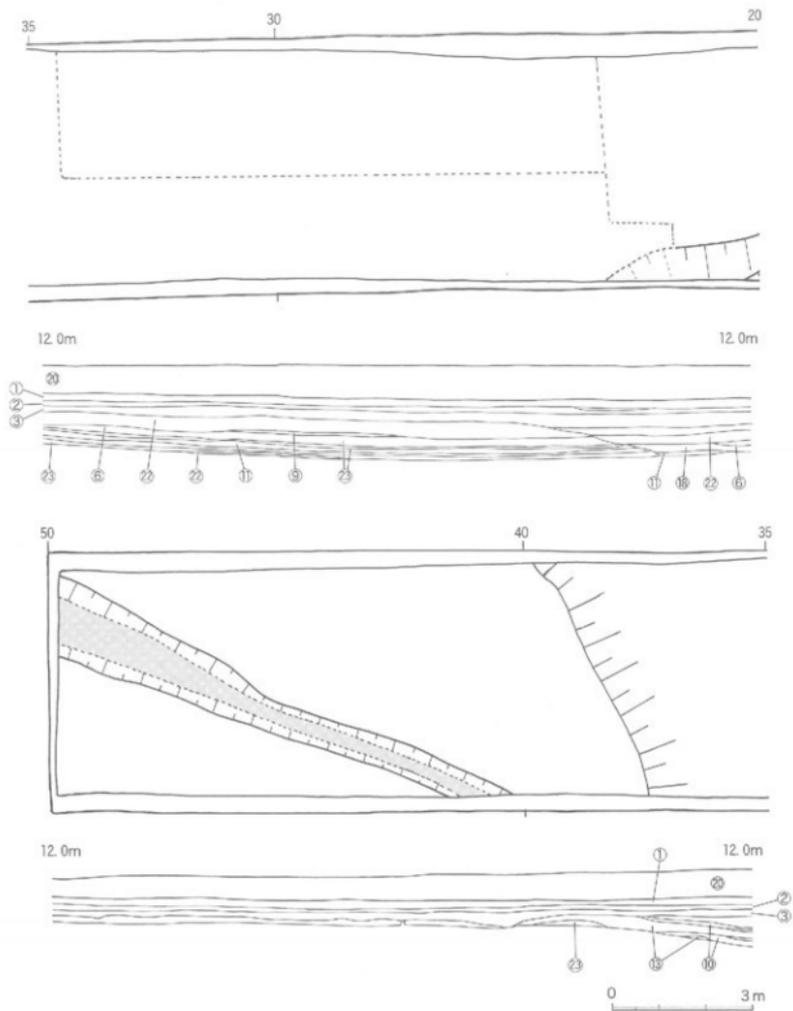
- ① 表土
- ④ 地山（黄褐色）
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑩ 黒褐色
- ⑪ 茶灰褐色
- ⑫ 灰色粘質土
- ⑬ 茶灰色粘質土
- ⑰ 黄灰色粘質土
- ⑱ 茶褐色粘質土
- ⑲ 花崗岩
- ⑳ 灰白色粘質土
- ㉑ 暗褐色土

# 第Ⅳ章 三次調査

## 第1節 第一調査区



第30図 第一調査区平・断面図(1)



第31図 第一調査区平・断面図(2)

### 第一調査区

990-1番地にN28度WEの方位に幅5m、長さ50mの調査区を設定した。

調査当時の土地の状況は駐車場として利用されていた。また駐車場として造成するために、かつての水田におよそ60cm程の盛り土がなされていた。

従って表上から約80cmまでは重機を使用した。

旧表土の標高は11.0mで、基点0m地点の地山の標高は10.63m、起点から50mの調査区の北西端では10.61mで両端での地山の標高はほぼ同じ高さを示している。最も深い地点は、溝SD-1あたりで、9.92mを計り、比高は70cmに達する。この地山に2条の溝が刻まれている。溝・SD-1は起点から12.5mと20mの間に位置し、主軸での方位はN00度東にある。天場の計測幅は、西側7.5m、東側6.7m、深さは最も深い地点でおおよそ90cmに達する。溝・SD-2は調査区の北西隅から主軸をN6度西を示し、約10mが検出されている。

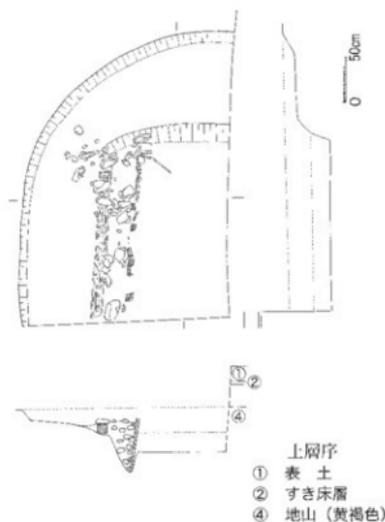
幅は北西部は1.5m、南東部では60cmと狭くなっている。深さは16cmから10cm程で、比較的浅い。

さて壁面の断面土層序を観察すると、27m地点では、標高11.10mから11.50mにかけて弥生時代の遺物包含層<sup>㉒</sup>があり、包含層の下の土層は、10m地点から40m地点にかけて凹む地山を覆っている。このことからすると、弥生時代より以前に存在した凹みが一層埋没し、弥生時代の包含層が形成され、次に弥生時代中期以後10mから25m地点に深い溝が形成される。

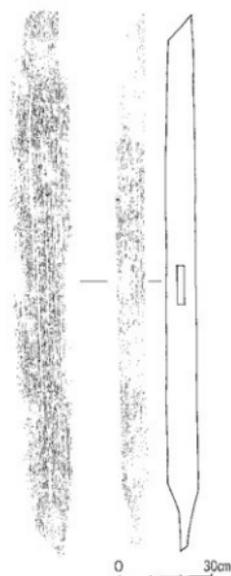
ただし溝・SD-2は弥生時代に形成された可能性がある。

#### 土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山(黄褐色)
- ⑥ 茶灰色砂質土
- ⑨ 灰褐色砂質土
- ⑩ 黒褐色
- ⑪ 茶灰褐色
- ⑫ 灰色粘質土
- ⑬ 茶灰色粘質土
- ⑭ 黄灰色粘質土
- ⑮ 茶褐色粘質土
- ⑯ 黄白色粘質土
- ⑳ 花崗岩
- ㉑ 暗褐色土
- ㉒ 灰褐色粘質土



第32図 木組み遺構平・断面図



第33図 木組みに用いられた木柱

### 木組み遺構

第一調査区の南東部隅で検出されたもので地山を切りこんで構築されている。

木組み遺構は、長さ1.8mに10cmの角柱を横に据え、それに添うように板を矢板状に打ち込んでいる。角柱は第33図に見るようにほぼ中央部にホゾ穴があり、先端部をホゾ穴に直交する形に切り込んで板状に加工し、反対側は斜めに切りこんでいる。何かで使用していたものを転用したものであろうが、ホゾや先端部の加工の状況から、溜め池のユル材のようなものではなかったと思われる。表面調整は凸凹が無く、丁寧であることからすると、ノコによって加工された形跡がある。

角柱から矢板めで20cm 程間隔があるが、本来はもう少し角柱に添うように打ち込まれていたものが、土圧等の影響で張り出したものである。矢板と角柱の間には拳大からやや大きい日の自然石が散乱していた。特に石組みや配石がなされたと言うより、あたかも散乱という表現が最も適切であるかのような状況であった。

自然石は矢板の裏込めに用いられているが、これも粘土状の土に混在しているといった状況であった。

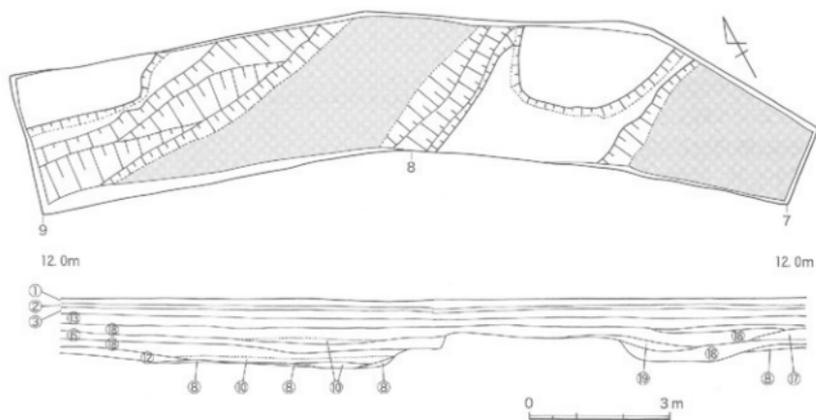
矢板は厚さ1.5cm、幅20cm、長さ60cm 程度のものを用いている。この板もノコによって加工されたものであった。

さてこの矢板列は長さ1.8m程で、しかも一列しか検出されていない。調査区の関係で全容を把握することは不可能であった。

従ってその性格や、目的等はつかみ難い。

地山面よりやや低いことからすると、水田に伴うものとは考えられない。下肥などの貯留施設か、或いは水の取り入れ口の可能性もある。時期的には近現代のものと思われる。

## 第2節 第二調査区



第34図 第二調査区平・断面図

- 土層序
- ① 表土
  - ② 寸色床層
  - ③ 灰褐色
  - ⑥ 茶灰色砂質土
  - ⑧ 礫層
  - ⑩ 黒褐色
  - ⑫ 灰色粘質土
  - ⑬ 茶灰色粘質土
  - ⑰ 黄灰色粘質土
  - ⑱ 茶褐色粘質土
  - ⑲ 黄白色粘質土

## 第二調査区

第二調査区は992-1番地に63㎡を発掘した。調査区の設定は、南側にN7、N8、N9のポイントを設定し、N7とN8の間隔は8m、N8とN9の間隔は8mとした。掘削した面積は48㎡であった。

検出された遺構は溝2条で以後溝・N8-SD-1と、溝・N8-SD-2とした。

### 溝・N8-SD-1

調査区の中央部N8ポイントからN9ポイントにかけて検出されたもので、幅は天幅では西側が階段状に広がっているために約6mに達するが、底幅は2m程度である。

溝底で計測した方位はN65度Eを示す。

溝の深さは東側では底9.496mに対して、壁面の天場は10.215mで0.72m深く、西側では底9.47mに対して10.56mとなり、約1m程高くなっている。

### 溝・N8-SD-2

N8-SD-2は南東の隅に検出されたもので、北東の壁は検出されているが、片方は調査区の壁に阻まれて確認出来なかった。

北東の壁の方位はN58度Eを示す。底の高さは9.645m、壁の天場は10.6mで、地山からの深さは96cmとなる。

南の壁面で実測した断面を観察すると、地山までの土層序は図34の通りで、表土、すき床層（あまり明確でない乱れた状況）堅い灰色粘質土、灰茶色粘質土（遺物は極めて少ない）茶褐色粘質土、（遺物は少なく、摩滅した破片）、黄褐色粘質土（遺物は少ない）、地山となる。

地山については、北側N8、N7の中央部に37cm程の島状の高まりがあり、地山の粘質土を掘り下げた際の取り残しとみられる。

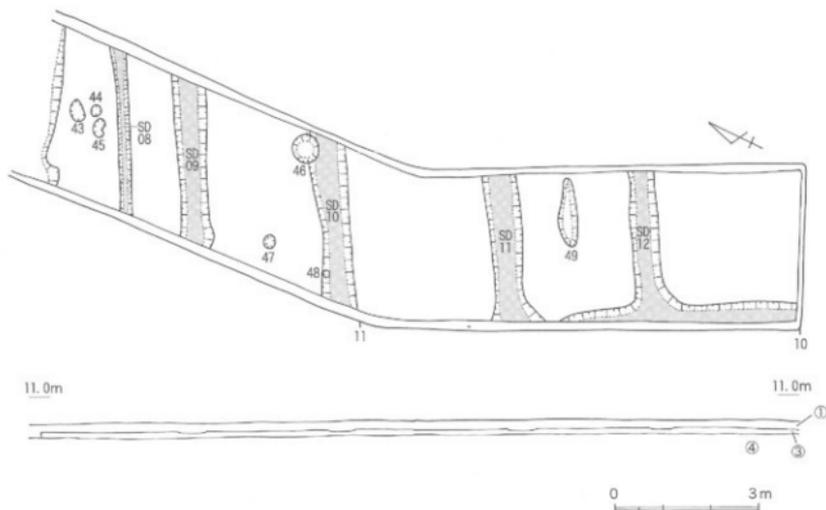
地山から上の土層序の状況からすると、お

そらく相当古い時期に地下げかまたは粘土の採掘が行われたものと思われる。

主たる遺物の出土は地山面から下位の溝からのものであった。

## 第3節 第三調査区

### 第三調査区 (1)



第35図 第三調査区平・断面図 (1)

- 土層序
- ① 表土
  - ③ 灰褐色
  - ④ 地山 (黄褐色)

#### 第三調査区

993番地と994-1番地に調査区を設定した。

調査面積は191㎡で、N10から15番までのポイントを設定した。

検出された遺構は表4のとおりで、溝SD1からSD12までの12条、ピット01から61までの61基である。

SD01は幅2.5m、深さ70cmであるが、一旦発掘された後に埋め戻したもので、中には花崗土が入っていた。方位はE26度Sを示す。

次にSD03は溝の底から弥生土器が検出されているところからすると、弥生時代の溝といえよう。ただしSD03に直交する形のSD02は、深さ7cmで、他の溝と同じように後世の耕作によるものと思われる。

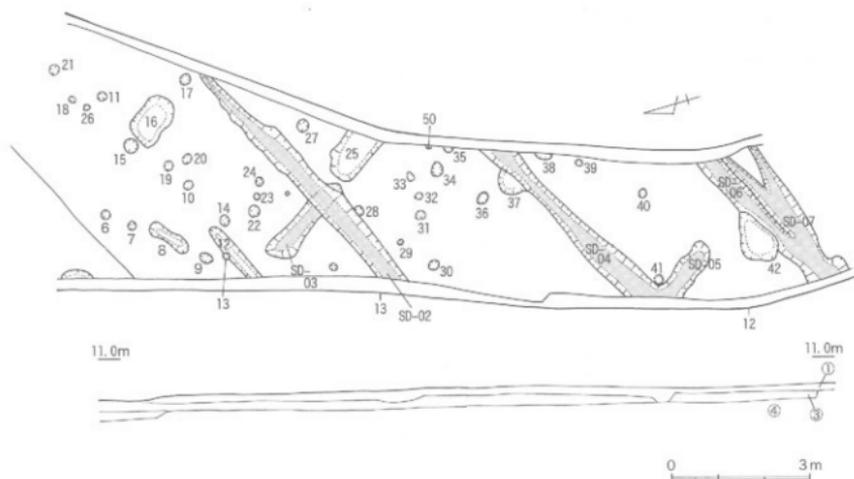
SD05からSD12までの溝はいずれも浅く(表5)方位もおよそN60度E方向にあるところからしても、後世の耕作によるものである。

ピットは61基が検出されている、その大半はポイント12から13に集中している。

P1、P4、P8、P16のような楕円形とか長方形のような不整形なものも若干みられるが、殆どが円形で、深さも20cmに満たないものが多いが、时期的には殆ど弥生時代のものと思われる。

ポイント13から15、14にかけては地山に凹凸が認められ、地下げによるものと思われる。

### 第三調査区 (2)



第36図 第三調査区平・断面図 (2)

表4 第三調査区ビット計測表

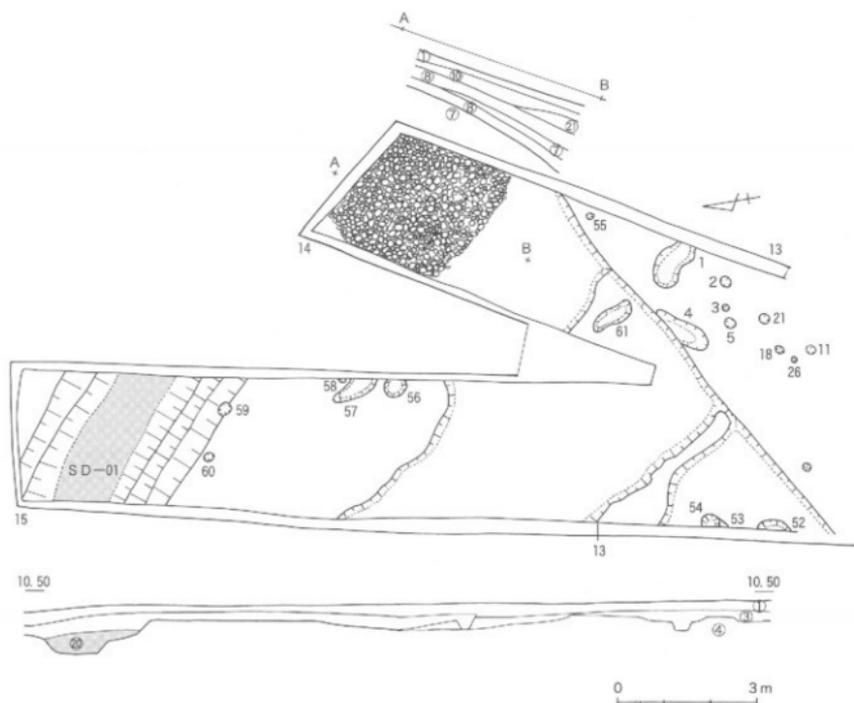
番号	直径cm	深さcm
1	116×42	34
2	21	12
3	11	9
4	130×40	18.5
5	26×23	17
6	15	4
7	13	8
8	106×18	11
9	34×18	8.5
10	14.5×13	13
11	23	9
12	45×18	11
13	12.5×10	5.5
14	14.5	5
15	26	2.5
16	117×57	5.5
17	20	19
18	10.5	5
19	9	9
20	14×5.5	2.5
21	17	10
22	14.5×13	9
23	9	6.5
24	15×12.5	5.5
25	112×70	21

番号	直径cm	深さcm
26	10.5	8
27	23×21	7
28	14.5	5
29	8.5	4
30	24	21
31	15×13	6
32	15.1×9	3.5
33	15×14	6.5
34	28	15
35	16	5
36	25×21	16
37	67×42	15
38	44×15.5	4
39	15	13
40	20×18	17
41	22.5	3.5
42	128×68	6
43	40×28	9
44	17×14.5	11.3
45	41×21	11
46	69×44	18.5
47	20	7.5
48	11×0.5	8
49		
50	25×8	

土層序  
 ① 表土  
 ③ 灰褐色  
 ④ 地山 (黄褐色)

番号	直径cm	深さcm
51	12.5×11	6
52	66×28	4
53	24×17.5	5
54	43×33	22
55	14.5×12	9
56	53×49	2.5
57	102×35	6
58	22×14	3.55
59	30	20
60	18×17	3.5
61	106×30	6

### 第三調査区 (3)



第37図 第三調査区平・断面図 (3)

表5 第三調査区溝計測表

番号	直径cm	深さcm
SD-1	250	70
2	22	7
3	40	9
4	50	30
5	50	30
6	45	5
7	70	5
8	60	9
9	25	3
10	60	5
11	70	7
12	65	6

土層序

- ① 表土
- ② すき床層
- ③ 灰褐色
- ④ 地山 (黄褐色)
- ⑤ 灰色砂質土
- ⑥ 礫層
- ⑦ 灰褐色砂質土
- ⑧ 黒褐色
- ⑨ 灰色粘質土
- ⑩ 茶灰色粘質土
- ⑪ 黄灰色粘質土
- ⑫ 茶褐色粘質土
- ⑬ 花崗岩
- ⑭ 灰白色粘質土

## 第V章 遺物

### ■土器分類基準

出土品の整理・分類は、以下のような手順で実施した。

- 1 水洗
- 2 分類……分類表に従って素分類を行った。

総数／出土品の総数

土器片／壺、甕、底以外の土器片

口縁部／壺、甕の区分はしないで一括している。

底部／壺、甕を問わず、底部のすべて

体部／土器の体部で施文があるもの、または器形の復元が可能なもの

その他／蓋形土器、紡錘車等壺、甕以外の器形または不明なもの

石調／剥片で調整痕のあるもの

石器／石器またはその一部

その他／礫、凹石等

以上の分類は第一段階の素分類で、次の段階の分類、整理でこの数値は変化することもある。この段階ではどの程度の出土品があったかその傾向を知るための資料である。

〈甕形土器口縁部形態による細分〉

比較的その特徴がつかみやすい甕形土器の口縁部、および施文によって細分をおこなった。

口縁部の形態を8タイプ(AからG、その他)に分類し、さらに施文の状態によって3タイプ(1から3)に細分した。

- 1・無文
- 2・5条までの沈線または、刺突文等のあるもの
- 3・6条以上の沈線または、刺突文等のあるもの

〈底部の細分〉

土器底部についての細分は、底の保存状態によって3タイプ(A・B・C)に分類した。

A・ほぼ全形を保っているもの

B・2分の1程度のもの

C・4分の1程度のもの

次に平底か上げ底といった底の状態によって3タイプに分類した。

1・平底

2・上げ底

3・穿孔のあるもの

次に直径によって4タイプに細分した。

1・直径5cmまでのもの

2・直径10cmまでのもの

3・直径15cmまでのもの

4・直径15cm以上のもの

壺形土器については、出来るだけ実測し、実測が不可能なものについては、断面を表示している。

-----甕形土器口縁部分類基準-----



A 口縁端部がくの字に軽く外反する



B 口縁端部が逆L字形に外反する



C 口縁端部に断面三角形の凸帯が上部水平に貼り巡らされる



D 口縁端部に断面長方形の貼り付け凸帯が巡らされる



E 口縁端部に断面三角形の貼り付け凸帯が巡らされる



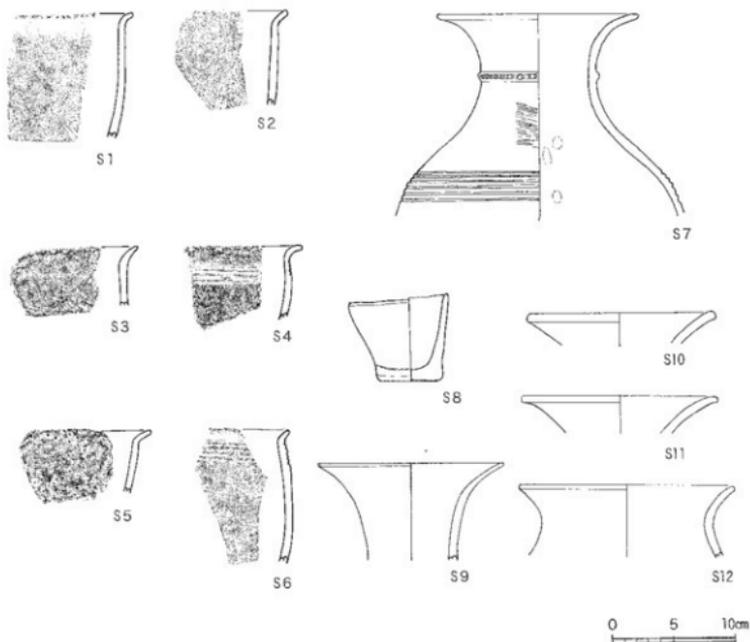
F 口縁端部からやや下位に断面三角形の凸帯が貼り巡らされる



G 口縁端部が丸味を帯びるように折り込まれる

## 第二次調査出土遺物





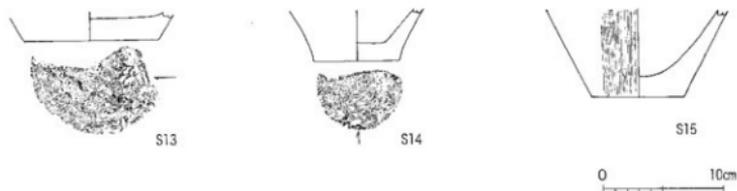
第38図 S1・S2調査区出土土器

表6 S1・S2調査区出土物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	2,751	2,351	88	79	84	4	1	144

■甕形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
34	7		1			9	1			1		6	2		1	2					1			65
41			1			10			1			8			3						1			65
0.63			0.02			0.15			0.02			0.12			0.05						0.02			



第39図 S1・S2調査区出土土器底部

## S調査区出土土器

### 1 溝・S1・S2出土土器

S1・S2区の表上及び第2層からは、総数2,751点の土器片が出土している、その内容は表6の通りである。

その殆どが細片であるが、S7のような壺形土器も見られる。S7は頸部に断面が三角形で刻み目の施された凸帯が巡らされ、肩のところに6条の沈線が施文される。口縁部は頸部から次第に外反し、縁部はほぼ水平に近くなる。それに対してS9は筒形の頸部から、緩やかに外反する長頸壺の様相を呈する。

S10、S11などはS7に近い形態であるが、S12になると、頸部から軽く外反する。従ってここでは壺形土器はS7、S9、S12の3タイプを見ることができる。

甕形土器は、表6のように、総数65点であるが、S1、S2のように口縁部がく字形に軽く外反するタイプが全体の6割を占めており、なかでも無文のものが34点に対して、S4、S6のように5条以内の沈線が施される

ものが7点と数少なく、無文が大きな比重を占めている。次に口縁部に逆三角形の貼り付け凸帯が巡らされたEタイプ、次いで口縁部からやや低く断面三角形の凸帯が貼り巡らされたFタイプが2、3点見られるに過ぎない。

### 土器底部

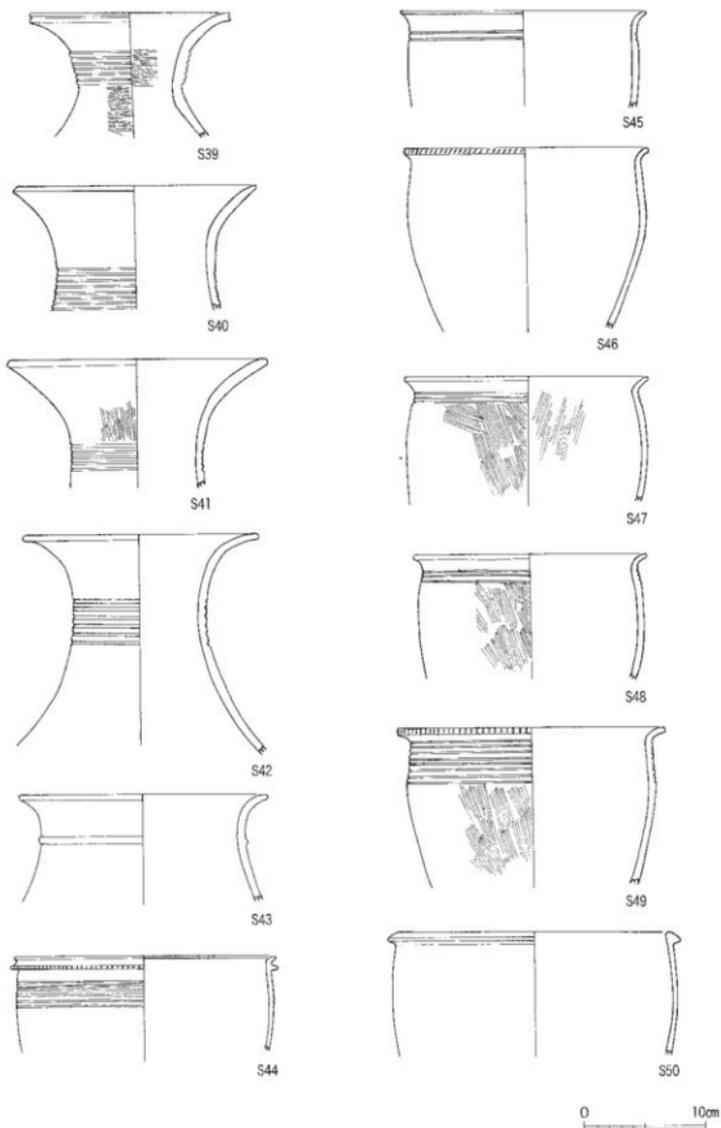
表7の分類表に見られるように、総数73点に対して、67点が残存率25%以下で、この調査区の表上、第2層の土器の出土状態の悪さを物語っている。

ただしS13、14には底部にモミの圧痕が見られる。

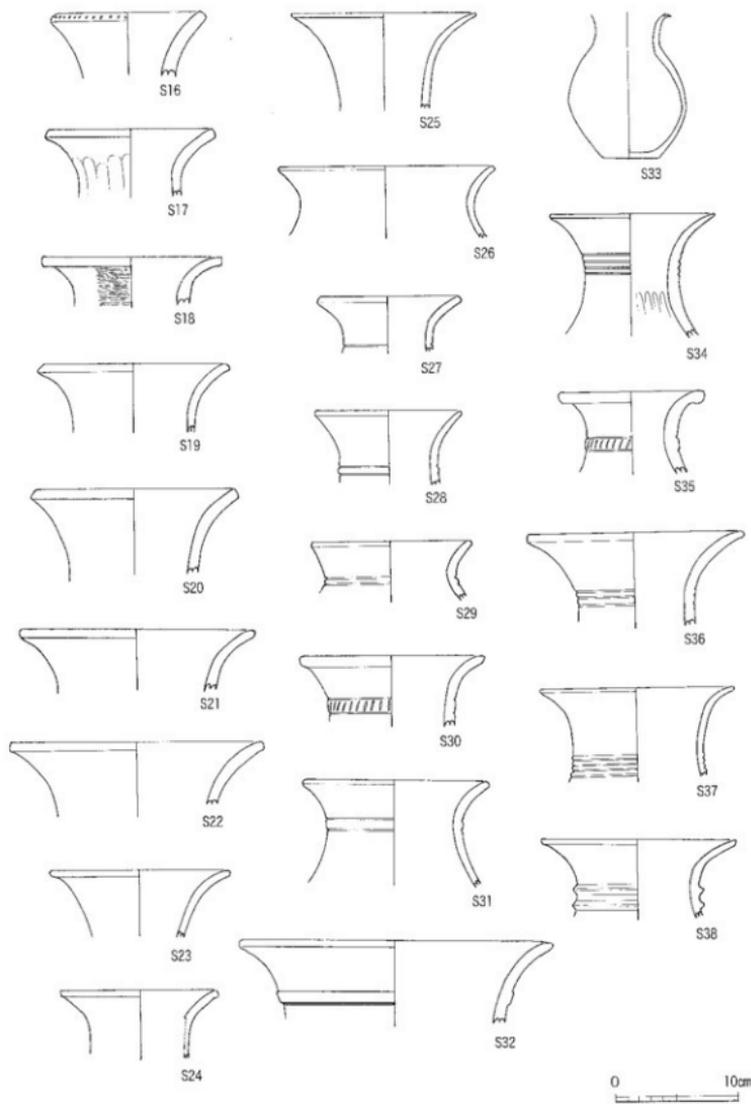
表7 S1・S2調査区出土遺物分類表

■底部分類表

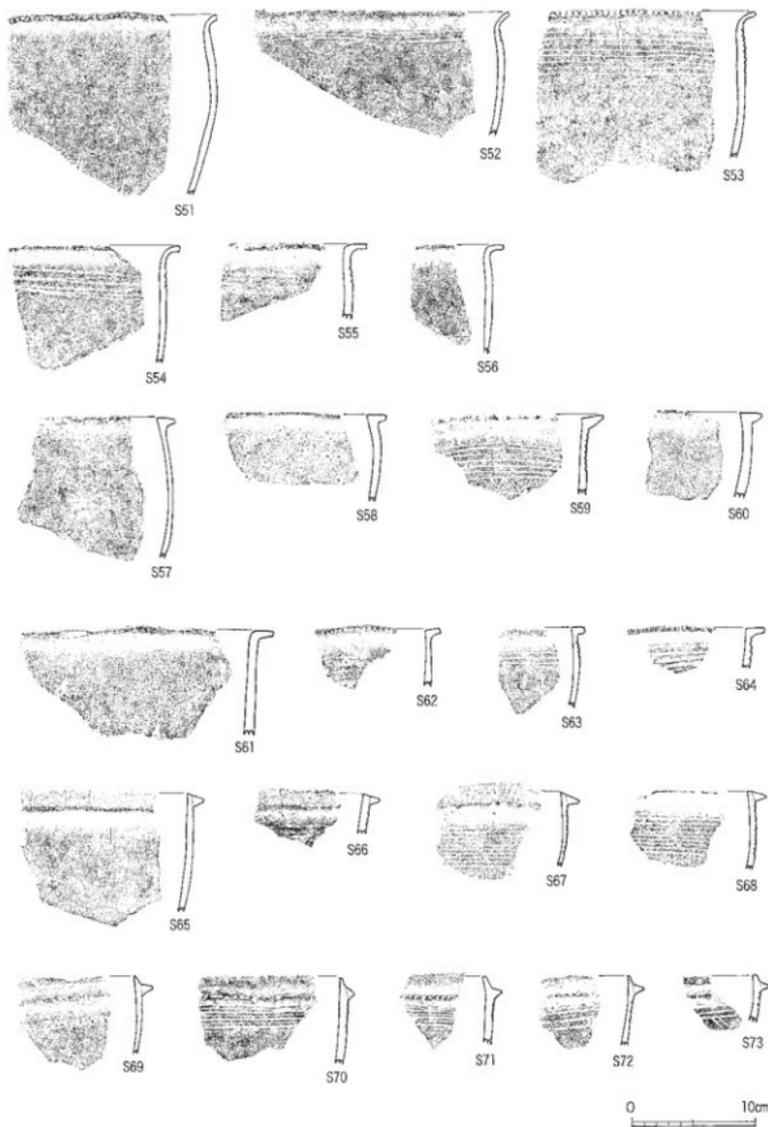
A												B												C																
1				2				3				1				2				3				1				2				3								
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	73
1								3	1			1								6	50	8	3																	73
1												5												67												73				
0.01												0.07												0.92																



第40图 溝・S1-SD-1出土土器



第41图 清·S1-SD-1出土壶形土器



第42图 清·S1-SD-1出土甕形土器

## 2 溝・S1-SD-1出土土器

出土した遺物総数は10,041点に達する(表8)。壺形土器は、S43、S31のように比較的幅広い頸部をもち、軽くかつ短く外反する口頸部が特徴。S43は頸部に削り出し技法による凸帯をもつ、それに対して、S31は削り出し凸帯の両端に沈線を入れている。同じように短くかつ軽く外反する口頸部を持つS17、S18、S26、S29のようなタイプについても、頸部に僅かな凸帯が巡ったり、沈線文が施文されることがある。

S41は、口縁部の広がりに対して頸部が細く、かつ筒形になるタイプで、頸部には沈線文が比較的多く施される。

S42もこのタイプで、口縁の端部は水平状になるまでに広がる。それに対して、S39は口縁の端部がやや広くなり、沈線文が施される。頸部の施文は削り出し凸帯が多条化する。

S33は、口縁部が欠けているが、小形壺で、胴部はあまり膨らまず、球形を呈する。頸部は筒状になり、口縁部が軽く外反する模様である。おそらく短いものと思われる。

壺形土器は、表8のように、291点を分類した、最も多いのが口縁部が軽く外反するAタイプで、全体の52%を占めている。

そのAタイプの中では無文が150点の内半数以上の89点、次に沈線文5条以内が53点、5条以上は8点と極端に少なくなる。

S44は、口縁端部が軽く外反するタイプで

Aタイプに区分しているが、口縁部の直下に刻み目を施した凸帯が巡らされる、比較的高い凸帯が特徴的である。文様は沈線文が6条巡っている。S55、S56はBタイプで、全体の10%に過ぎないが、このタイプには無文より、むしろ沈線が5条内外施されるものが多い。Cタイプは、口縁部に断面三角形の凸帯が施されるもので、その凸帯は上縁が水平になる。全体の15%程度の45点が数えられている。やはり45点のうち29点が無文で、割合からすると無文の比率が高い。

同じように口縁部が凸帯の逆三角形で、端部が斜めに下がるもの、まさしく逆三角形のものでEタイプが34点で全体の12%を占める。その内S67、S68は櫛目文が施されている。

S69からS73までは口縁部端部は直立しやや下がったところに凸帯が巡らされる。

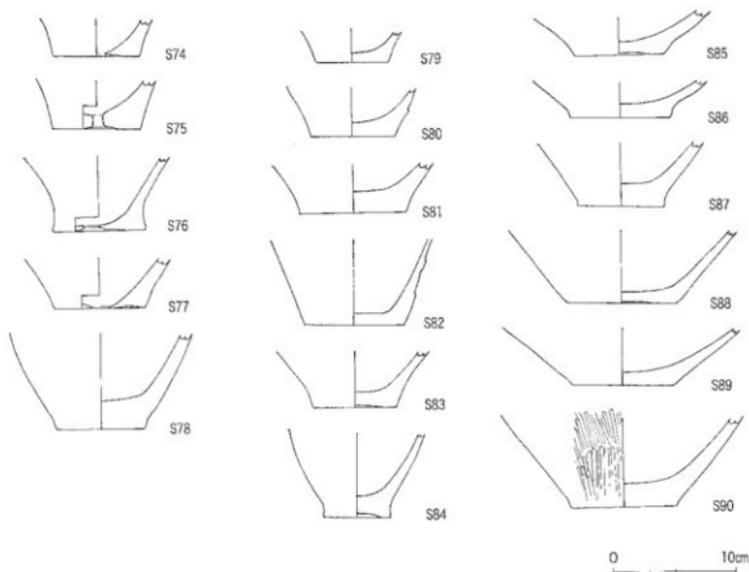
その凸帯には刻み目を入れたものも多く見られる。Fタイプで、このタイプは数少ないが、無文土器より沈線文が5条以上施されるものの割合が高い。しかし何れにしろ全体の4%程度に過ぎない。

表8 溝・S1-SD-1出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石罫	石器	その他
	10,041	8,132	396	297	709	26	20	461

### ■壺形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
89	53	8	9	16	3	29	15	1	11	5	1	19	10	5	1	5	7				4			291
150			28			45			17			34			13						4			291
0.52			0.10			0.15			0.06			0.12			0.04						0.01			



第43図 溝・S1-SD-1出土土器底部

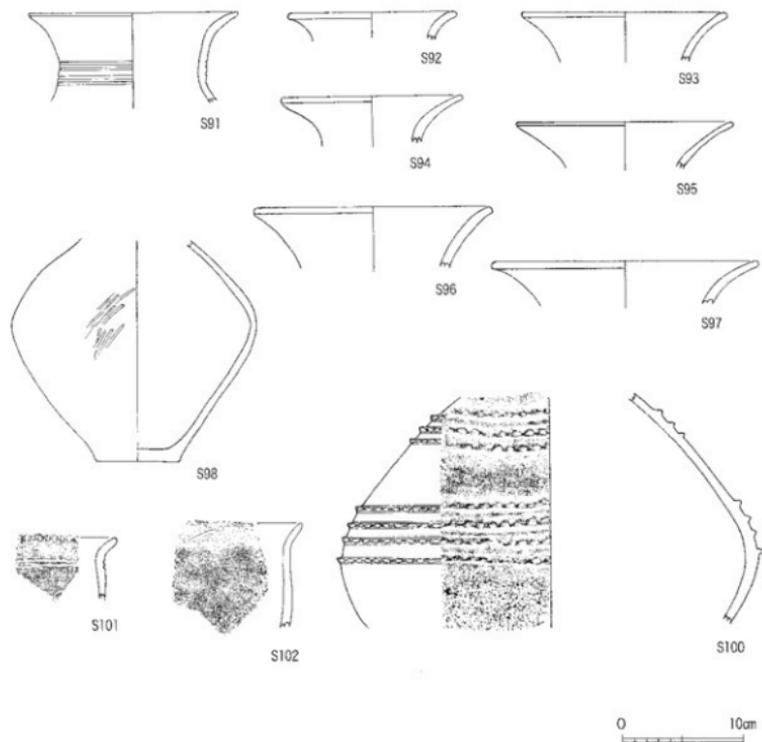
### 底部

275点が計測されている。その内25%程度の残存率のものが全体の63%を占めており、底部といえどもよく破損している。

その内底部に穿孔があるものは7点であるが、すべて直径10cm以内のもので、焼成後の穿孔である。S88、S89、S90等は底が大きくかつ横に広がっているタイプで、おそらく壺形土器の底部と思われる。

表9 溝・S1-SD-1出土土器底部分類表

A				B				C														
1	2	3		1	2	3		1	2	3												
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4							
2	15		4	2	63	6	1	2	1	6		10	158	5	2	2						275
21				81				173				275										
0.08				0.29				0.63														



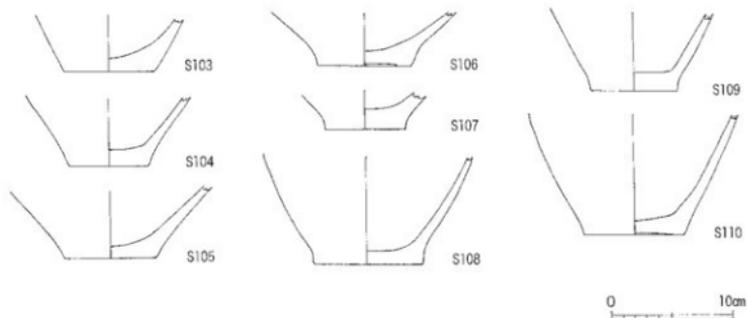
第44図 溝・S2-SD-2出土土器

表10 溝・S2-SD-2出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石罫	石器	その他
	833	622	35	48	65	3	1	59

■壺形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他		
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
9	10		1	3																			
	19			4																			23
	0.83			0.17																			



第45図 溝・S2-SD-2出土土器底部

### 3 溝・S2-SD-2区出土土器

出土総数833点、石器等63点、壺形土器は、S98のように胴に中央部が大きく張り出す形が目される。頸部から上位が欠けているのは残念であるが、口縁部はS92からS97までにみられるように、やや締まった頸部から漏斗状に広がる形になると思われる。

それに対してS91のように、やや太い頸部から軽く外反する口縁をもつものがある。

頸部には削り出し凸帯を挟んで数条の沈線文が施される。

S100は大形壺の胴部で、胴部の直径は35cm前後になる。肩に3条と胴部に4条の凸帯が巡らされ、その凸帯には押圧が施される。凸帯以外の施文はなく、器壁は土器の大きさに比較して薄い。器面の調整は丁寧で、細かいハケ目調整がなされている。

### 甕形土器

計測、観察可能な土器は総数23点に過ぎない。その内Aタイプが19点で全体の83%を占めている。口縁部が軽く外反する無文のものが9点に対し、5条以内の沈線が施されたものは、10点であった。出土数が少ないものの、ここからはAタイプだけで、それ以外のものが見られないのは注目に値する。

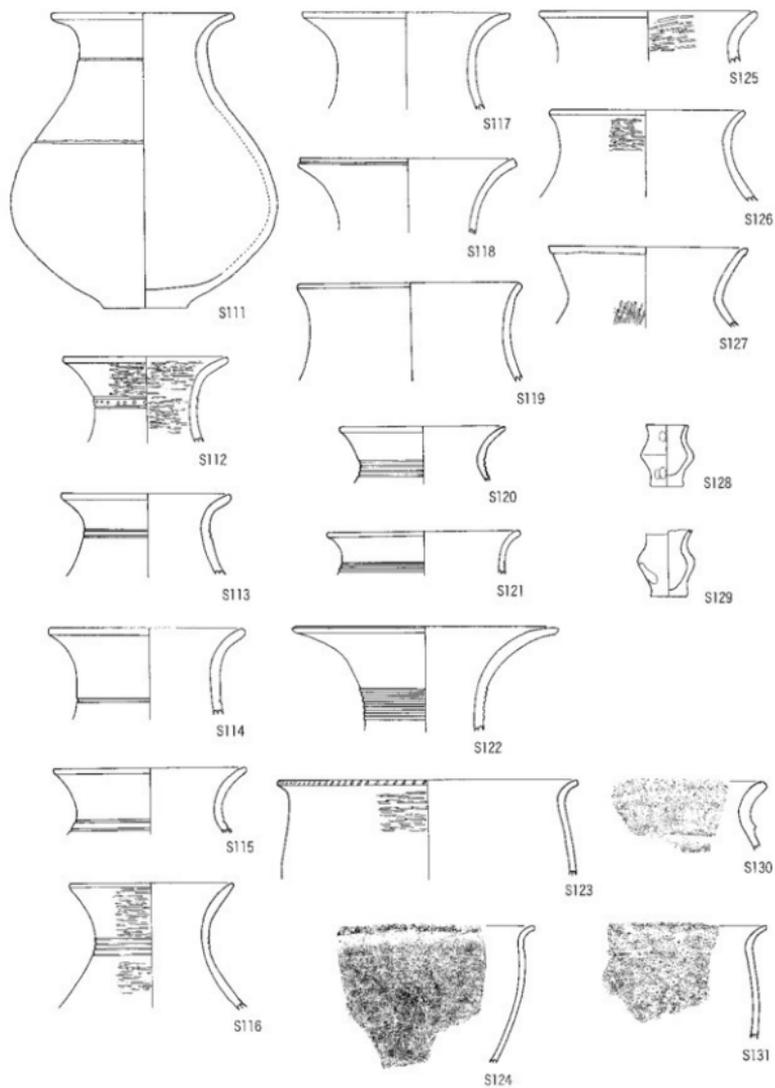
### 底部

34点の底部が検出されているが、ほぼ全体の様相が整っているAタイプが全体の50%に達する。

その内穿孔を施したものが10点、平底が6点である。

表11 溝・S2-SD-2出土土器底部分類表

A									B									C									
1			2			3			1			2			3			1			2			3			
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
																								34			
																								34			
16									3									15									
0.47									0.09									0.44									



第46图 清·S3-SD-1出土土器



第47図 溝・S3-SD-1出土甕形土器

表12 溝・S3-SD-1出土遺物分類表

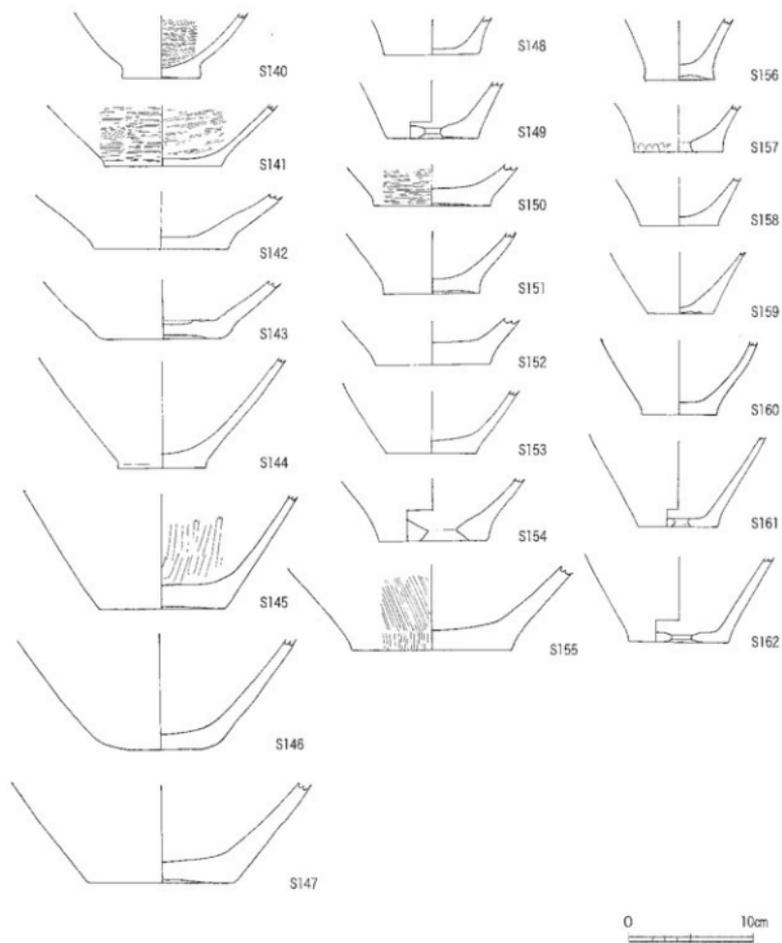
調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石割	石器	その他
	3,180	2,377	153	191	277	9	1	172

■甕形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
35	29	1	1	2		8	2	1				2			1	1								83
65			3			10			1			2			2									83
0.78			0.04			0.12			0.01			0.02			0.02									

■底部分類表

A												B												C																
1				2				3				1				2				3				1				2				3								
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
	14	2			1				4			1	17				1			2				3	78	2			1											126
21												21												84																
0.17												0.17												0.67																



第48图 满·S3-SD-1出土土器底部

#### 4 S3-SD-1 出土土器

総数3,180点の土器、石器類が出土している。

壺形土器S111は、完成品である、高さ24cm、口径16cmで、胴部の重心は土器の中心部よりやや下位にある。口縁部は短くかつ軽く外反し、胴部のやや上位と頸部に各1条の沈線が入っている。S113も口縁部だけであるものの、タイプとしてはS111に近い形態になるものと思われるが、頸部の沈線は2条になっている。

S112とS115は、口縁部が軽く外反する点では、S111に近い形であるが、頸部はそれより細く締まる。S112は頸部の2条の沈線の間に刺凸文が入り、S120やS116に見るように沈線の数も3条以上に多条化する。

S122は、細い頸部から大きく外反する口縁部の縁はほぼ水平になる。頸部には凹線文が6条巡らされる。

S125やS126に見られるように、無文土器で、口縁部が短く、かつ太い頸部から軽く外反するタイプは、胴部が欠けている現状では全容が把握できないのが残念である。

器面の調整は、S112や、S116、S126に僅かにへら磨きの痕跡が認められる。全体に本遺跡の出土土器は、器面の剥離が甚だしく、調整痕の確認の困難なものが多いのが実情である。

S128、S129は、小形手づくね土器で高さ5cm程のものであるが、器面は凹凸の多い粗雑な作りになっている。溝の中から他の土器と共に出土したものであるが、その用途が注目される。

#### 甕形土器

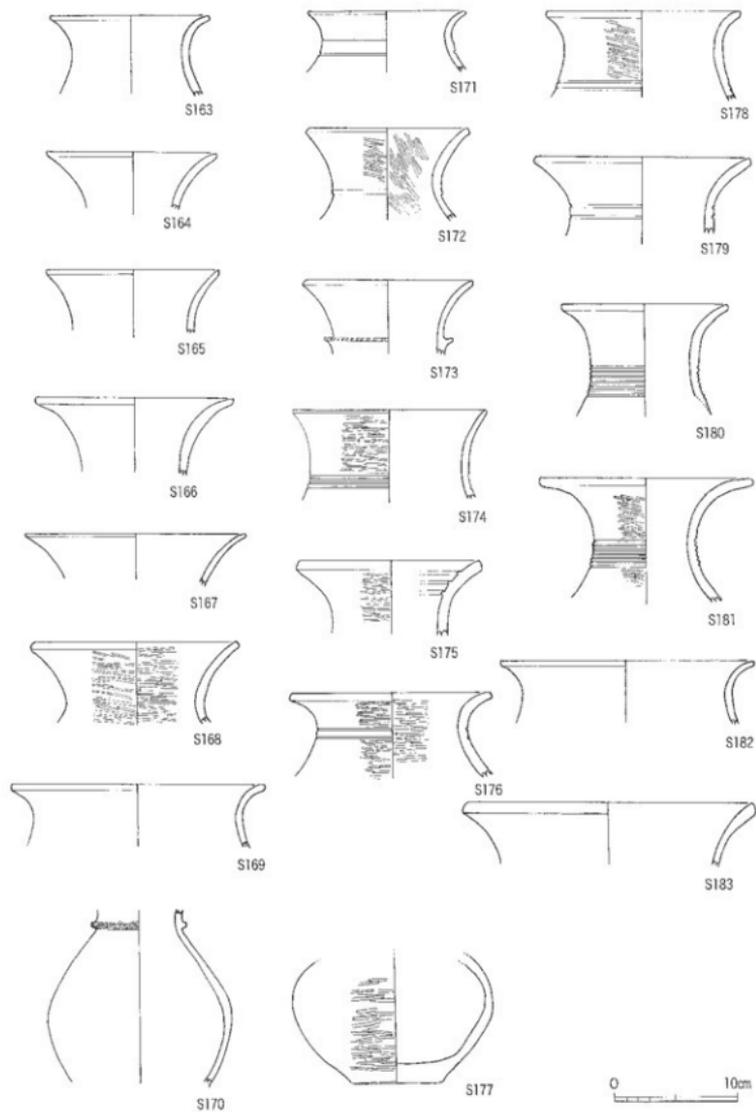
計測されている甕形土器は83点であるが、その内65点の78%までがAタイプである。S123は口縁端部に刻み目が付けられており、

S134は口縁の直下に凸帯が巡る無文土器である。S138は口縁直下に2条の沈線が回り、取っ手状の突起がある。

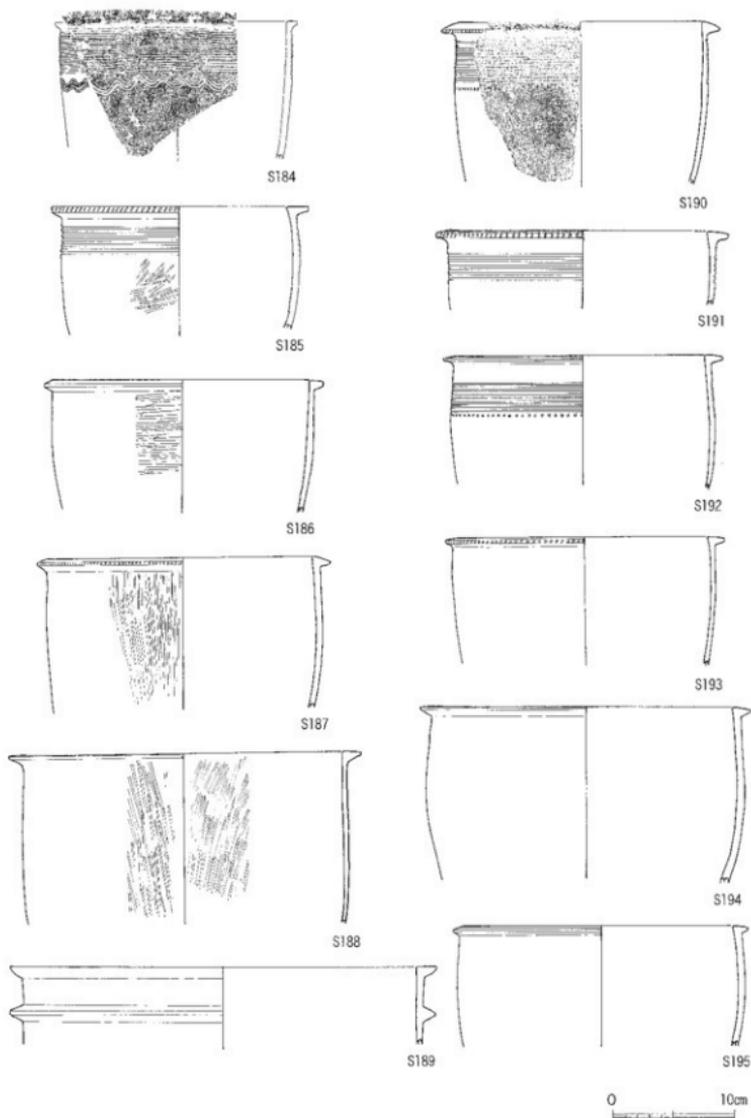
Aタイプには、無文のものが35点に対して沈線文5条以内のもの29点となっている。

#### 底部

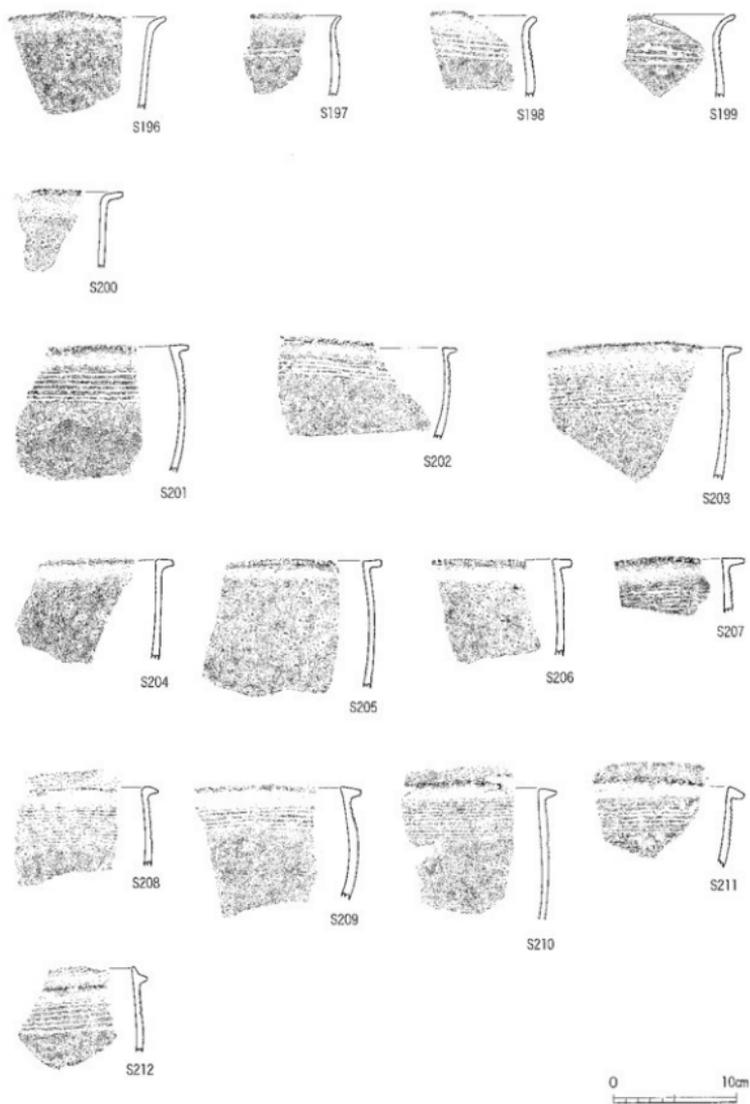
126点について計測している。その内84点67%が残存率25%未満で、ここでも細片が多い。ほぼ底部の形態を保っているものは21点、17%に過ぎない。直径10%未満のものが、全体で121点に達していることが注目される。



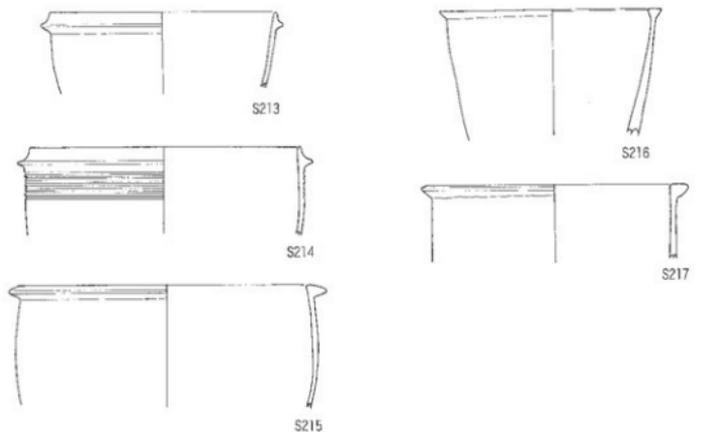
第49圖 S3-S D-2出土壺形土器



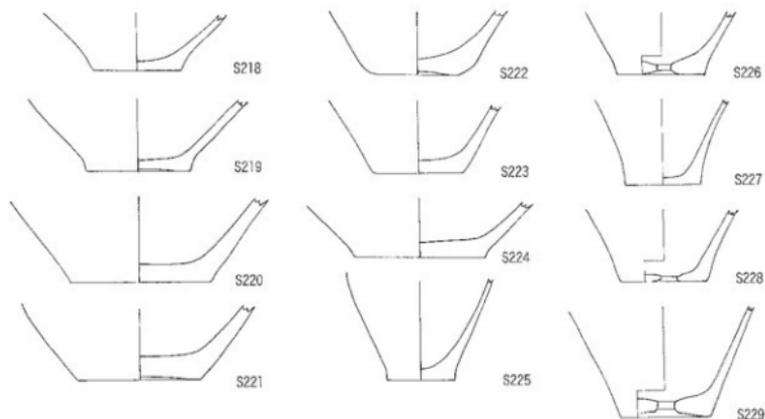
第50図 溝・S3-SD-2出土甕形土器



第51図 清・S3-S D-2出土幾形土器



第52図 溝・S3-SD-2出土甕形土器



第53図 溝・S3-SD-2出土土器底部

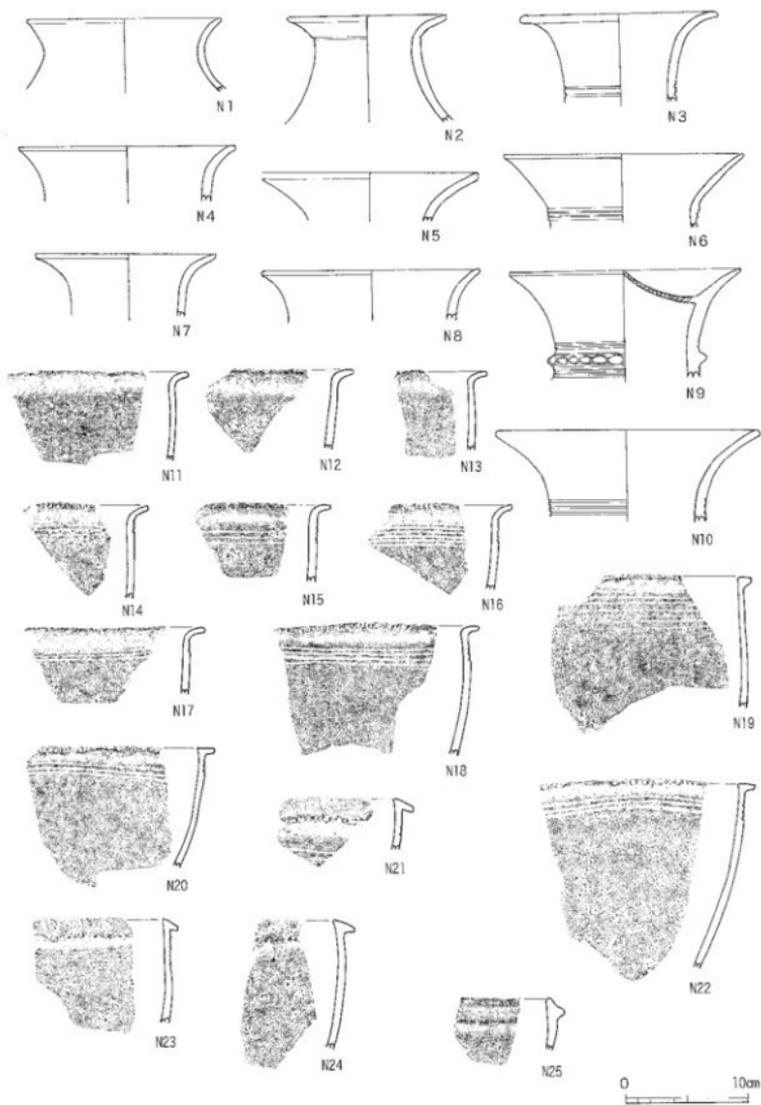
### 5 S3-SD-2出土土器

出土した遺物総数は7,851点である。

壺形土器 S178は、胴部から頸部にかけてゆるやかに狭まり、口縁直下で軽く外反する

もので、頸部のやや下位に2条の沈線が巡らされる。これと同じタイプの上器が S176で、この場合には頸部に2条の沈線はいる。S179は、外反する口縁部がやや長くなり、頸





第54図 N1調査区出土土器

## N調査区出土土器

### 1 N1調査区出土土器

N1調査区からは総数1,059点の土器及び石器、剥片等が出土している。これらの遺物は、表上及び地山直上から出土したもので、遺構に伴ったものではなく、破片が多い。

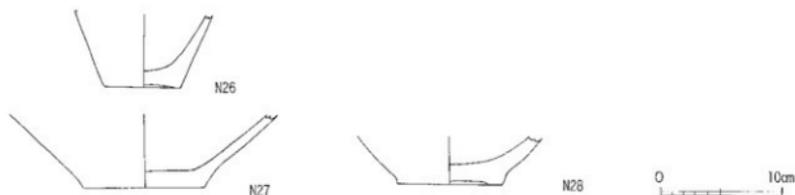
壺形土器は、幾つかのタイプに分類できる。N2は胴部から緩やかに狭まり口縁直下で外反し頸部と口縁の接点に沈線が施される。N6は、頸部に削り出し凸帯を施したもので、外反する口縁はほぼ直線的になっているが、N10、N5などもこのグループに属することができよう。N9の口縁部の状況はN10などに近いものであるが、口縁内部に凸帯があり、頸部にも押圧が施された凸帯が巡らされ、その上下に数条の沈線がはいる。N4、N7は

筒形の頸部から口縁が強く外反する。

### 壺形土器

49点を計測しているが、その内Aタイプが45%を占め、しかも無文と沈線5条以内が主流を占めている。

底部・計測可能なもの24点を見ると25%程度の残存率のものが71%を占めている。N28は壺形土器の底部と思われるが、僅かながら上げ底になっている。N26は壺形土器であろう。



第55図 N1調査区出土土器底部

表14 N1調査区出土遺物分類表

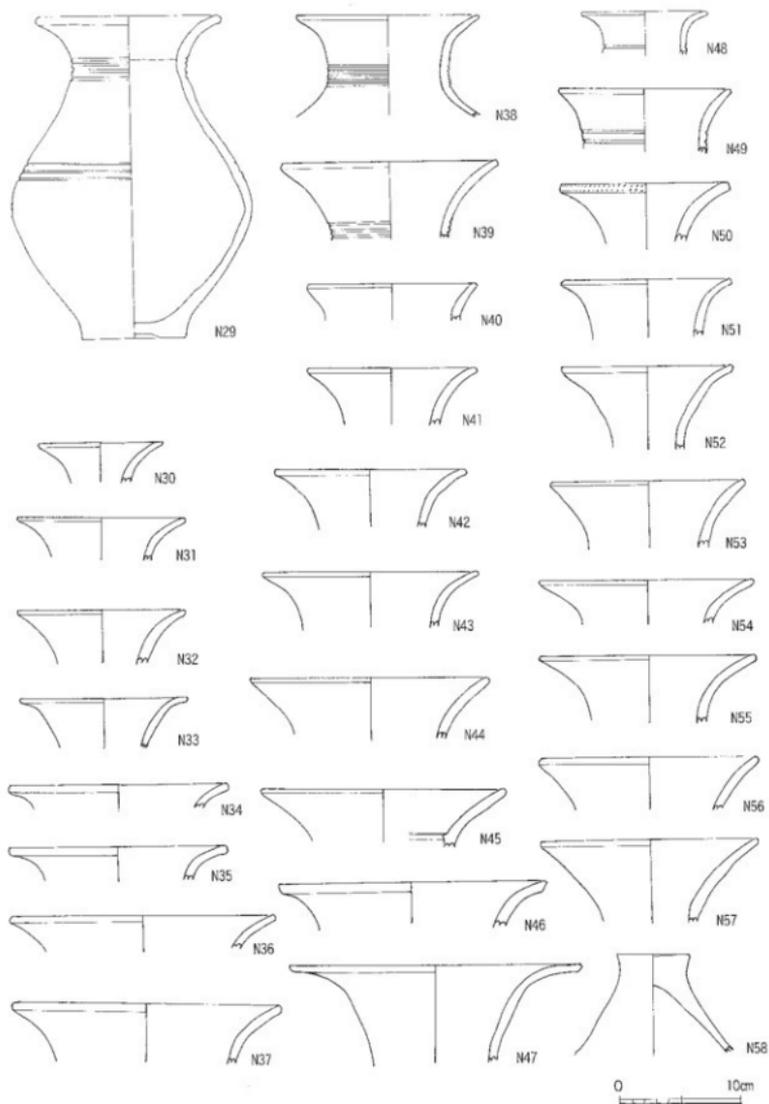
調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	1,059	739	107	34	76	3	3	97

#### ■壺形土器分類表

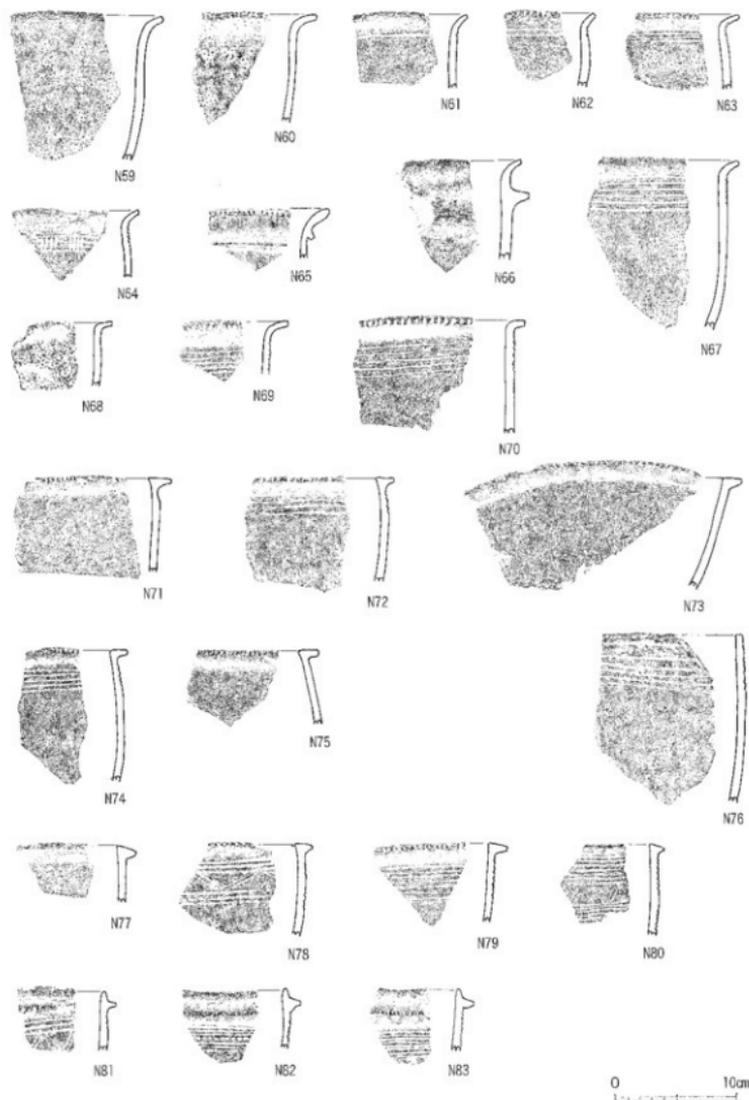
A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
11	9	2	3	2	4	7	1	1	1	1	3	5	5	5										49
22			3			6			8			5			5									49
0.45			0.06			0.12			0.16			0.10			0.10									

#### ■底部分類表

A												B												C																
1				2				3				1				2				3				1				2				3								
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
1				1				2				1				1				1				1				1				1				1				24
5												2												17												24				
0.21												0.08												0.71																



第56图 溝·N1-SD-1出土盃形土器



第57图 濠·N1-S-D-1出土夔形土器

## 2 N1-SD-1 出土土器

出土遺物総数は4,498点、その内石器及び剥片等は226点である。

何れも溝の内部から検出されたもので、口縁部、底部を除いた破片が3,346点に達しているところからみても、細片が多いことが分かる。

壺形土器は、N29が完成品で、高さ26.4cm、胴部の最大幅は19.5cmで、底部からおおよそ10cmのあたりにあり、重心はやや低くなっている。

口縁部は頸部からやや反り気味に反転し、端部は丸みを帯びている。

頸部には4条の凹線文が巡らされ、胴部のやや上位に沈線文3条がはいる。

底部は僅かながら上げ底になる。

このグループに入る土器が、殆どであるが、N39は、口縁の直径の2分の1程度にまで狭まった頸部をもち、口縁は大きく外反する。N50は頸部から大きく反転した口縁部の端が角ばりそこに刻み目が施される。

N47は、細い頸部から大きく反り返り、口縁端部は、ほぼ水平になる。長頸壺の範疇に属する。N52、N55、N57などもこのグループに属する。

## 甕形土器

総数142点が分類計測可能であった。その内Aタイプが64点で全体の45%を占める。その内無文土器が31点、5条以内の沈線文のある土器が29点あって、両者ほぼ同じ割合になっている。N65は軽く外反する口縁の直下に凸帯が巡らされ、口縁端部にも刻み目が施される。N66もAタイプの口縁直下に高い凸帯を巡らしている。N73はCタイプの口縁をもっているが、浅鉢形土器でもある。N76は口縁端部の凸帯がはがれたもので、タイプとしてはCかD、Eのいずれかに属すると思われる。

N78とN81はいずれも平行沈線の間にも2条の半裁竹管状工具で山形文を施文している。ただしN78はEタイプで、N81はFタイプに属する。さらに凸帯には刻み目文が施されている。EタイプのN80の場合は、上7条、下5条以上の沈線の間にも山形文を入れている。

## 底部

216点を計測している。その内25%程度の残存率のものが157点で全体の73%を占めている。この遺構の遺物がいかに破砕されているかを知ることができる。

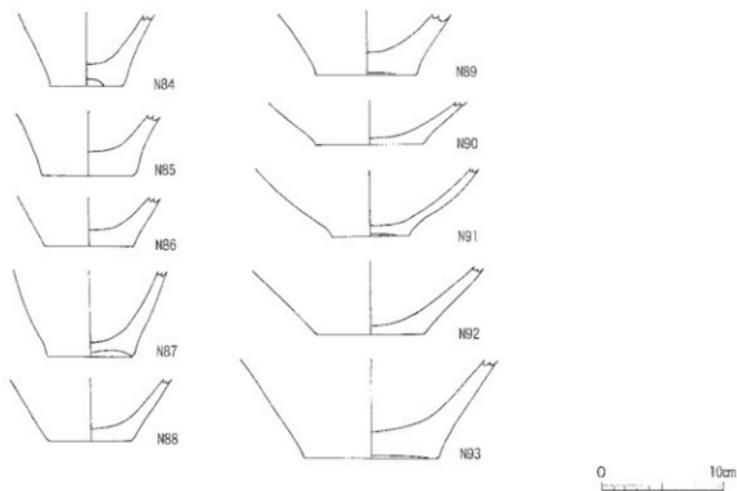
それでも、底部の直径10cm未満のものがA、B、C併せて205点で、非常に高い比率になっている。

表15 溝・N1-SD-1 出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	4,498	3,346	296	343	287	14	7	205

■甕形土器分類表

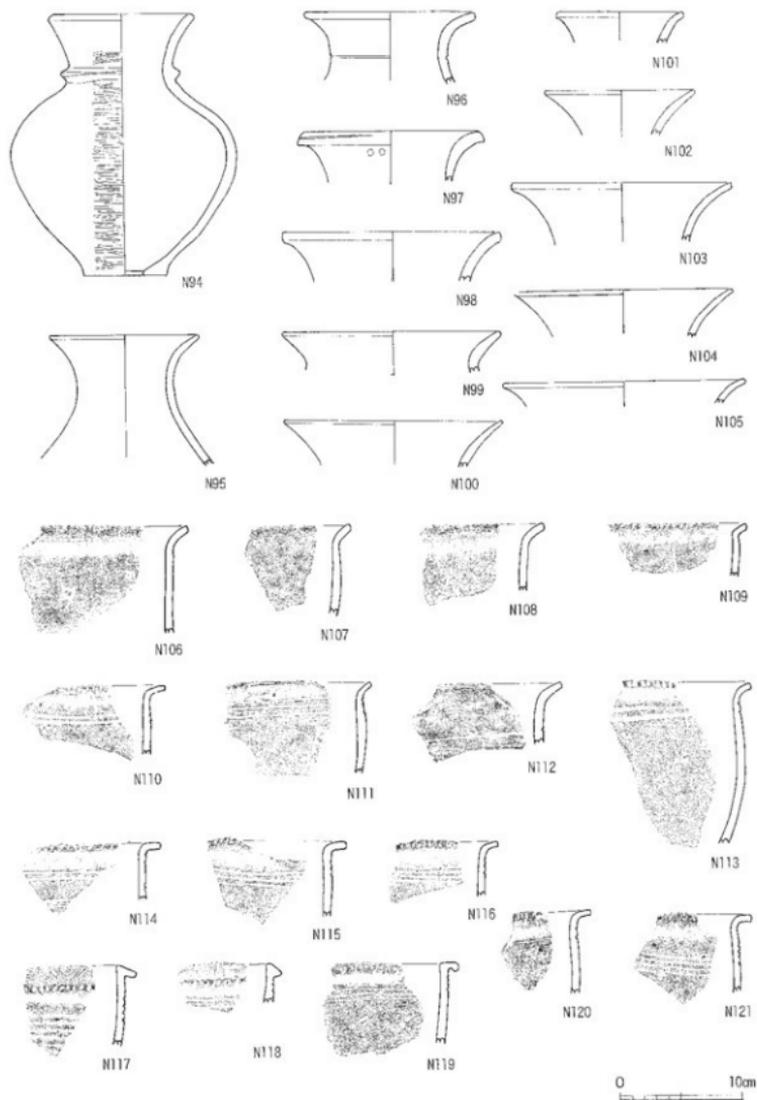
A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
31	29	4	3	3		10	5	3	2	8	2	13	10	5	1	2					4	4	3	142
64			6			18			12			28			3						11			142
0.45			0.04			0.13			0.08			0.20			0.02						0.08			



第58圖 溝・N1-SD-1出土土器底部

表16 溝・N1-SD-1出土土器底部分類表

A												B												C												
1				2				3				1				2				3				1				2				3				
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
1	1	1	1	4				1				1	3	9	1	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	216
18												41												157												216
0.08												0.19												0.73												



第59图 溝・N1-SD-2出土土器

### 3 N1-SD-2出土土器

溝・N1-SD-2からは、総数2,116点の遺物が出土している。その内石器及び剥片等は147点であった。

壺形土器N94は、高さ21.3cm、胴部最大幅は16.5cmで、土器のほぼ中央部に位置する。

頸部に凹帯が巡り、頸部から軽く外反する口縁部の直径は12cmを計り、底部には穿孔が施されている。

器面の調整はヘラ磨きされており、磨きの方位は横方向である。

N96は、頸部に一条の沈線が施され、ゆるやかに外反する口縁をもつ。N95は、肩部か

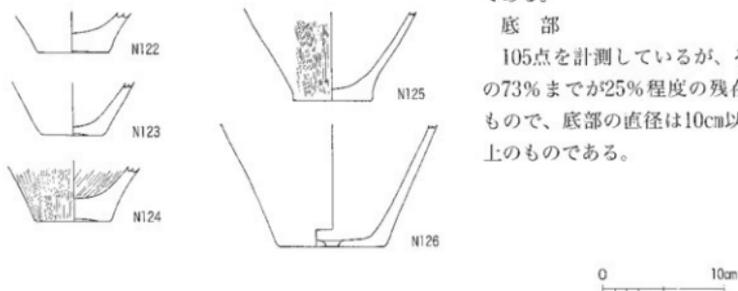
ら緩やかに狭まった頸部からそのまま緩やかに外反する口縁を形成する。肩から頸部、さらに口縁部にかけては文様は認められない。他の口縁はおそらくN95がN94のグループに属すると思われる。ただしN97には、口縁部がやや肥大し沈線が入られている。

#### 壺形土器

総数82点が計測されている。その内Aタイプが全体の70%を占めている。その内無文土器が35点、沈線文5条以内のものが22点である。その他口縁部が逆L字状に外反するBタイプが12点で、11点までが5条以内の沈線文である。

#### 底部

105点を計測しているが、その内77点の73%までが25%程度の残存率を持つもので、底部の直径は10cm以内、5cm以上のものである。



第60図 溝・N1-SD-2出土土器底部

表17 溝・N1-SD-2出土遺物分類表

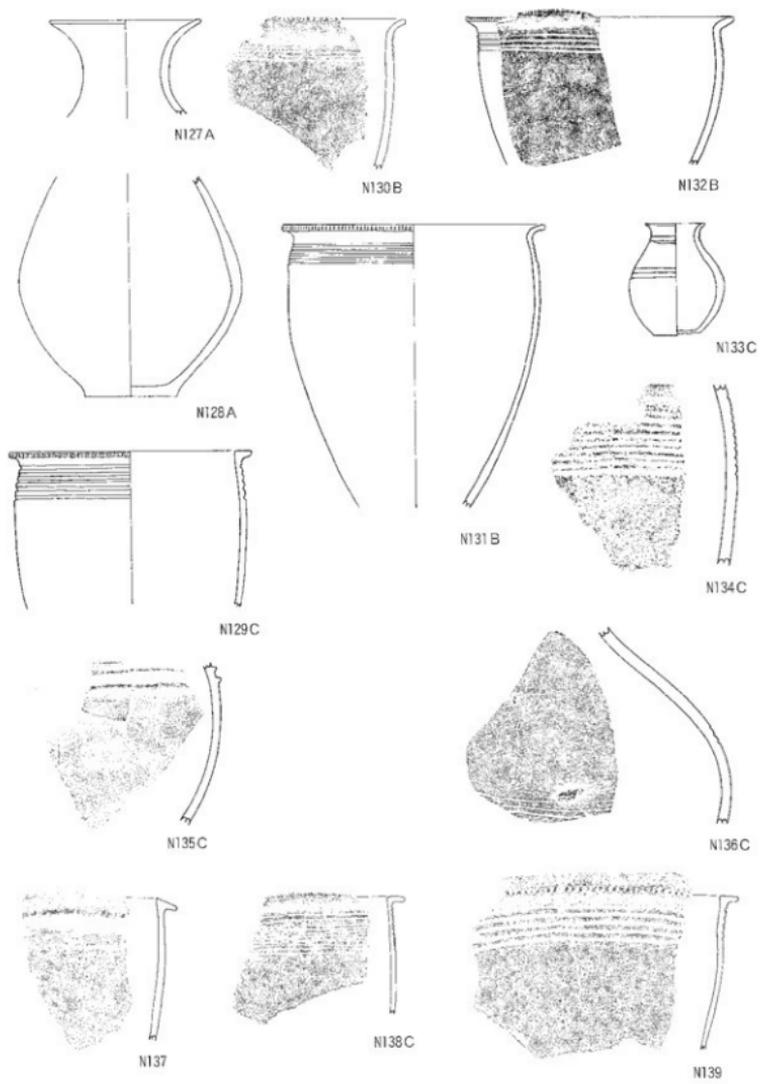
調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	2,116	1,496	163	132	178	14	6	127

■壺形土器分類表

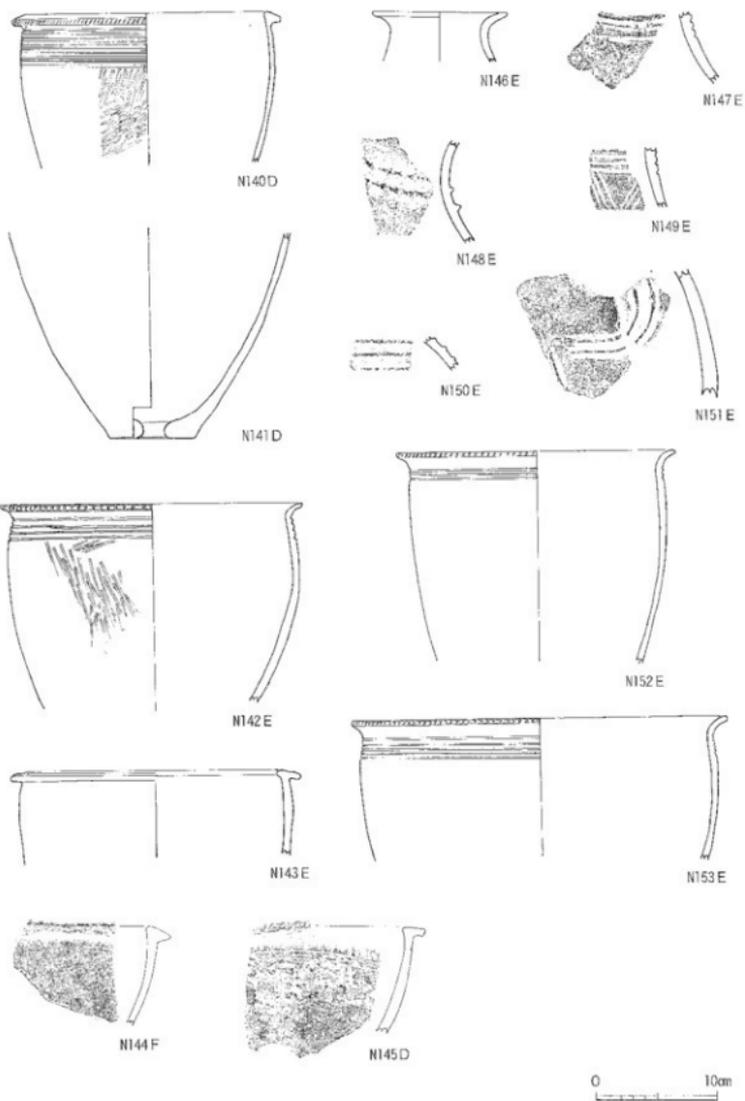
A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
35	22		1	11		1	1		1	1	1	3	2	1	1				1					82
57			12			2			3			6			1			1						82
0.70			0.15			0.02			0.04			0.07			0.01			0.01						

■底部分類表

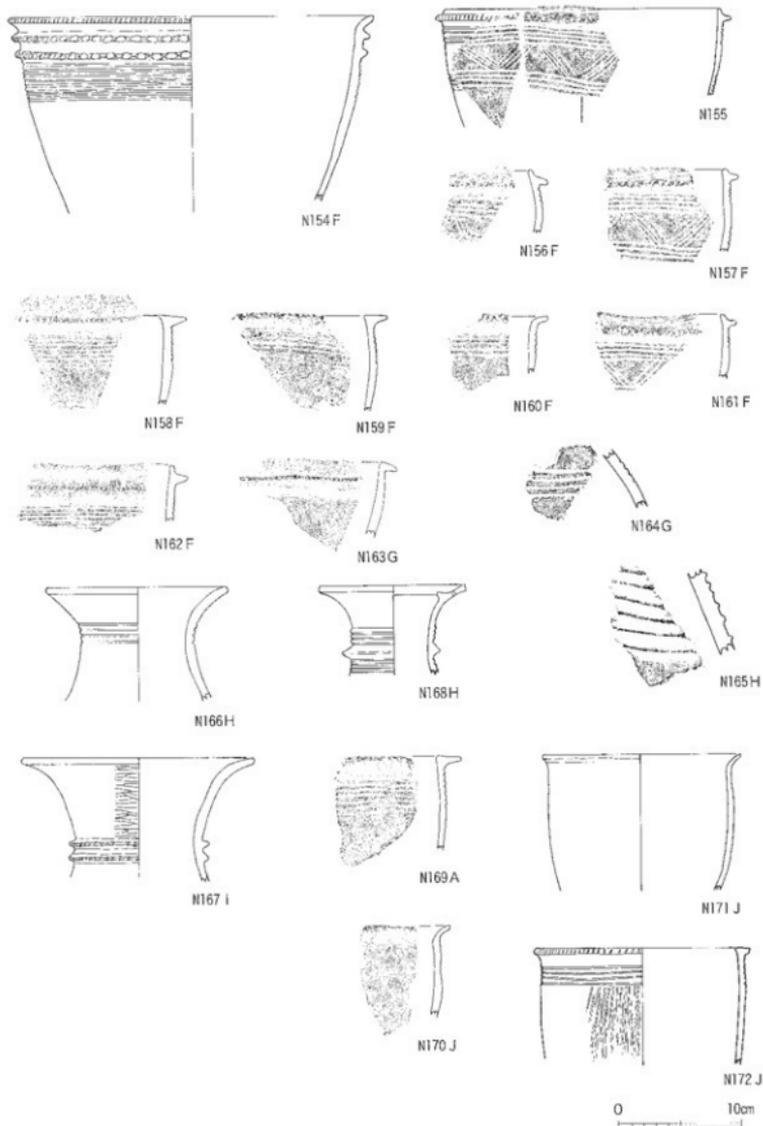
A						B						C											
1		2		3		1		2		3		1		2		3							
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
7							16	2			1				3	67	2		5				105
7								21								77							105
0.07								0.20								0.73							



第61図 溝・N2-SD-1 (A・B・C) 出土土器



第62图 沟·N2-SD-1 (D·E) 出土土器



第63图 溝・N2-SD-1 (F・G・H・I・J) 出土土器



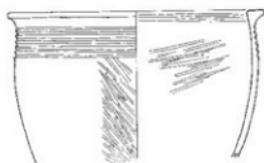
N173K



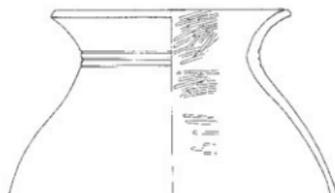
N175L



N176L



N174L



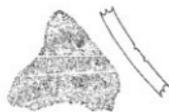
N177L



N178L



N180L



N179L



N181L



N182



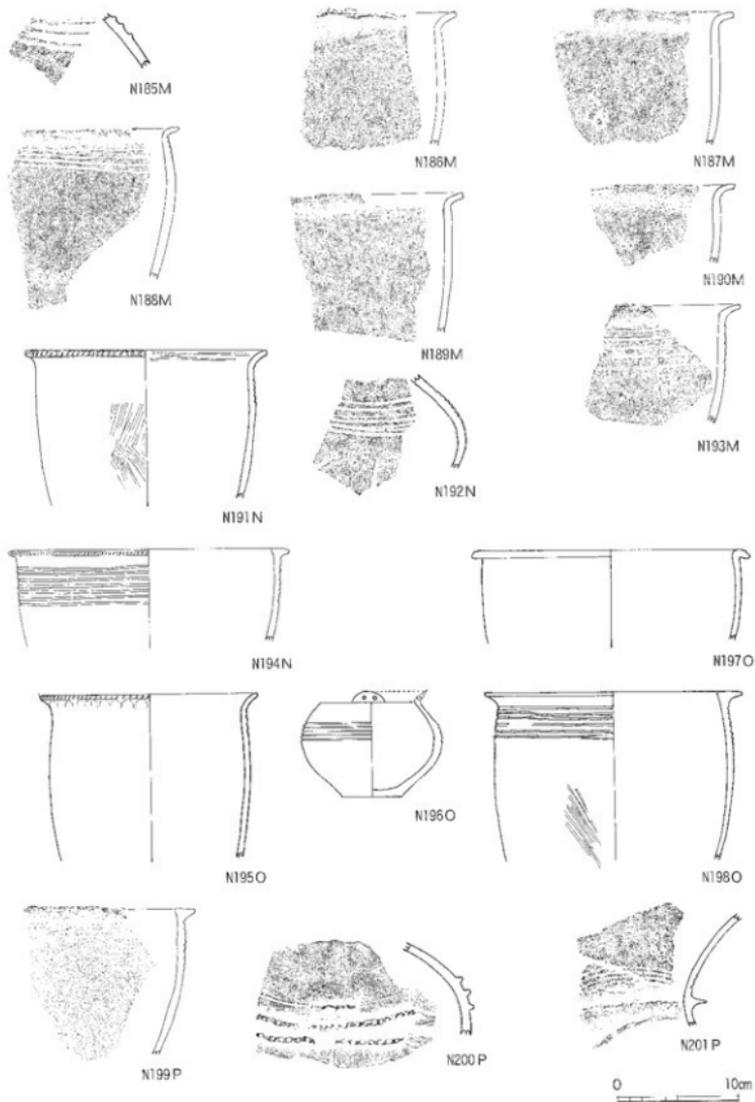
N183L



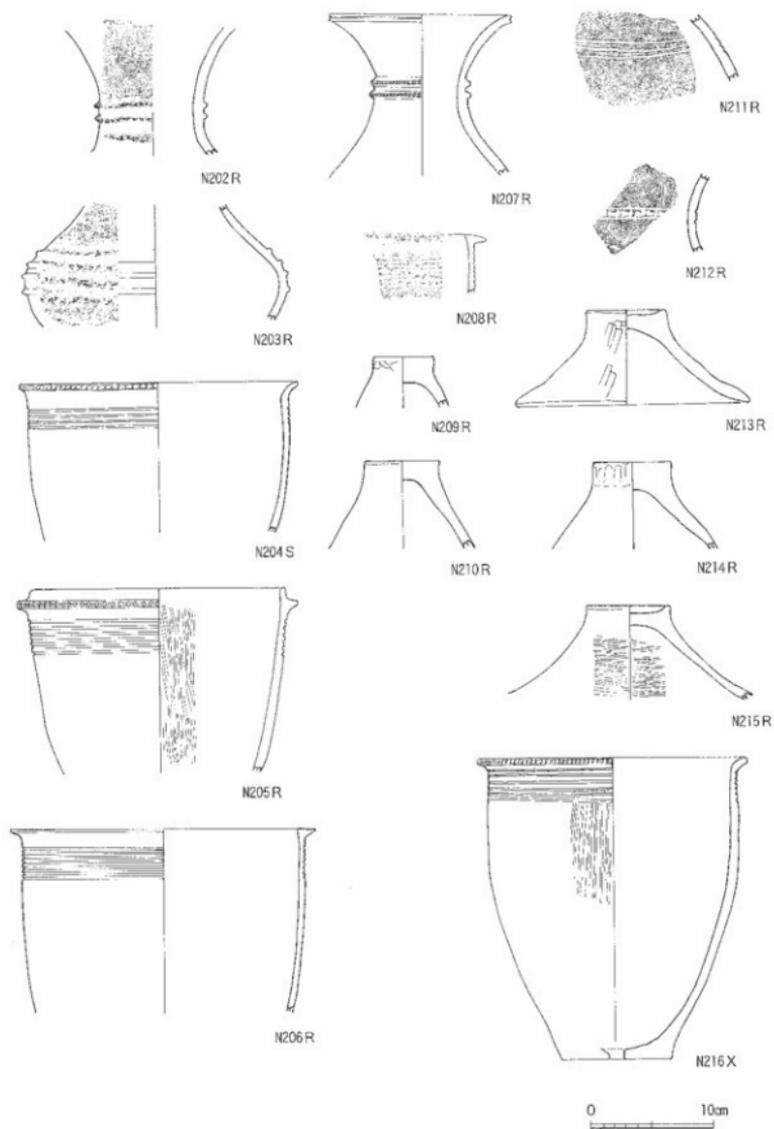
N184



第64图 满·N2-SD-1 (K·L) 出土土器



第65图 溝・N2-SD-1 (M・N・O・P) 出土土器



第66圖 溝・N2-SD-1 (R・S・X) 出土土器

#### 4 溝・N2-SD-1出土土器

溝・N2-SD-1からは、3,829点という多数の遺物が検出された。取り上げに際しては、それぞれグループごとに区分した。従って殊に土器に関しては、可能なかぎり図化して紹介している。

N127とN128はAグループ一括出土であるが、別個体である、しかし胴部と頸部の状況はあたかも同一個体でもあるかのような印象を与える。

胴部の張りが土器の中央部よりやや下位にあること、胴部から緩やかに狭まり、頸部からまた緩やかに口縁部を形成する形態は、中ノ池遺跡の土器の一つのタイプといえよう。

Bグループは甕形土器3点であるが、何れもAタイプで、しかも沈線5条以内のA-2グループに属する。

Cグループからは小形壺N133と、壺形土器の胴部の破片N136とN135が出土している。小形壺は、高さ9cm、胴部の最大幅は中央部よりやや下位にあって7.8cmを計測する。胴部と頸部にそれぞれ沈線文が入り、底部は薄く剥離している。同じCグループから甕形土器4個体分が出土しているが、N138はCタイプで、沈線文が10条入っているが、丁寧な施文された平行沈線という感じである。

N134も、口縁部が欠けているが、やや太めの施文具によって平行沈線が描かれている。N137は、Eタイプの2、N139はDグループの2タイプである。

Dグループは、甕形土器3点である。

N140はEタイプで、口縁に刻み目が施され、11条の沈線は節目文である。N145はD-2タイプ、N141は底部に穿孔がある。

Eグループは、壺形土器の破片が6点、甕形土器が4点出土している。

壺形土器は、次第に狭くなる頸部の直上で鋭く外反するタイプ、N148は頸部に2条の

凸帯が、N149は胴部の上位に3条の平行沈線の間に3条を単位とする山形文が入っている。

甕形土器はN142、N152、N153がA-2タイプで、何れも口縁に刻み目が施されている。N143は、Dタイプ-1であるが、口縁の端部が内側にも張り出している。

Fグループは、甕形土器の破片が主体で、N154は口縁が軽く外反するAタイプの土器であるが、口縁直下に2条の凸帯が巡り、押圧が施されている。さらに凸帯の下段に8条の平行沈線文が施文される。

N156、N157、N161は同一個体で、Fタイプの口縁端部に刻み目が施され、口縁直下に5条と4条の平行沈線文の間に4条を単位とする山形文が施文される。

その他A-2、E-3、F-2タイプも見ることができる。

Gグループ、甕形土器の口縁と、壺形土器の胴部破片が出土している。甕形土器はN163はE-1タイプ、壺形土器胴部には沈線文が4条施文されている。

IIグループは、壺形土器口縁部2点が出土している。N166は頸部に3条の沈線が巡り、N168は一条の凸帯の上下に数条の沈線文が入りさらに口縁の内側には凸帯文が施されている。

N167はIグループの壺形土器であるが、頸部に2条の凸帯が巡り、口縁は大きくゆったりと外反する。器面の調整はへら磨きされている。

Jグループは、甕形土器であるが、N171とN170は、A-1タイプで、N172はD-2タイプで口縁部に刻み目文、口縁直下に沈線文4条が施文されている。

N173は壺形土器の胴部で、胴部の最大幅の部分がほぼ中央部に位置する。器面の調整はへら磨きされている。

Lグループの壺形土器、N175とN176はほぼ同じ形態でありながら、N176には頸部に5条の沈線文がめぐらされる。

N177は、頸部に3条の沈線が入り、口縁は短く鋭く外反する。N178は壺形土器の肩あたりであるが、4条の低い凸帯が入っている。

N180は甕形土器A-1タイプで、N181は浅鉢形土器である。

MグループのN185は壺形土器の肩のあたりであるが、3条の低い凸帯がみられる。

甕形土器は、N186、N187、N189、N190のいずれもAタイプ-1で、N188はAタイプの2である。

NグループのN192は壺形土器の胴部破片であるが、丸味が強く6条の沈線文が入っている。甕形土器はN191がA-1グループ、N194はC-3タイプで、平行沈線文は7条施文されている。

Oグループ、N196は小形の甕で、高さは9cm弱、胴部の直径は11.5cmで5条の沈線文が入る。口縁部は欠けているが、く字形に小さく外反すると思われる、小さい耳が1個付いており、小孔が2個みられる。

甕形土器は、N195がA-1タイプ、N198が、C-3タイプに、N197が、G-1タイプである。

N200、N201はPグループの壺形土器の破片で、N22は球形の胴部に凸帯3条が施されたもの、N201は、頸部に凸帯が施され、さらにその上位に沈線文3条が巡らされる。口縁は大きくゆったりと反転する。

RグループのN202は壺形土器の頸部に2条の凸帯が巡り、その点ではN207も同じタイプで、口縁部は角張り凹線文が施文されている。N203は張りの大きな胴部に3条の凸帯が巡らされる。

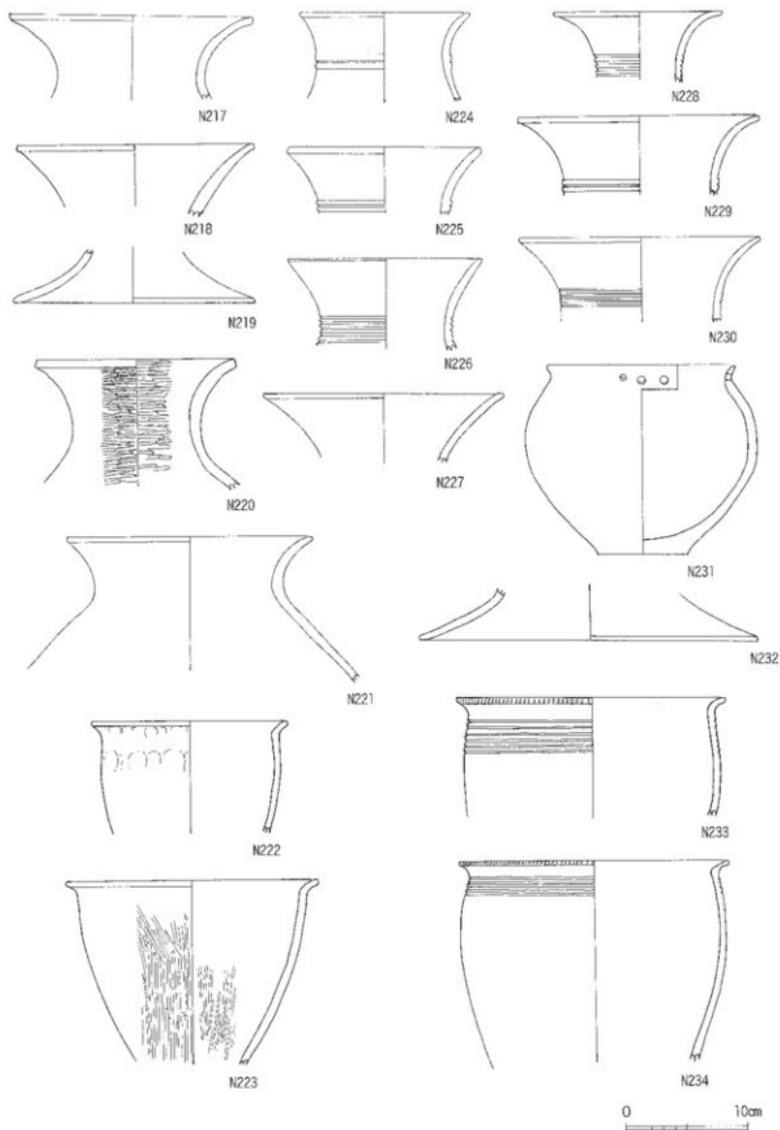
N213は蓋形土器で、つまみの部分は直径

6.5cmに対して口縁部は19.5cmを計る。N209、N214、N210、N215共に蓋形土器である。

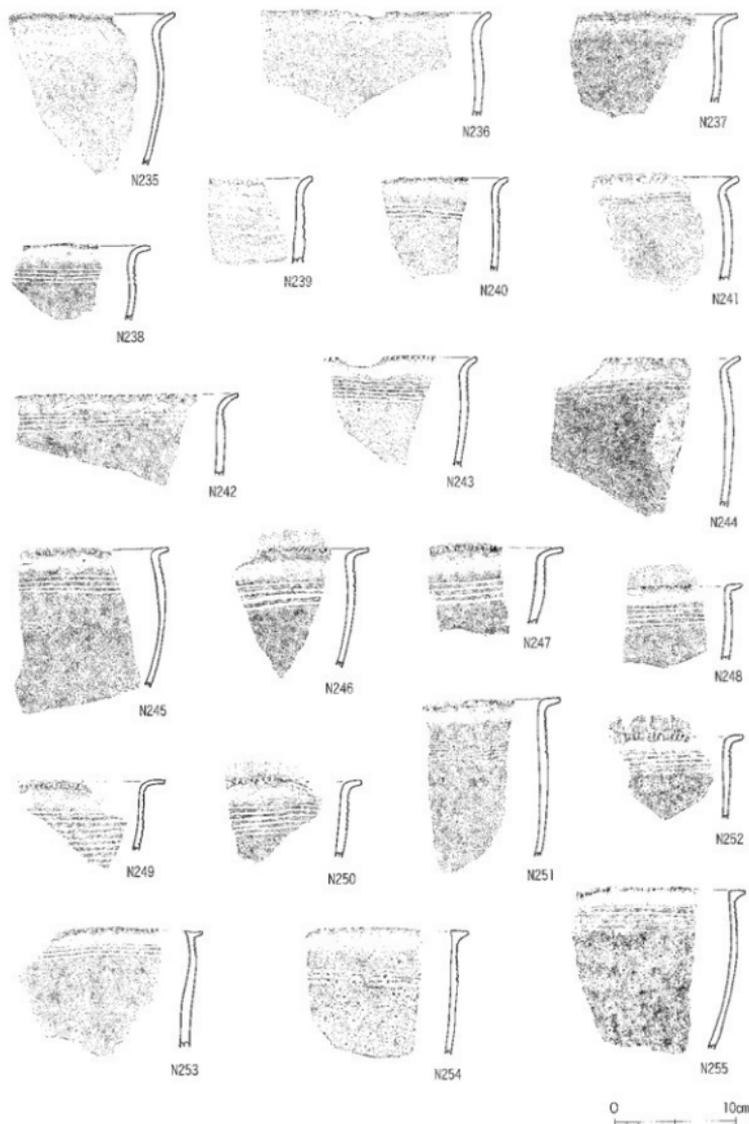
甕形土器N206はC-3タイプで、7条の沈線がめぐらされている。

N205はFタイプの3で6条の沈線が入り、口縁部凸帯には刻み目文が施文されている。

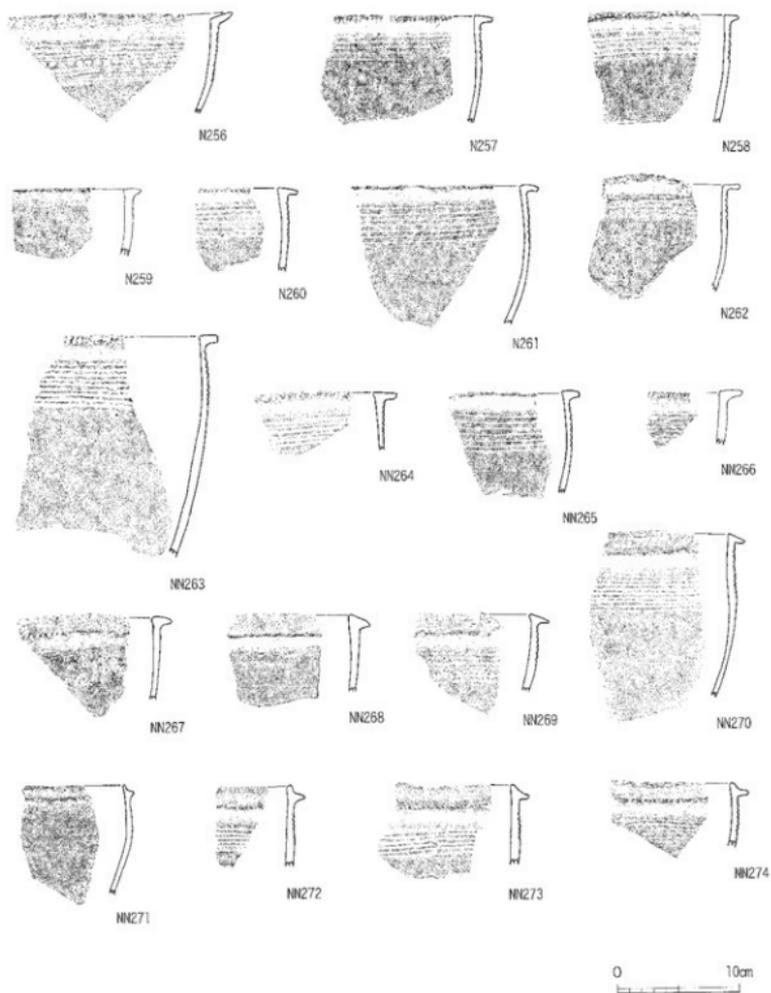
N216はXグループのもので、Aタイプの口縁に刻み目文が入り、口縁直下には6条の沈線文が巡らされている。



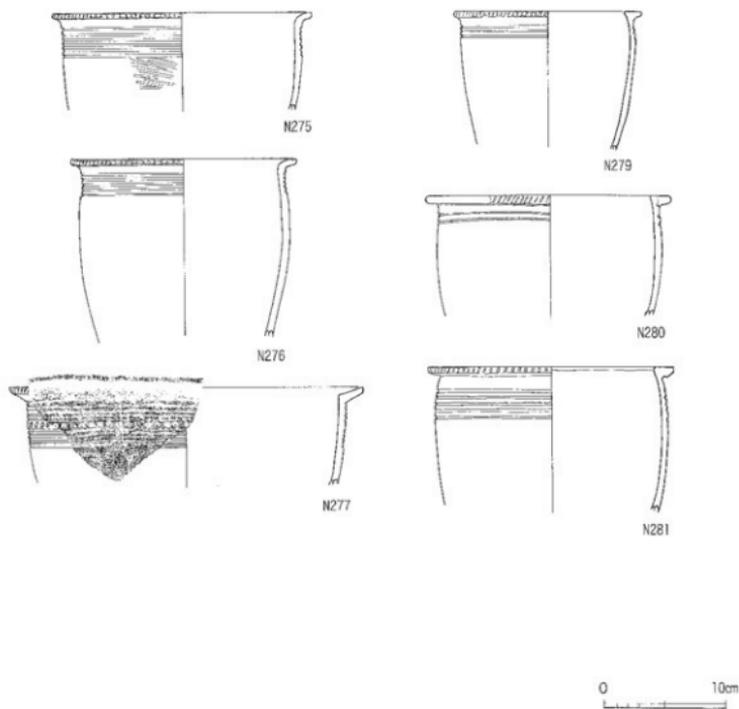
第67图 沟·N2-SD-1出土土器



第68图 清·N2-S-D-1出土甕形土器



第69図 溝・N2-SD-1出土埴形土器



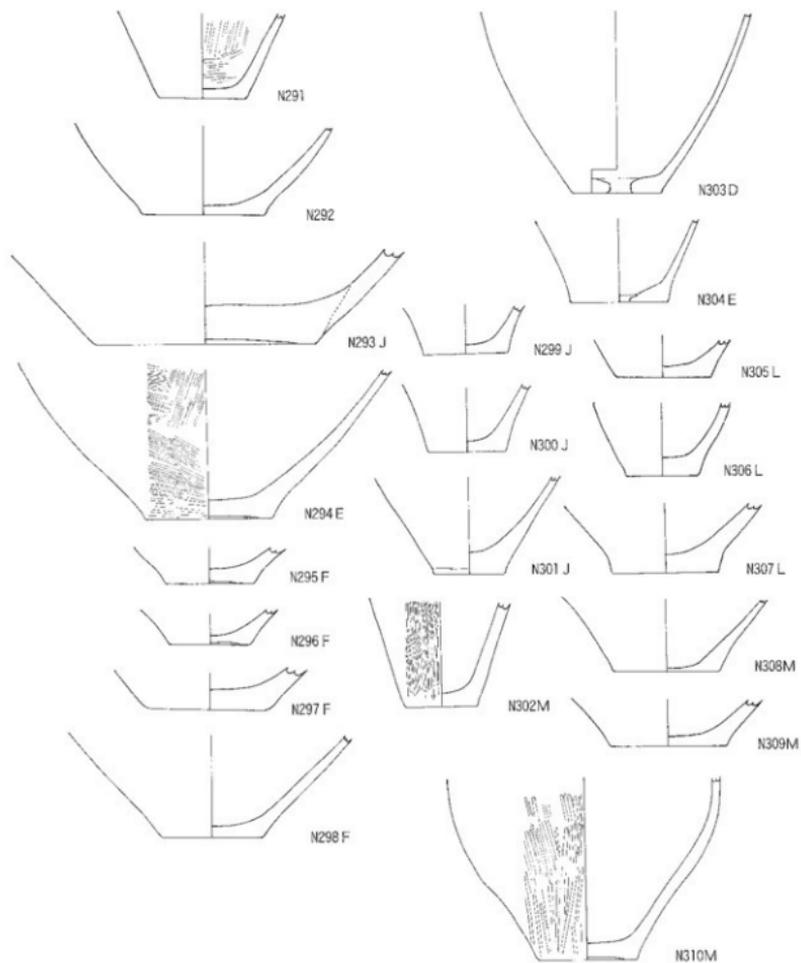
第70図 溝・N2-SD-1出土甕形土器

表18 溝・N2-SD-1出土遺物分類表

調査区	総数	上唇片	緑部	底部	その他	石罫	石器	その他
	3,829	2,713	384	162	287	11	10	262

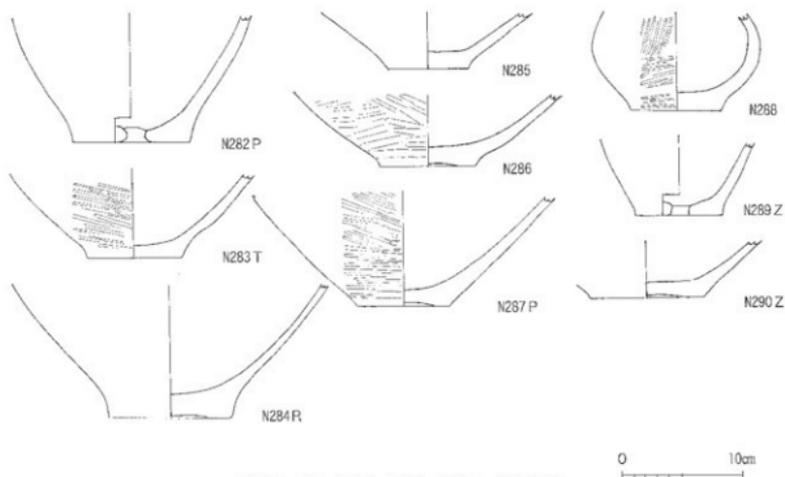
■甕形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他						
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3				
47	42	10	5	26	7	10	19	22	6	9	14	16	17	18	4	5	6							2	2	2	287
99			38			51			29			51			15						4			287			
0.34			0.13			0.18			0.10			0.18			0.05						0.01						



0 10cm

第71图 溝・N2-SD-1出土土器底部



第72図 溝・N2-SD-1出土土器底部

#### 溝・N2-SD-1出土土器

溝・N2-SD-1から出土したもので、壺形土器には、N224に見るように頸部から口縁部に至る反りが比較的少ないものと、N228のように頸部が口縁部に対して細く、かつ口縁が大きくゆったりと反転するタイプがある。N224とN225の頸部の凸帯は削り出し凸帯になっている。N231は、高さ15.5cm、胴部の直径19.3cmで、口縁部は小さく外反する。一か所に3個の小さな孔が明けられている。

甕形土器は287点が計測されている。その内Aタイプが99点の34%を占め、無文土器が47点、沈線文5条以内のもの42点で、両者ほぼぎっごうしている。

N275はAタイプであるが、沈線文6条のA-3タイプである。

口縁部が逆L字形に外反するBタイプは、38点認められる。N245-N252がそれである。その内沈線文5条以内のものが26点で最も多く、次いで5条以上が7点、無文5点となっている。

中でもN251は櫛目文が施文されており、図版00にみるように、流水文の先駆を見る半弧条の線が認められる。N249も10条の沈線が施文されており、或いは櫛目文の可能性がある。

Cタイプも51点の内無文10点、沈線5条以内19点、6条以上のもの22点と、沈線文の多条化の傾向がある。Eタイプについても51点

表19 溝・N2-SD-1出土土器底部分類表

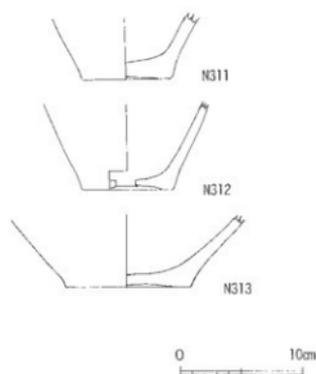
A				B				C				139			
1	2	3		1	2	3		1	2	3					
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1	13	2	1					16	9		1	2	89	2	
20				26				93				139			
0.14				0.19				0.67							

で全体の20%に満たないものであるが、やはり沈線文6条以上のものが最大値を占め、沈線多条化の傾向が認められる。

### 底部

底部は139点を分析することができた。その内93点の67%までが25%程度の残存率しかなく、ほぼ全形を保つものは14%の20例しかない。このことから見ると底部の破損率は極めて高いものがある。

底部に穿孔のあるものは、Aタイプの中の直径10cm以内のもの、Bタイプにも1点が直径10cm未満であることは、特徴の一つといえよう。



第73図 溝・N3-SD-1出土土器底部

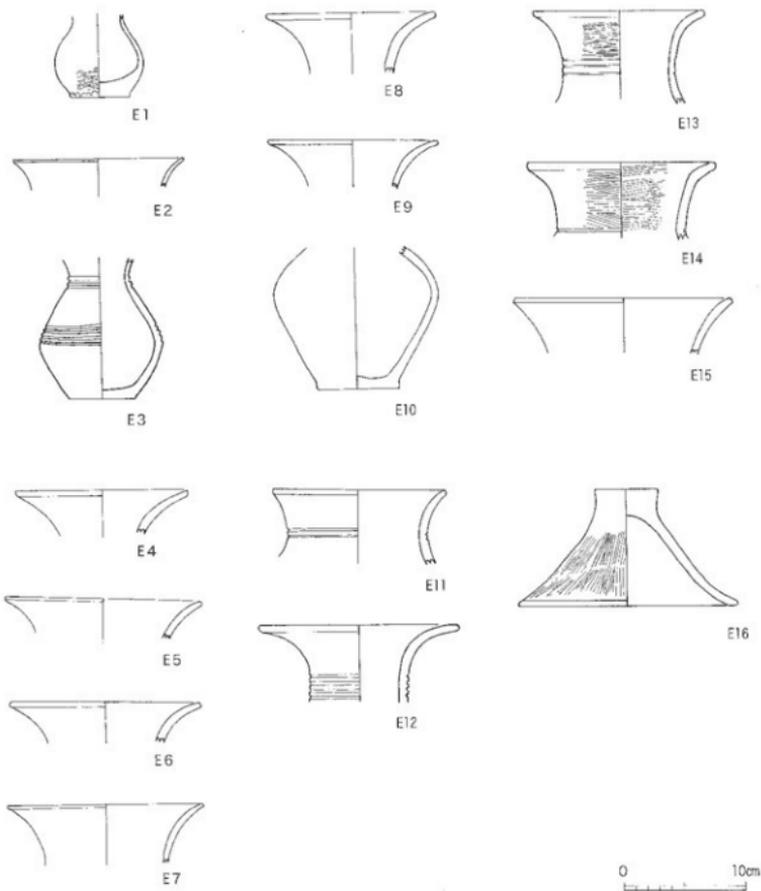
### 5 溝・N3-SD-1出土土器

土器底部10点が出土している。その内7点までが残存率25%以内ばかりで、他に50%残存率のものが3点あるに過ぎない。

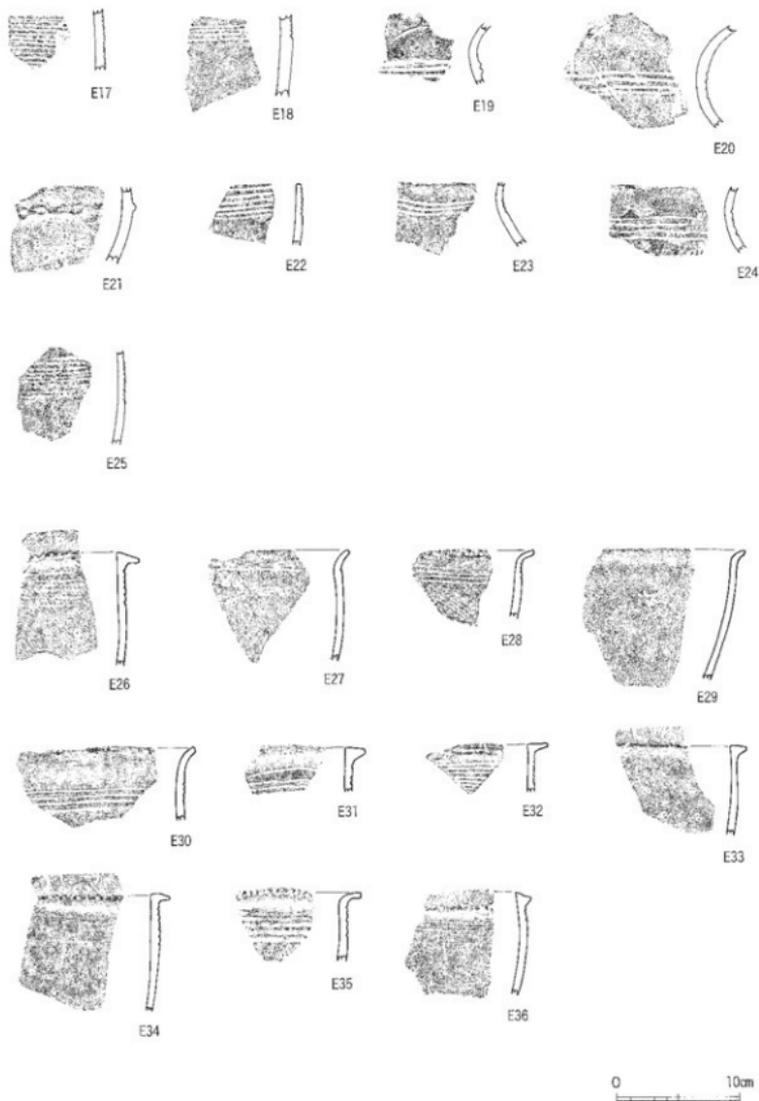
N312は、やや上げ底になり、穿孔が施されている。底部の立ち上がりの状況から甕形土器と思われる。

表20 溝・N3-SD-1出土土器底部分類表

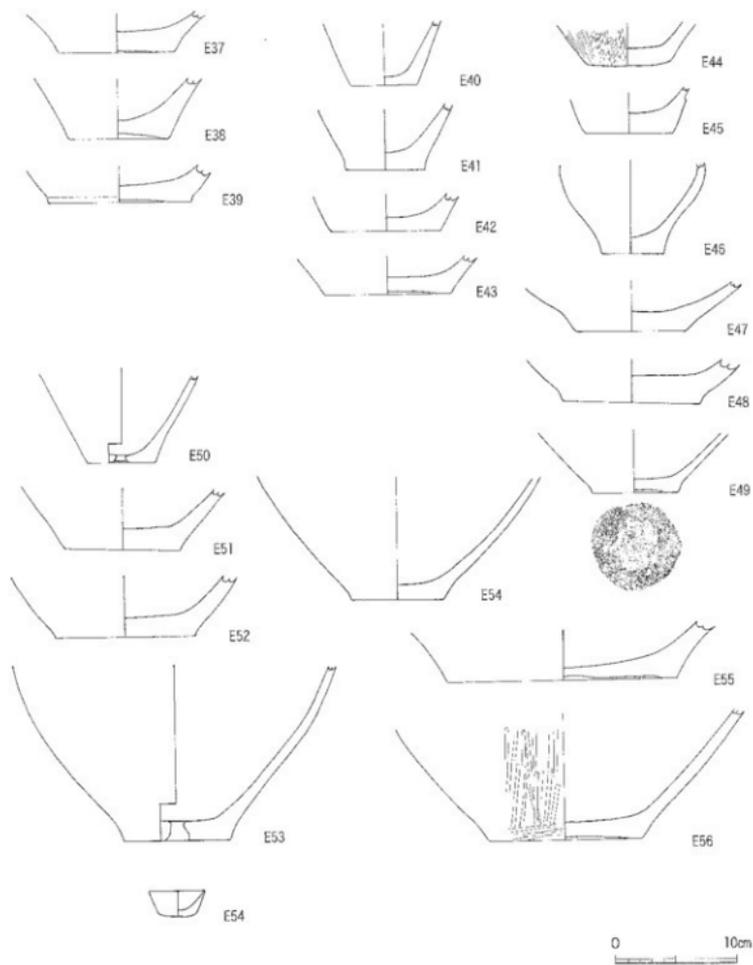
A												B												C																							
1				2				3				1				2				3				1				2				3															
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
												3												7																							
												0.30												0.70																							



第74図 E調査区出土土器



第75図 E調査区出土土器



第76图 E調査区出土土器底部

## E 調査区出土土器

### 1 溝・E1-SD-1

溝・E1-SD-1出土の壺形土器は2点であるが、E1は、現存高7cmの小形壺で底部の直径5cm、胴部の直径7.3cmという形態からすると、底部が大きく安定感があるが、口頸部が欠けていることも影響しているであろう。

E2は口縁部だけで、資料的には不満足であるが、E9、E15などとも同じタイプといえる。

壺形土器E26は、溝・E1-SD-1出土であるが、口縁部の形態が断面三角形の張り付け凸帯を巡らしたEタイプで、しかも口縁直下に平行沈線が5条施されたE-2タイプに属する。

底部は19点検出されている、その内残存率25%未満のものが16点で84%を占めている。E38、E39はかすかながら上げ底になっている。

表21 溝・E1-SD-1出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	458	395	13	26	13		11	

■壺形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
3						1	1	1				1	2											9
3						3						3												9
0.33						0.33						0.33												

■底部分類表

A												B												C											
1				2				3				1				2				3				1				2				3			
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
1								1				1				1	15			1				1				1				19			
1												2												16											
0.05												0.11												0.84											
																								19											



### 3 E4-E5調査区出土土器

E4-E6調査区は、採土工事による攪乱が甚だしいものがあり、遺構等は検出されなかったが、遺物は若干検出されている。

検出された遺物総数は第23表の通り、1,494点であるが、細片が多く1,100点あまりが細片であった。

壺形土器は、E11は頸部に2条の沈線文が入り、口縁部は軽く直線的に外反するタイプで、それに対してE12は4条の凹線文が施された頸部から緩やかに、かつ大きく外反して、口縁の端部が水平になるタイプである。その他のE4、E5、E6は口縁部だけであるが、E13に近いタイプ、E7はE15のグループに属する。

E16は蓋形土器である。つまみの部分の直径5cmに対して口縁部18cm、高さ9.6cmを計る、器面の調整はへら磨きされている。

甕形土器は、E27、E28が甕Aタイプで、何れも口縁直下に沈線文が入り、A-2タイプに属する。E33、334はCタイプに属し、E34には口縁端部に刻み目文が施されているものの、無文でありC-1グループである。

底部は、84点出土しているが、65点の77%

までが残存率25%に満たない細片である。底部が辛うじて全容を保っているものは7点に過ぎない。

E49は壺形土器と思われるが、底部の中央部が剥離しており、全体に赤変しているところからすると、熱によって剥離したものと思われる。

表23 E4・E5調査区出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石割	石器	その他
	1,494	1,111	65	95	73	19	2	129

■壺形土器分類表

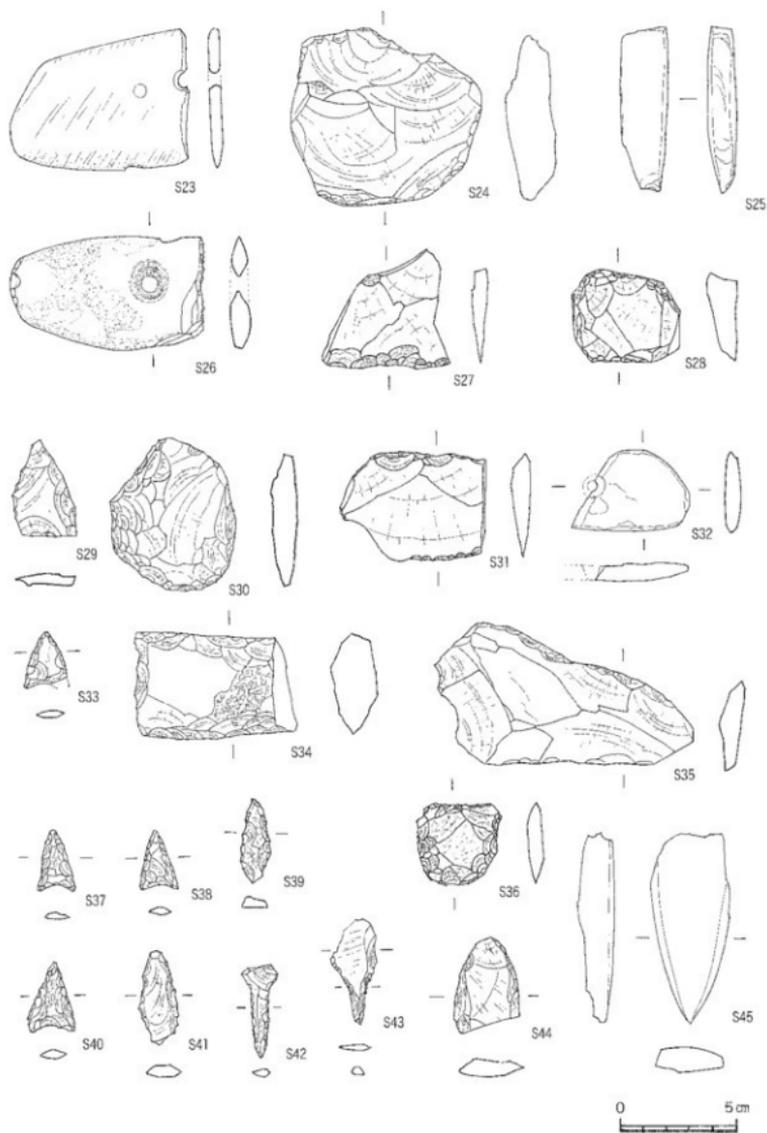
A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
9	7	1	2	3		4	1	2			1	3	6											39
17			5			7			1			9												
0.44			0.13			0.18			0.03			0.23												

■底部分類表

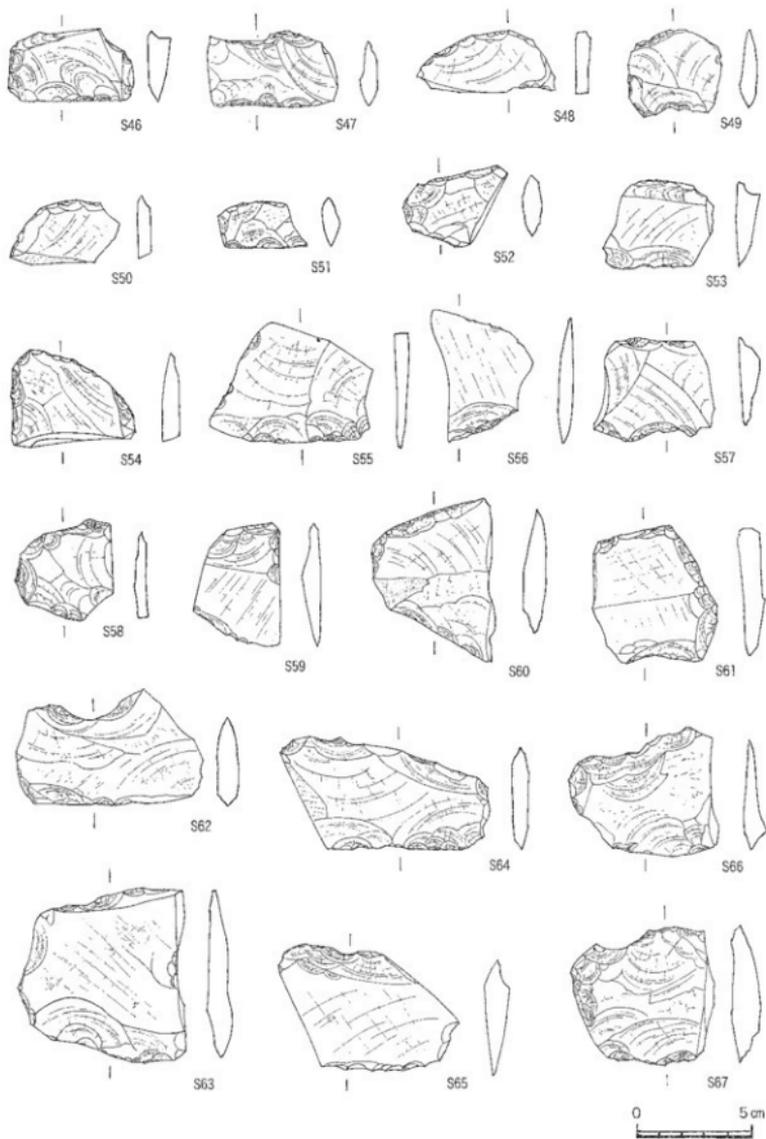
A				B				C																
1		2		3		1		2		3			1		2		3							
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
6	1							1	8	1	1	1				2	58	3		2				84
7								12				65				84								
0.08								0.14				0.77												



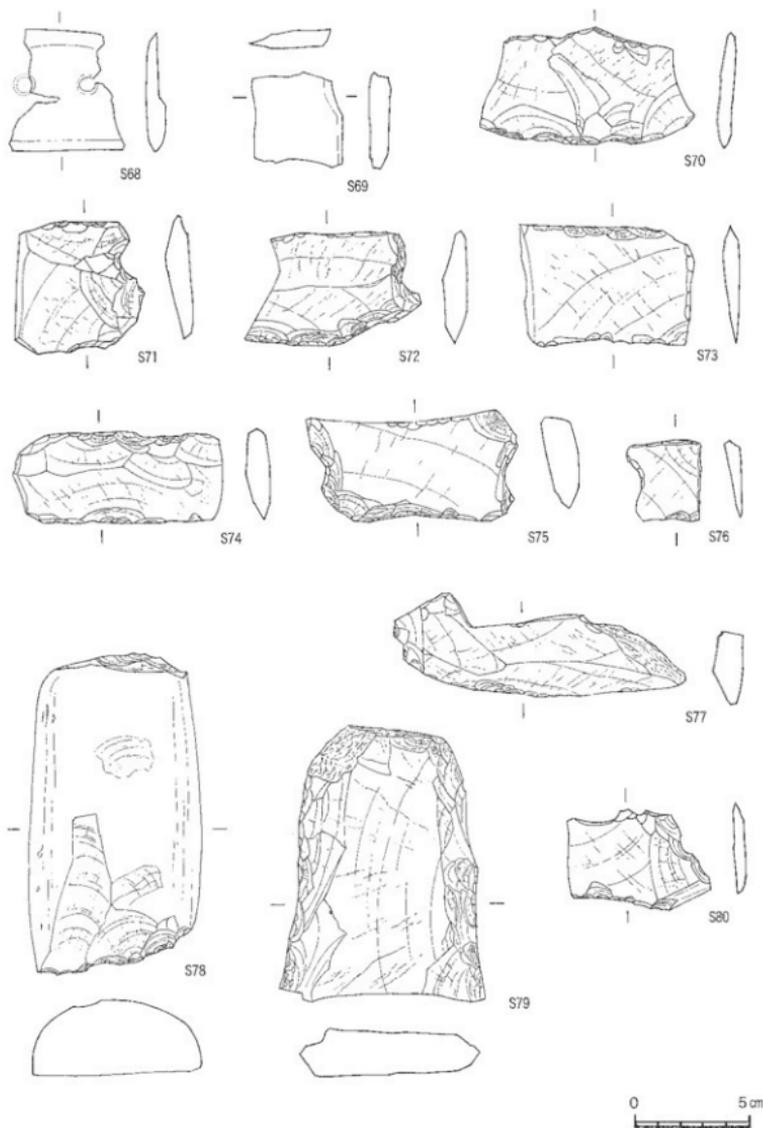
第77图 S1-SD1·S2-2·S3·S3-2出土石器



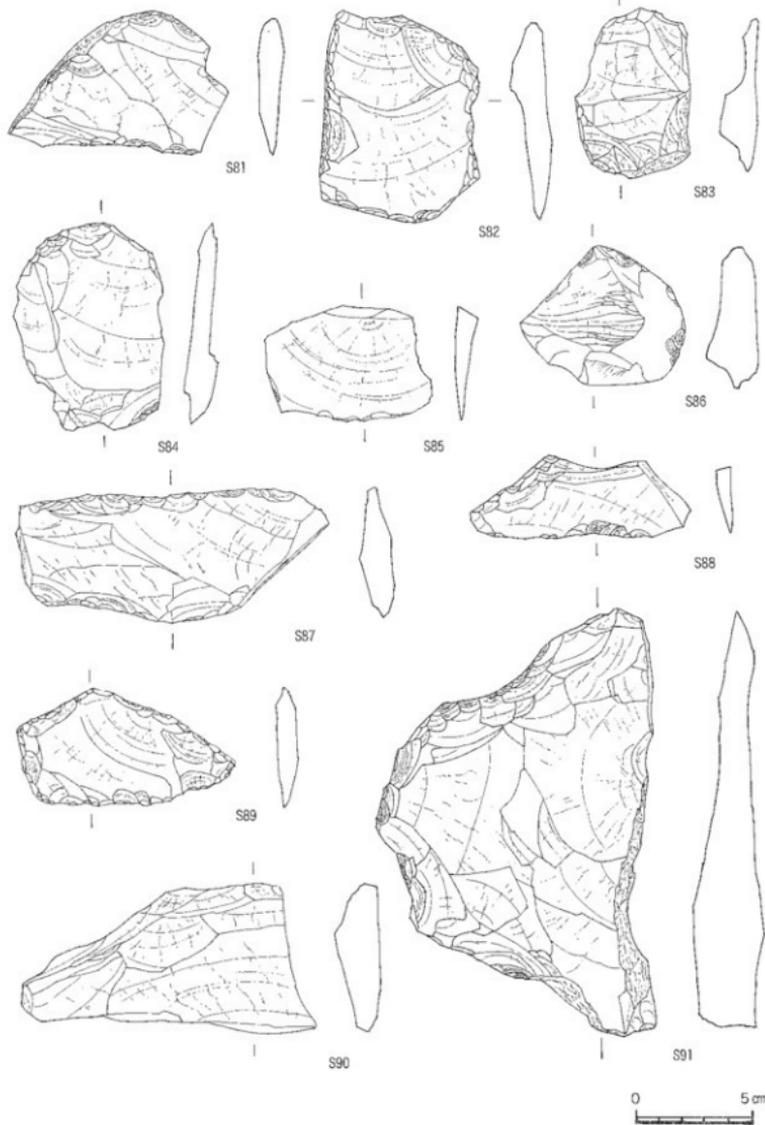
第78圖 S1-SD-1・S3-SD-1・S3-SD-2出土石器



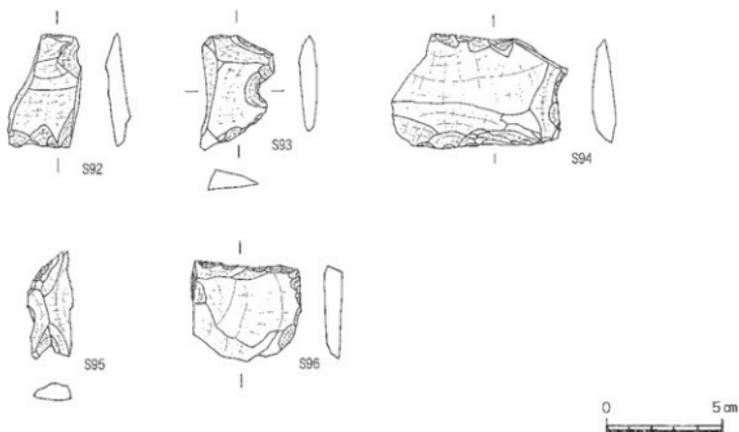
第79图 S3-SD-2出土石器(1)



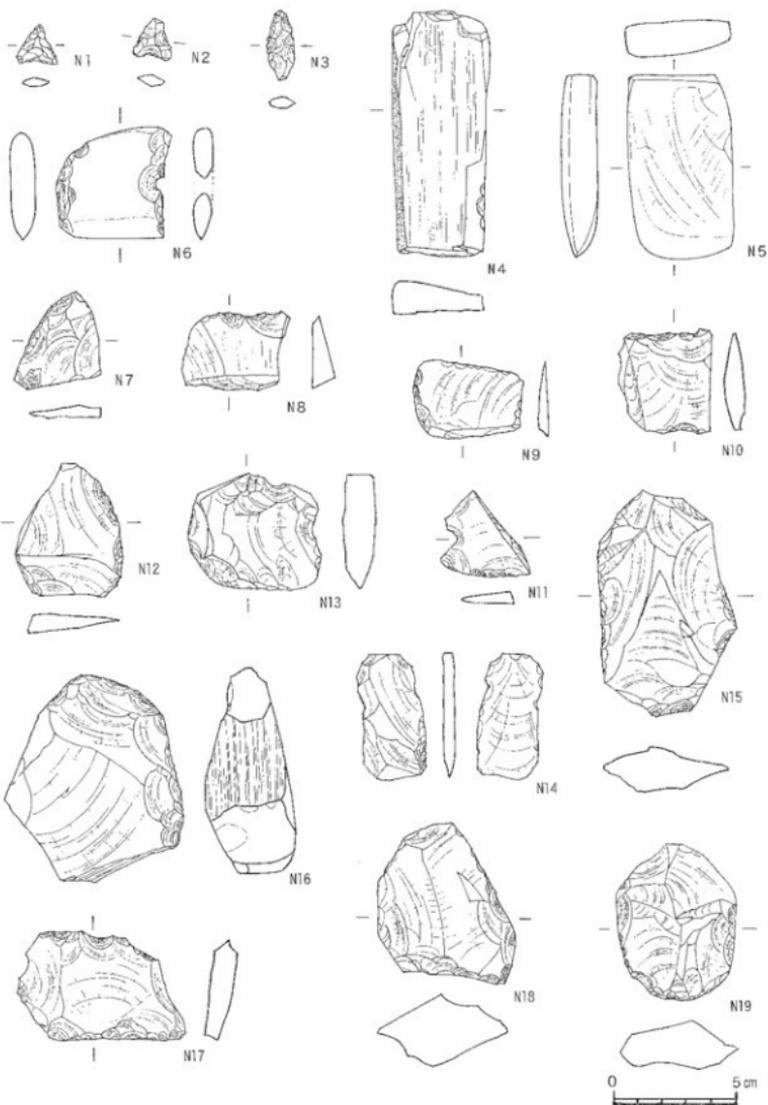
第80图 S3-SD-2出土石器(2)



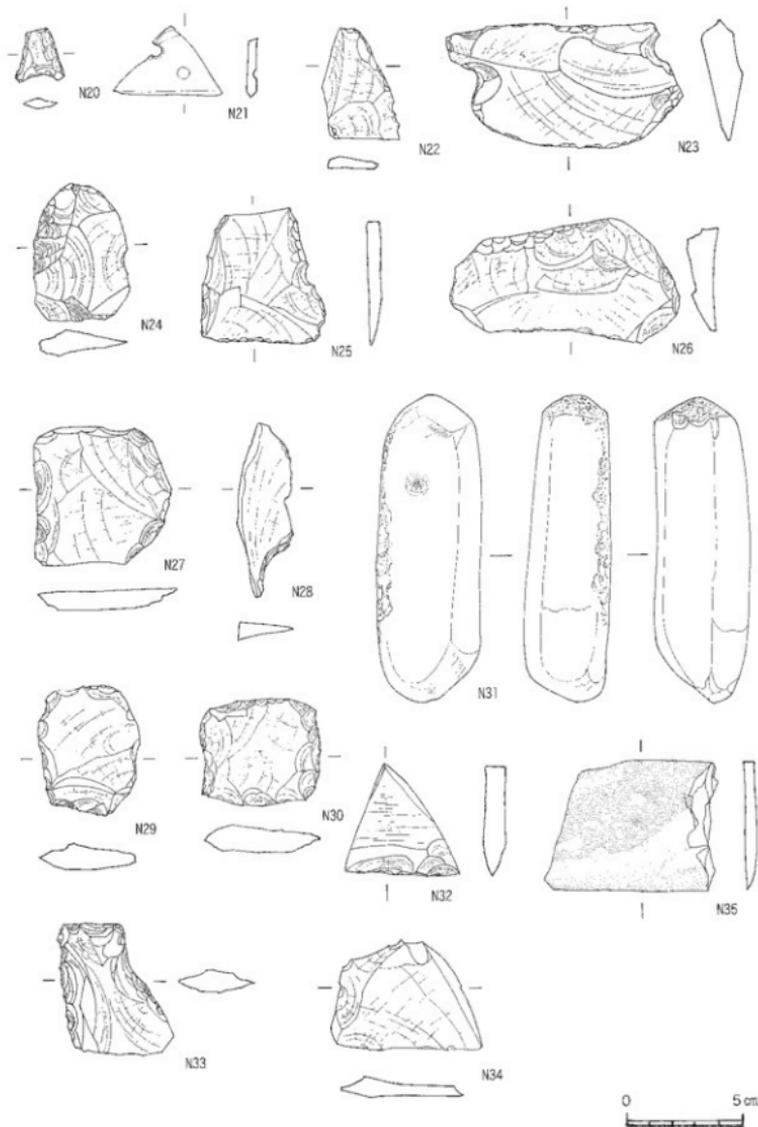
第81图 S3-SD-2出土石器(3)



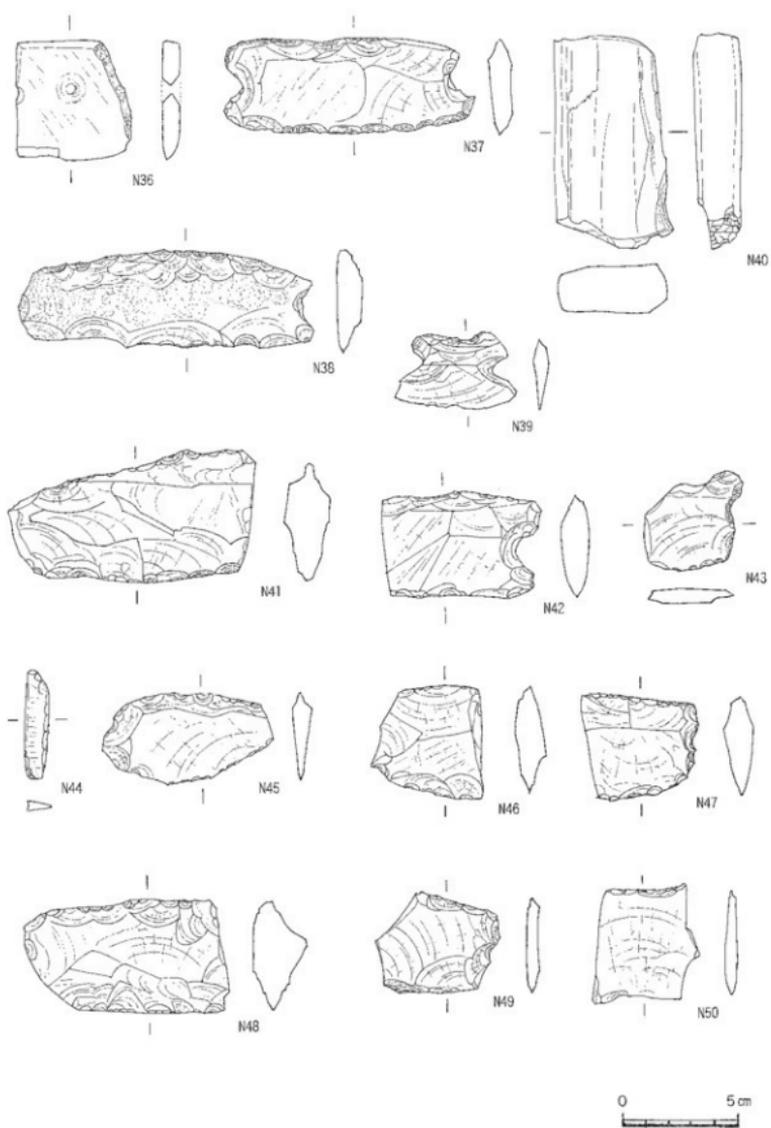
第82図 S1表土・S3-SD-1・2出土石器



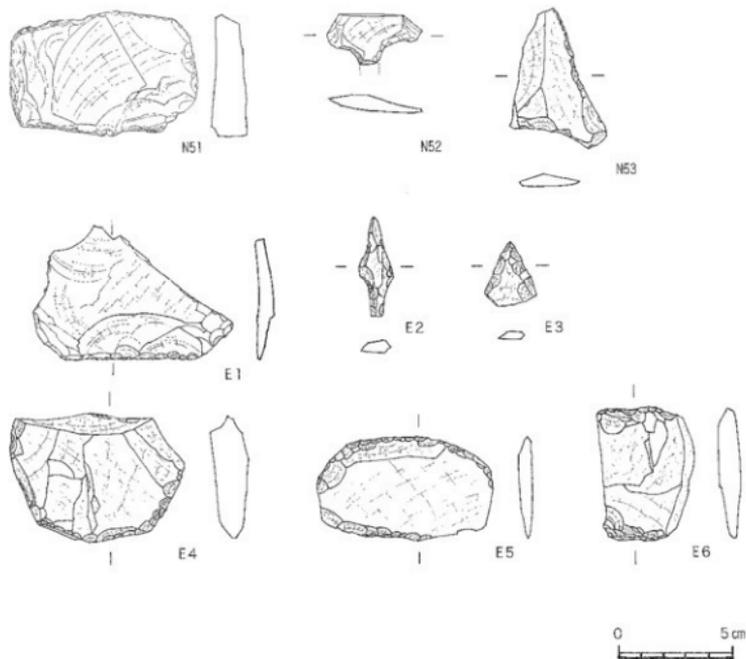
第83圖 N1-SD-1出土石器



第84图 N1-SD-2出土石器



第85图 N2-SD-1 出土石器



第86图 N2-SD-1·N4·E4出土石器

## 石器

### 1 S2-2 出土石器

石器および剥片等は149点出土している。S1は凹基式の石鏃であるが、長さ2.5cmの小形で、一部欠損している、両面共に丁寧な調整が行われている。S2、S3、S4、S5は石錐であるが、S2は基部が小さいが他の3点は基部が大きくなり、刃部が欠損している。基部の調整は縁辺部からの粗い調整だけである。

S7は磨製石包丁の一部で、1対の穿孔の痕跡が認められる。厚さは0.5cmという薄手で刃部は両面から磨かれている。S6、S8は調整剥片でS6は縁辺に細部調整が施されている。

### 2 S3 調査区出土石器

S9は平基式、S10は凹基式の石鏃である。特にS10は長さ2.2cmという小形でしかも鋭い、基部の一部が欠損している。S11、S12、S13は石錐であるが、S13は基部が大きく刃部が欠損している。特にS12は刃部が細かく丁寧な調整が施されている。調整剥片S14は両側に調整痕がある。

### 3 S1-SD-1 出土石器

石器及び剥片等507点が出土している。

石鏃はS15、S16、S17、S18の4点出土している。その内S16は平基式であるが、他は何れも凹基式である。S15は長さ2.3cmに対して幅1.6cm、S17は長さ2.5cmに対して幅1.7cmで、長さに対して幅の比率が高く、両側がやや膨らむ傾向にある。

S19は石錐の刃部であるが、長さが6cmあり、基部が欠損しているにも係わらず刃部の長いのが注目される。

石包丁は磨製のものが3点、打製が1点出土している。

S20は折損しているが、1個の穿孔が認められる、刃部は湾曲しており、使用痕が認められる。S23、S26共に磨製石包丁で両者共に折損しているがS23では1個の穿孔と、穿孔に着手しながら、中止した痕跡が認められる。厚さ0.7cmと薄手で、刃部は軽い湾曲が見られるものの直線に近い。S26は両端が丸味を帯びているものの、細長い短冊形を呈する。

S21は折損しているものの打製石包丁で片方に挟りがなされている。

S25は柱状片刃石斧で、幅1.9cmに対して厚さ1.2cmの付け方は片方が鋭利、他方はやや緩くなっている。

S24、S27、S28は調整痕のある調整剥片である。ただしS27はほぼ直線的な縁辺に丁寧な調整痕がみとめられるので、石包丁が折損したものと思われる。

### 4 S3-SD-1 出土石器

S29は石鏃の木製品であろうか、剥片から粗い打撃によって輪郭線を形造っている。平基式のように見えるが、次の細部調整の段階であるいは凹基式になるのかも知れない。

S32は折損しているが磨製石包丁で刃部は直線的になっている。刃部と背部のほぼ中央部に穿孔が認められる。

S34は両端部が折損しているが、両側が直線的で、丁寧な調整が施されている。しかも肉厚であることからすると石槍が折損したものか、或いは未製品であるのかも知れない。

S30は円形に調整され、中央部から側縁に向かって薄くなり、周縁は細かい調整が行われている。スクレイパーのような役割を果たしていたものと思われる。

### 5 S3-SD-2 出土石器

石鏃は5点であるが、その内凹基式が3点、

いずれも先端が鋭く、丁寧な調整が背施されている。基部が突出する尖基式はS41素材剥片の剥離痕をそのまま残して主として周縁部に調整を施す。S39は長さ2.5cmに対して幅1.6cmで細長いが先端部にあまり尖らない。

石錐は2点でS42は基部は小さいが、錐の刃の部分は細く、長く丁寧に調整されている。S43は基部は大きく、剥離痕をそのまま残す、刃部は短いが鋭い。

磨製石斧、S45は折損しているが、刃部は蛤刃で、鋭利である。

S78は蛤刃の石斧と思われるが、両面に目的剥離痕をそのまま残し、縁辺部に調整が施されている。中央部で折れているが、残っているのは刃部で基部が欠けている。

石包丁、磨製石包丁S68は穿孔2孔の痕跡を止めながらも折損している。刃部、背部共に直線的であるS69は磨製挟入り片刃石斧の損部である。

打製石包丁・S70からS77までは打製石包丁である。殆どが一部欠損しているが、両端に挟りがみられる。刃部がほぼ直線的なもののS73、S74、S75等に対して、刃部が湾曲するS70、S72などもある。

その他の石器は調整痕がある調整石器として紹介しているが、中にはS63、S82、S87、S89などは打製石包丁の欠損部と思われるものもある。

#### 6 N1-S D-1 出土石器

N1、N2は凹基式の石鏃であるが、いずれも長さ1.6、1.7という小さいもので幅も1.5、1.1という数値からも分かるように二等辺三角形を呈する。

N3は尖基式で、先端部はあまり鋭利ではない。N6は磨製石包丁で穿孔部から欠損しているが、比較的厚手で、先端部には意識的に調整を施したかのような調整痕が認められ

る。或いは折損後スクレイパーとして利用したものかもしれない。

N4、N5は磨製石斧である。N4は変岩質の石を用いているために中央部から剥離している、先端部は欠けている。N5は扁平片刃石斧で、長さ7.6cm幅4.4cmを計る。

N10、N11は打製石包丁の欠損部である。その他いずれも調整痕があるもので、N14は縦剥の剥片、N19は円盤状で周縁に調整痕がある、スクレイパーである。

#### 7 N1-S D-2 出土の石器

N20は凹基式の石鏃であるが、先端部が欠けている。

N21、N32、N35は磨製石包丁である。N21は穿孔部で欠損している。直線的な刃部近くに穿孔をしようとして中止した痕跡がある。厚さは0.5cmという薄手である。N32は頁岩、N35は変岩質で何れも欠損している。

N23は打製石包丁で背部は直線的であるが、刃部は湾曲している。

N23は石錐で、剥片の剥離痕を大きく残し、錐の頭を調整している。

N31は、砂岩の敲石、先端部と基部に潰れた痕跡が認められ、表裏、左右共に磨かれており、磨き石としても利用されている。

その他はいずれも調整痕がある調整剥片で、N24、N27、N29、N30などは、周囲に施された調整痕が丁寧で、スクレイパーである。

#### 8 N2-S D-1 出土石器

N36は磨製石包丁で穿孔2孔が残されているが両端は折損している。

N37、N38、N39は打製石器で完成品である、ただしN38は挟りが片方だけで、或は折損しているかも知れない。刃部は湾曲しているが、背は直線的である。それに対してN37は両側共に直線的である。

N39は両側に抉りが認められる小形の石包丁である。N41、N47、N48共に石包丁の折損部の可能性がある。

N43はスクレイパーで刃部が欠損している。N45は調整痕を残す調整剥片である。

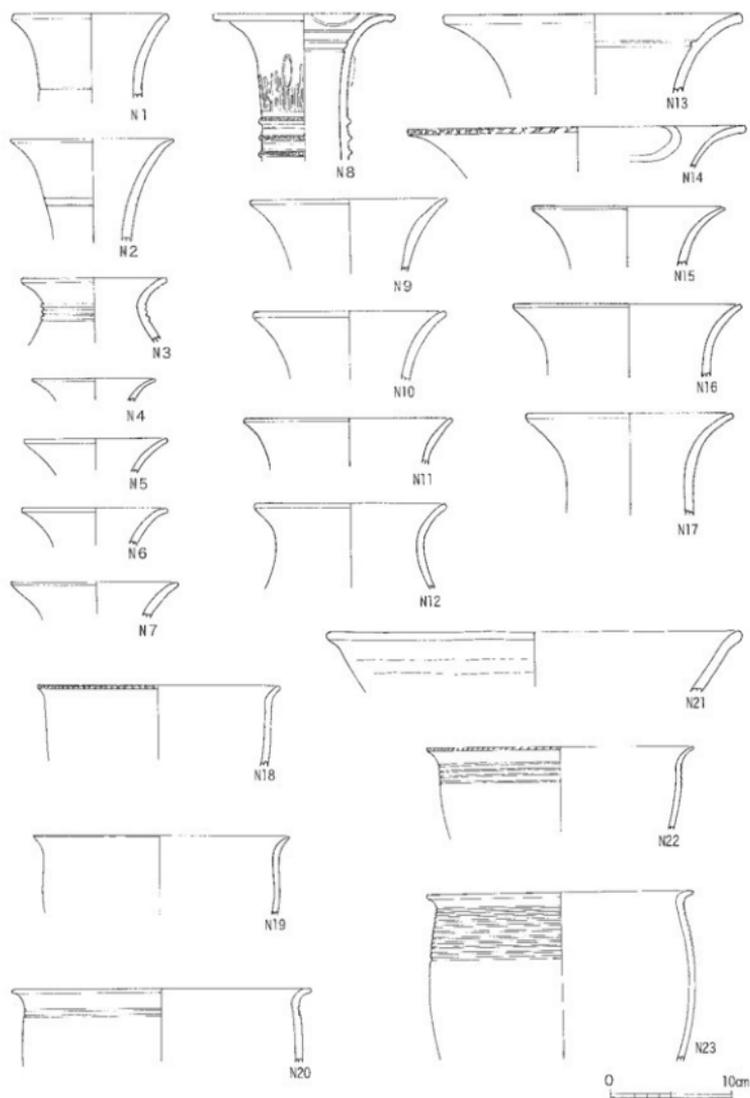
N40は欠損した磨製石斧で、材質は緑泥変岩である。N51はN4調査区から出土したもので、縁辺に調整痕がありスクレイパーである。

## 9 E調査区出土石器

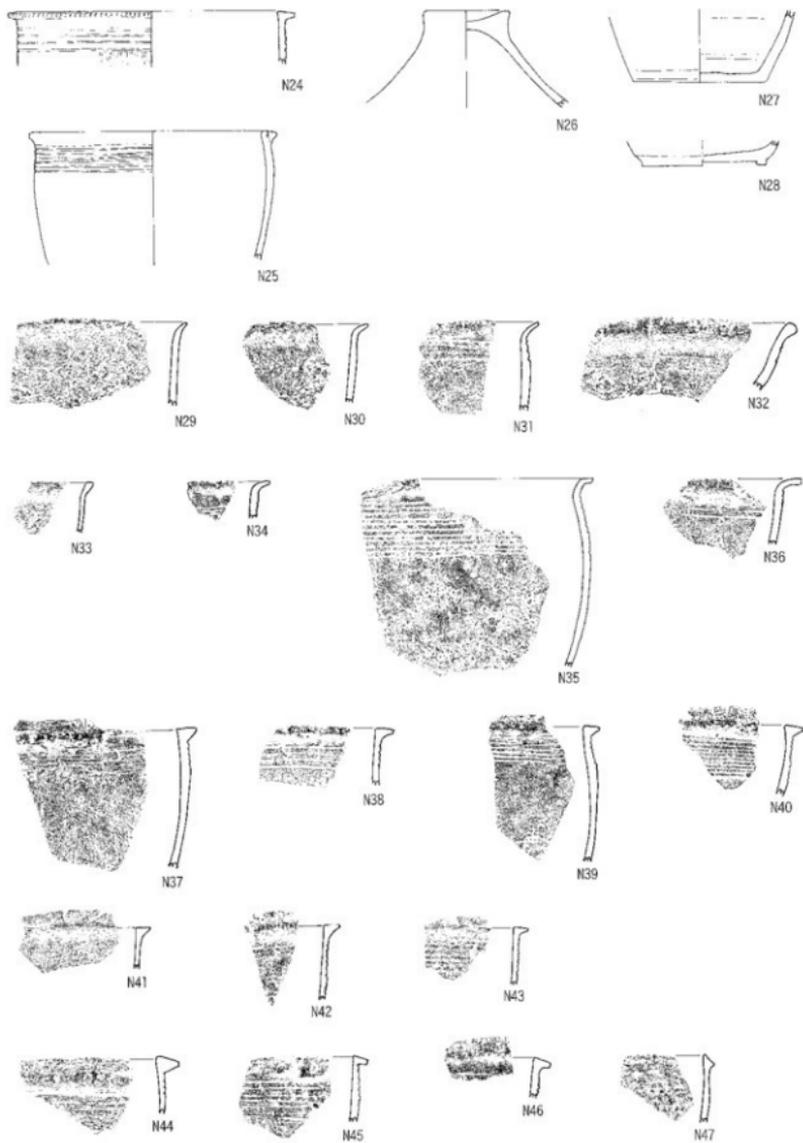
E2は石錐であろうか、両端に錐の刃部と思われる調整痕が認められる。E3は石鏃で基部は欠損している。その他いずれも縁辺に調整が施されており、調整剥片かスクレイパーである。

## 第三次調査出土遺物





第87図 第一調査区出土遺物 (1)



第88图 第一調査区出土遺物 (2)



## 第一調査区出土土器

第一調査区から出土した土器の大部分は、土層序②から出土したもので、溝・N2-S D-1からは62点の土器片が検出されているが、その総てが細片で、壺形土器、甕形土器などの特徴を備えたものは一点も出土していない。

また溝・S D-2からも22点の土器片が採取されているが、ここも総てが細片で、壺形土器、甕形土器などの特徴的な遺物は一点も認められていない。

包含層から出土した壺形土器N8は、口頸部であるが、細長い筒形の頸部が特徴的で、頸部には3条の凸帯が巡り刻み口文が施されている。またゆるやかに大きく反転する口縁の端部は水平になり、内部には3条と半月状の凸帯が施されている。N2は同じ長頸壺であるが、細長い漏斗状の頸部を呈する。

N13、N14共に口縁部だけであるものの口縁内部に凸帯が施され、またN14には口縁端部に押圧文が巡る。

N3は、口縁部が短く外反し、頸部には3条の削り出し凸帯が巡る。第一調査区ではN3タイプは少なく、N1タイプの長頸壺が主流を占めている。N15、N16、N17は長頸壺

の口頸部である。

総数90点が出土している、その内最も多いのがCタイプの33点で、全体の40%を占めている。中でも無文のもの(C-1)が24点、沈線文5条以内のもの6点となっており、無文土器が際立って多い。次にAタイプが31点、30%、Eタイプが17点、20%となっている。

Aタイプでは、無文土器3点に対して沈線5条以内が12点で、ここではA-2が突出している。

N18はA-1タイプであるが、口縁端部に刻み目が施されているもの。N19、N29、N30はA-1タイプで無文のもの、N22、N20はA-2タイプである。

N34、N35、N36はBタイプであるが、N36はB-2、N35はB-3タイプである。

Cタイプは、N41がC-1、N37、N38がC-2タイプ、N39が沈線文が6条、N40は10条施文されており、C-3タイプになる。N47はF-1タイプに属する。

### 土器底部

底部は164点が計測されている。その内Cタイプの残存率25%以内のものが80%を占めている。底部の直径は、10cm以内が164点の中で145点を占めており、卓越している。

第24表 第一調査区出土遺物分類表

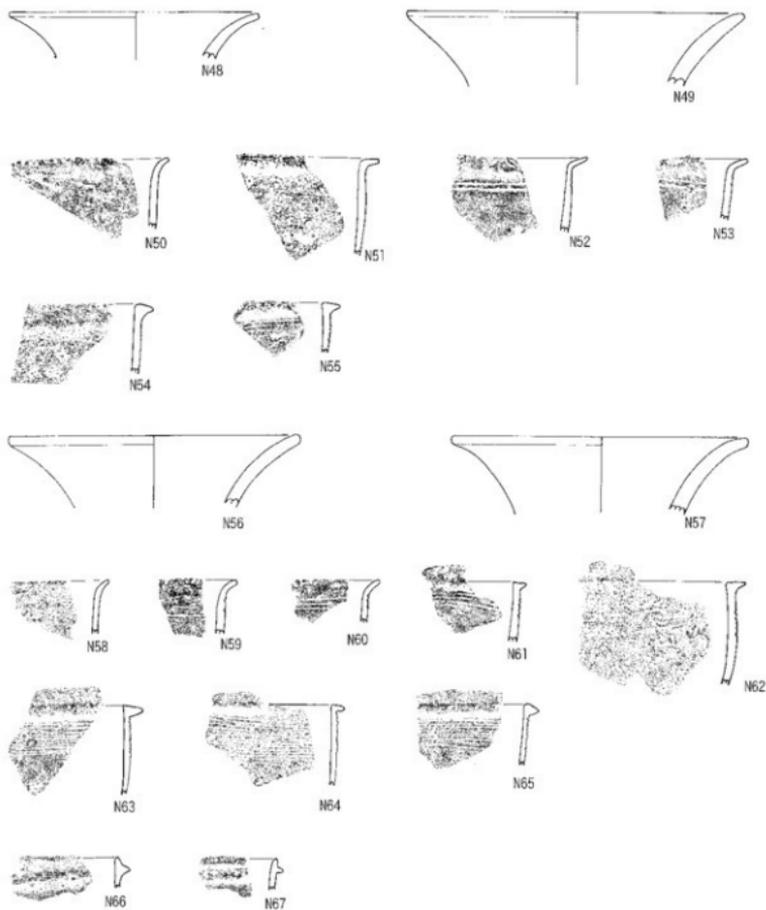
調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	4,499	3,927	156	176	136	22	23	59

### ■甕形土器分類表

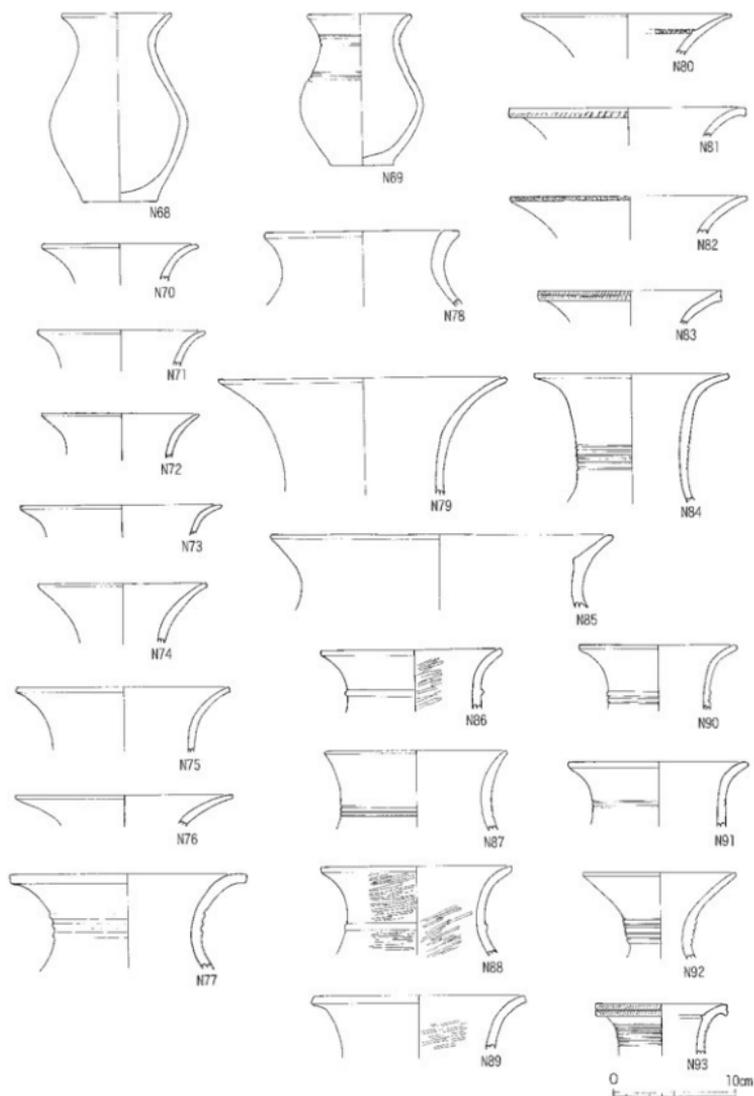
A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
24	6	1	2	2	1	24	6	3	1	2		6	10	1	1									90
31			5			33			3			17			1						90			
0.3			0.06			0.4			0.03			0.2			0.01									

### ■底部分類表

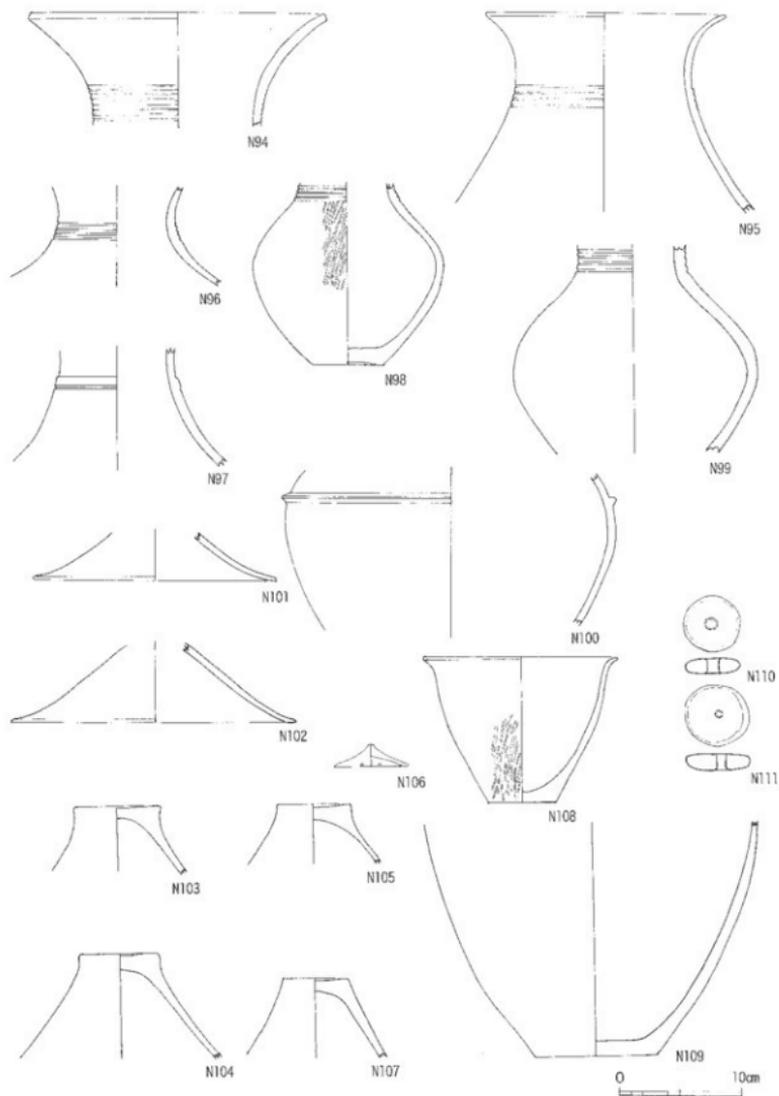
A												B												C																
1				2				3				1				2				3				1				2				3								
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
3	12	2		1				1				14	2			1	2			1				1				12	96	11	2	1	2			1	2			164
20												20												124																
0.1												0.1												0.8																



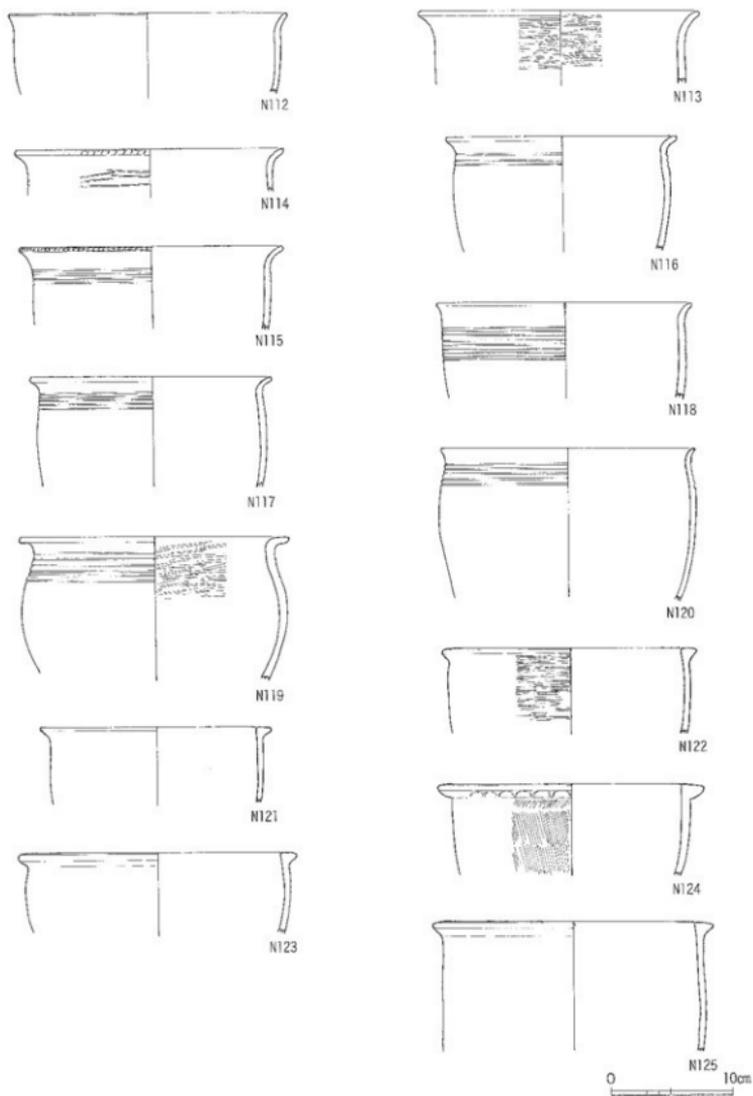
第89图 第二调查区出土遗物



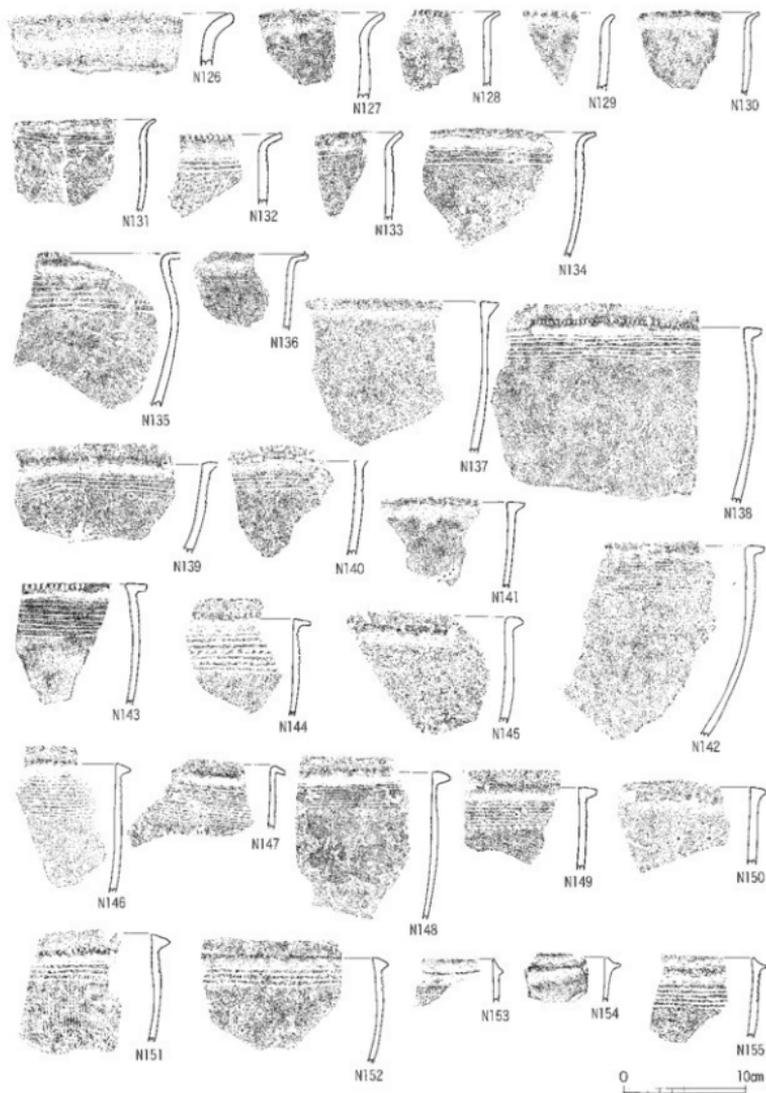
第90图 N8-SD-1 出土遗物 (1)



第91図 N8-SD-1 出土遺物 (2)



第92図 N8-SD-1出土遺物(3)



第93図 N8-SD-1出土遺物(4)

第25表 第二調査区包含層出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	2,868	2,438	78	111	81	1	2	157

■甕形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
15	9		2			6	5	1			4	8	4	4	3									61
24			2			12			4			16			3						61			
0.4			0.03			0.2			0.07			0.3			0.05									

■底部分類表

A						B						C																
1		2		3		1		2		3		1		2		3												
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	95
6				1				2				5		1				15	6	3		2				95		
9						6						80																
0.09						0.06						0.84																

第26表 第二調査区 満・N8-SD-1出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	5,023	4,239	252	241	281	9	0	1

■甕形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
31	24	5	5	1	3	27	16	7	1	1	4	34	15	10	2		1							187
60			9			50			6			59			3						187			
0.32			0.05			0.27			0.03			0.32			0.02									

■底部分類表

A						B						C														
1		2		3		1		2		3		1		2		3										
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	215		
6	23	1						4	11					1				53	12	3		1				215
30						16						169														
0.14						0.07						0.79														

第27表 第二調査区 満・N8-SD-2出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	669	566	26	48	15	10	4	0

■甕形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
5	5		1			2						2	2	1										18
10			1			2						5									18			
0.56			0.06			0.11						0.28												

■底部分類表

A						B						C												
1		2		3		1		2		3		1		2		3								
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	37
4	1	1						1								1	28	1	1	1				37
5						1						31												
0.14						0.03						0.84												

## 第二調査区出土土器

溝・N8-S D-1

5,023点の土器片及び石器、剥片等が出土している。

壺形土器・N68は無文土器であるが、口縁部は頸部からく字形にほぼ直線的に外反する。胴部のふくらみは、土器の中央部よりやや下位にある。N69は頸部と胴部の上位に沈線文が入っているが、総体的にN68のグループといえよう。

頸部に凸帯が施されるN86、N88なども同じグループに入れておきたい。

N90、N91などは、口縁部の形態としてはN68に近いが、頸部が筒形になっている点、N79、N84のグループに近づいている。N92は特異な様相を呈し、頸部には削り出し凸帯が巡る。

第二調査区の壺形土器で口縁内部に凸帯が施されたり、口縁端部が角張りそこに沈線文や、刻み目文が施される一群がある。口縁端部は大きく反転し、水平状になる。N77、N83などがそれである。

N94はN79のグループ、N95はN68タイプに近いが、胴部から緩やかに狭まり頸部に至る形態は、N68に先行する様相を呈する。N98、N99の胴部はN90、N91とセットになる可能性がある。

N100は胴部が球形になり、突帯文が巡る。

N101 TO 107までは蓋形土器であるが、N106は摘みの部分が山形になっているのに対して、他のものは総て中央部が僅かばかり窪んでいる。

N110、N111は土錘である。

壺形土器

N8-S D-1

壺形土器187点が計測されている。その内Aタイプが60点で32%、Eタイプが59点、

32%、Cタイプが50点、27%となって、A、C、Eがほぼ同じ割合を占めていることが注目される。

またAタイプでは、1、2タイプが31点と24点で卓越し、Cタイプでも1、2タイプが27点と16点で50点中で43点を占め、Eタイプでも、59点の中で1、2タイプで49点を占めている。

壺形土器で注目されるのは、CタイプのN144は沈線文の間に刺突文が入っているもの、EタイプのN146、N147などで櫛目文が施文されている。

溝・N8-S D-2

隣接するN8-S D-1からは大量の上器が出土したにもかかわらず、N8-S D-2からは遺物総数669点、その内壺形土器片が4点、甕形土器片が22点出土したに過ぎない。壺形土器は、N48、M49、22点の口縁部が実測されているが、何れも細片で、軽く外反する。

甕形土器

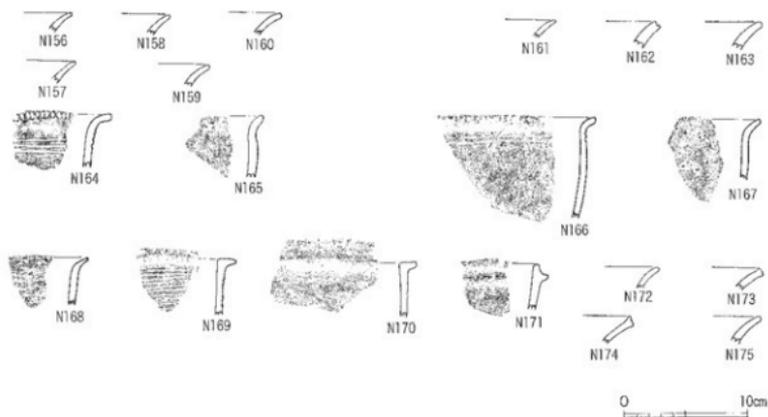
18点の甕形土器の内、Aタイプが10点で56%を占め、次いでEタイプが5点で28%となっている。

N50、N51はAタイプの1に属し、N50には口縁部に刻み目が施されている。

N52、N53はA-2タイプで、沈線文が施文されている。

N54、N55はEタイプで、N55には沈線文があり、E-2タイプである。

なおN63、N64、N65はN8-S D-1を覆う表土直下の包含層から出土したものであるが、いずれも櫛目文土器である。



第94図 第三調査区出土遺物

### 第三調査区出土土器

第三調査区からは総数777点の土器片等が検出されているが、何れも細片で、壺形土器の口縁部と識別できるもの12点、甕形土器と識別できたもの20点に過ぎない。

N156、N157はS D05から検出されたもの、N158、N159、N160はS D01から検出されたものである。

ピットから検出されたものとしては、N161がP37、N162がP37、N163がP48から出土したものである。

いずれも軽く外反口縁を思わせるが、N162は口縁端部に沈線文が入っている。

### 甕形土器

この調査区から出土した甕形土器で、計測可能なものは僅か28点に過ぎなかった。

N164はS D01から出土したものでA-2タイプ、N165はS D03から出土したもので、A-1タイプである。

N166はピット16、N167はピット46から出土したもので、N166はA-2、N167はA-1タイプである。

その他包含層から出土したN168はA-1、N169はC-3、N170はC-1、N171はF-1タイプである。

第28表 第三調査区包含層出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	3,189	2,854	128	98	12	10	4	83

## ■埴形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他						
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
3												1															4
3														1													4
0.75												0.25															

## ■底部分類表

A				B				C																				
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																	
1												1				2				3								9
1												1				6												9
0.11																0.78												

第29表 第三調査区ピット内出土遺物分類表

調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	206	182	9	6	9	0	0	0

## ■埴形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他						
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
2																											5
5																											5
1																											

## ■底部分類表

A				B				C																				
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																	
1												1				2				3								6
1												1				4												6
0.17																0.83												

第30表 第三調査区 溝・SD出土遺物分類表

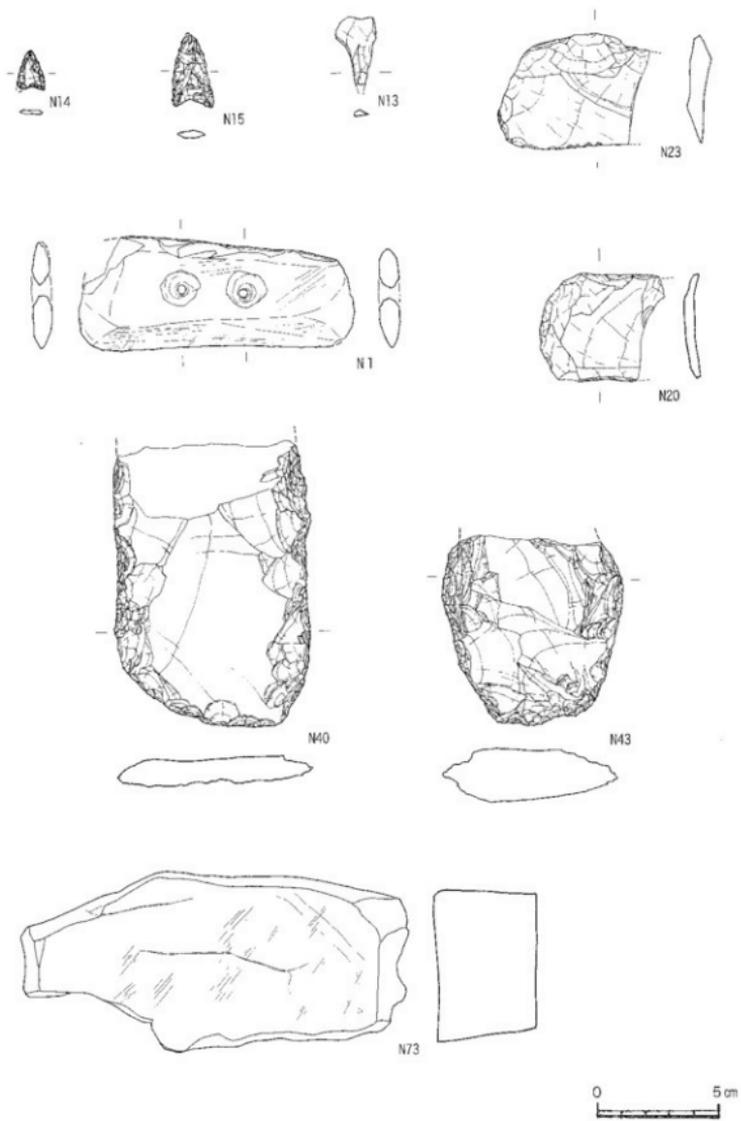
調査区	総数	土器片	口縁部	底部	その他	石調	石器	その他
	333	289	11	11	22	0	0	0

## ■埴形土器分類表

A			B			C			D			E			F			G			他						
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
3												1															4
3														1													4
0.75												0.25															

## ■底部分類表

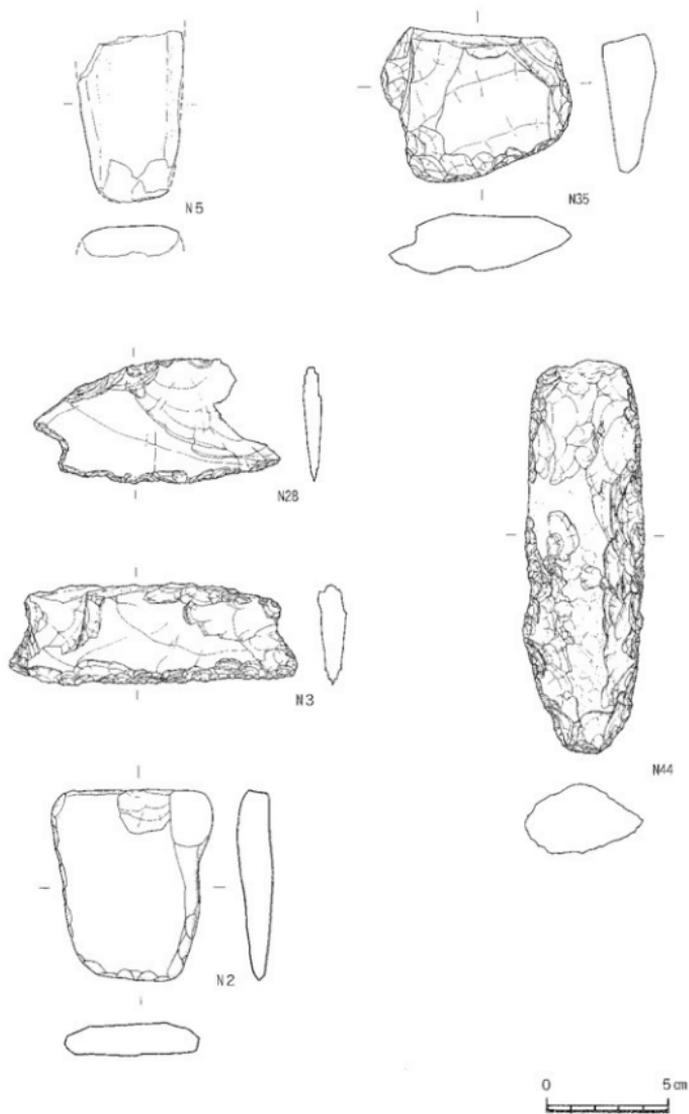
A				B				C																				
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																	
1												1				2				3								9
1												1				5												9
0.11																0.78												



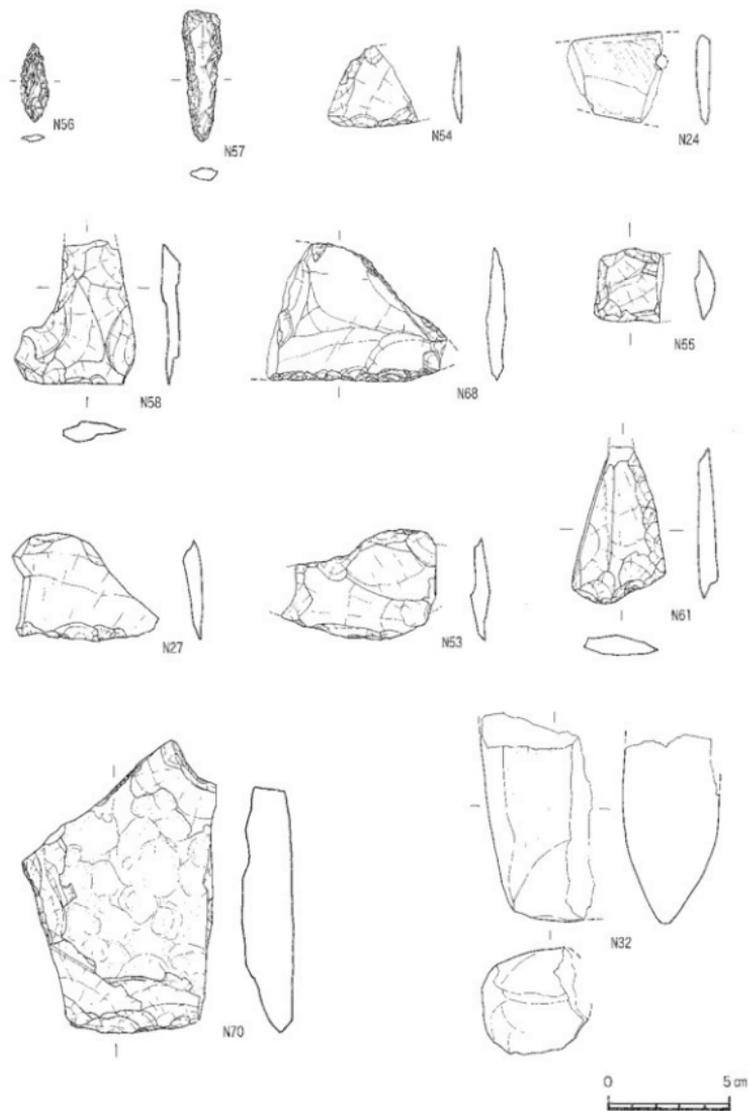
第95図 第一調査区出土石器 (1)



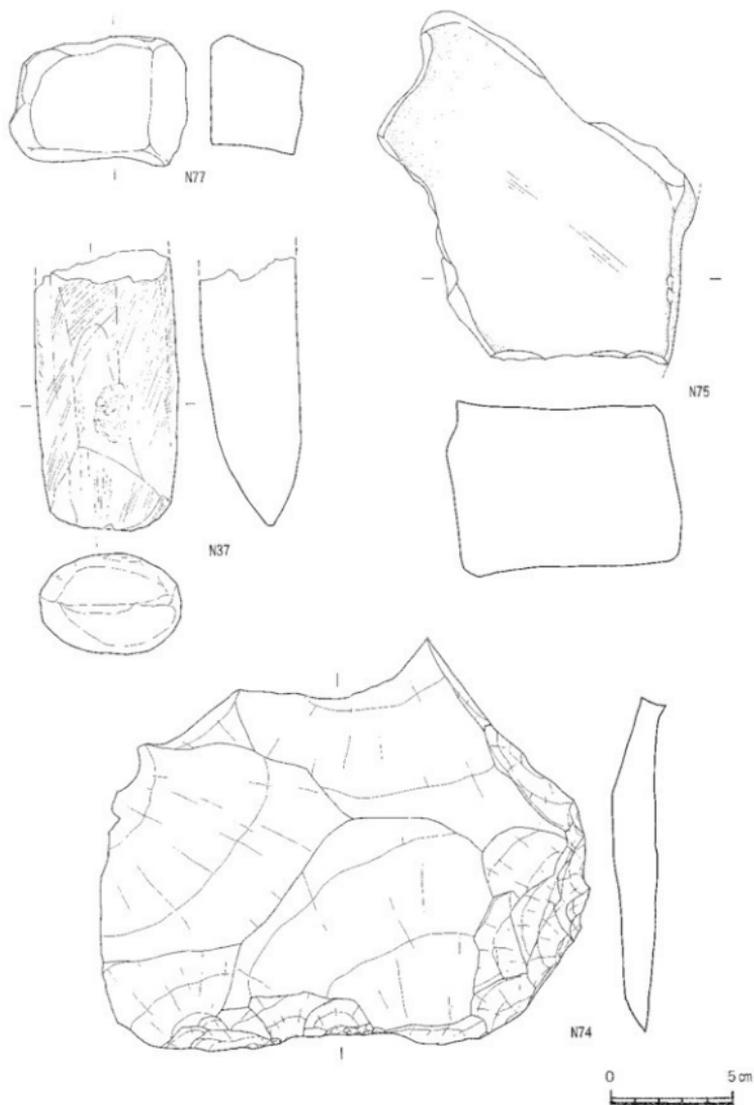
第96图 第一調査区出土石器(2)



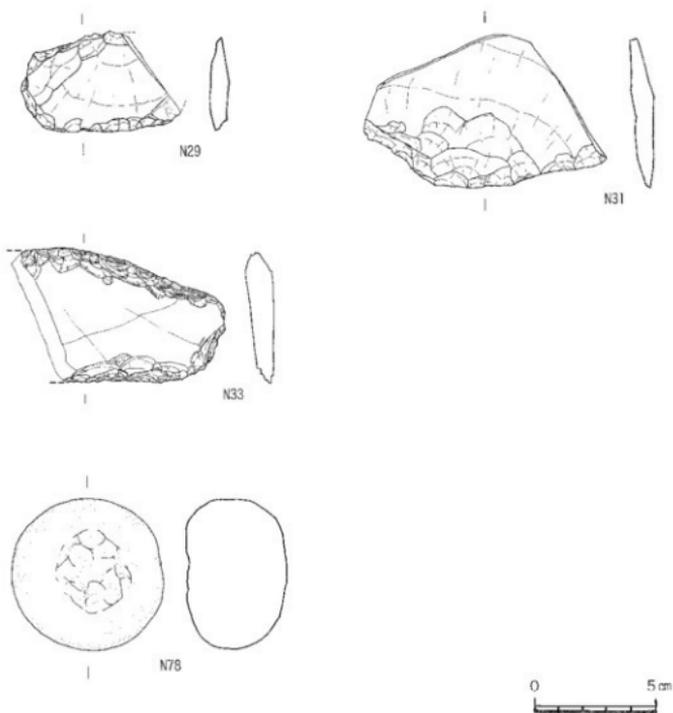
第97图 第二调查区出土石器 (1)



第98圖 第二調査区出土石器 (2)



第99図 第二調査区出土石器 (3)



第100图 第二調査区出土石器 (4)

## 石器

### 1 第一調査区出土石器

第一調査区からは、33点の石器及び調整剥片等が出上している。

石鏃はN14とN57の2点が凹基式で、N14は長さ1.25cmと小形であるのに対してN57は長さ3cmあり、大型鏃の様相を呈している。N13は石鏃であるが、刃の部分が欠損している。

磨製石包丁はN1とN10の2点が検出されている、その内N1は長さ11.2cmに対して幅4.6cmあり、ほぼ中央部に2個の穿孔がある。背部、刃部ともにほぼ直線的であるが、刃部があたかも使用痕でもあるかのようにかすかに凹みをみせる。

N10は欠損しているが、背部、刃部ともにややふくらみをみせる。2個の穿孔は間隔が2.7cmで、表裏の両側から穿たれている。

N40は折損しているが、残存部の長さ11.5cm、幅7.9cm、厚さ0.8cmで、長さと同幅に対して、比較的薄い、表面に剥離痕をそのまま残し縁辺は細かい調整がなされている、打製石斧である。N43も折損しているが、打製石斧であろうか。

N41は直径10.0cmの円形で、厚さは1.7cmの円板状を呈する。両面ともに調整され、さらに縁辺部にも丁寧な調整が施されている。

N23、N20は切損しているが、両側共に直線的で、抉りのない打製石包丁の可能性もあるが、調整剥片と記録しておくこととした。

N73は砂岩質の砥石で、切損して形態は不整形であるものの断面は長方形を呈する。

N72も砂岩質で、中央部が凹んで磨かれており、砥石である。

### 2 第二調査区出土石器

第二調査区から検出された石器及び調整剥片等は46点に及んでいる。

#### N2-SD-1出土石器

N56は長さ3.2cm、最大幅1.0cmの尖基式の石鏃である。N2は石鏃の刃部で、長さ5.2cmの先端部は鋭利であるが、基部は1.4cmでかなり幅広く、かつ厚くなっている。

磨製石斧はN32と、N37のいずれも大型蛤刃石斧で、欠損しているものの、刃部は残されている、石質は緑色片岩である。

N70は先端部は直線的に調整され、刃部を形造っている。側縁部については、片方は直線的であるが、他方はやや外に張り出している。表面は自然面を残しているが打製石斧の未製品のようなものである。

磨製石包丁はN24の切損したものの1点だけであるが、穿孔部で切損している。厚さは0.5cmの薄手である。

N33は折損しているが、刃部が直線的で、背が膨らみを持っているところからみると打製石包丁と思われる。N29も抉りがないので、打製石包丁の折損部かもしれない。

N68についても直線的は刃部がみられるところなどは打製石包丁の折損部と思われる。

調整剥片はN31、N53、N58、N61など部分的に調整痕が認められる。

N75、N77は砂岩質で、欠損しているために形態的には不整形であるものの、表面が摩滅しており、砥石である。

N74は部分的ではあるが、縁辺部に粗い調整痕が見られる石核石器である。

### 3 N8-S D-2出土石器

磨製石斧、N5は結晶片岩の磨製石斧であるが、基部が欠損しており、現存長は6.7cmで、刃部は剥離、欠損しているところもみられるが、蛤刃になっている。N2は舌状の石斧で、現存する長さ7.6cm、基部の幅6.5cmの砂岩である。厚さは最も厚い部分で1.6cmの板状である。

縁辺部に調整痕があり、刃部に向かって次第に細くなっているところからすると、石斧として加工されたものと思われる。

打製石包丁、N3はサヌカイト製の打製石包丁で、長さ11.7cm、幅4cmを計る。背、刃部ともに直線的に加工され、両端に抉りがある。背部に比べて刃部は丁寧な細かい調整が施されている。

N58は現存する全長は9.0cmであるが、ほぼ中央部から折損している。全体のプローションは、背部、刃部共に中央部で膨らみをもっており、一端に抉りがある。厚さは0.8cmで薄手である。

N35は、サヌカイトを加工したもので、細かく調整が施された先端部は次第に細くなり、刃部を形成する。

周縁部にも細かい調整が及んでおり、基部は2.3cmの厚みがあり、切損している。打製石斧の先端部と思われる。

N44は全長16cm、幅5cm、最も厚い部分は2.8cmになる。比較的肉厚で、表裏、周縁共に細かい調整が施されている。

先端部は次第に細く、かつ薄くなり、刃部を形造っている。打製石斧としておきたい。

表31 土器一覧表 二次調査

押図番号	器種	口径	底径	素分類	出土地点
S 1	甕	20		A-1	S1-2
S 2	甕	18		A-1	S1-2
S 3	甕	16		A-1	S2-2
S 4	甕	20		A-2	S2-2
S 5	甕	16		A-1	S2-2
S 6	甕	18		A-2	S2-2
S 7	甕	16.4			S1-2
S 8	甕鉢				S2-2
S 9	甕	15.2			S1-2
S10	甕	15.2			S1-2
S11	甕	16			S1-2
S12	甕	17.4			S1-2
S13	甕部	11			S2-2
S14	甕部	7			S2-2
S15	甕部	7.6			S2-2
S16	甕	12			S1-SD-1
S17	甕	14			S1-SD-1
S18	甕	14.8			S1-SD-1下
S19	甕	15.7			S1-SD-1下
S20	甕	16.2			S1-SD-1
S21	甕	19.3			S1-SD-1
S22	甕	21			S1-SD-1
S23	甕	14.7			S1-SD-1
S24	甕	13.2			S1-SD-1
S25	甕	15			S1-2
S26	甕	17.4			S1-2
S27	甕	12			S1-SD-1
S28	甕	12			S1-SD-1
S29	甕	13.2			S1-SD-1
S30	甕	15.2			S1-SD-1
S31	甕	15.5			S1-SD-1
S32	甕	25.6			S1-SD-1
S33	甕		4.5		S1-SD-1
S34	甕	13.8			S1-SD-1
S35	甕	12			S1-SD-1
S36	甕	17.6			S1-SD-1
S37	甕	16			S1-SD-1
S38	甕	16			S1-SD-1下
S39	甕	16.5			S1-SD-1
S40	甕	20			S1-SD-1
S41	甕	21.4			S1-SD-1
S42	甕	19.4			S1-SD-1

押図番号	器種	口径	底径	素分類	出土地点
S43	甕	20.2			S1-SD-1
S44	甕	21		A-3	S1-SD-1
S45	甕	13		A-2	S1-SD-1
S46	甕	20.2		A-1	S1-SD-1
S47	甕	19		A-2	S1-SD-1
S48	甕	19.2		A-2	S1-SD-1
S49	甕	22		A-3	S1-SD-1
S50	甕	24		E-1	S1-SD-1
S51	甕	20.2		A-1	S1-SD-1
S52	甕	22		A-2	S1-SD-1
S53	甕	20		A-3	S1-SD-1
S54	甕	22		B-2	S1-SD-1
S55	甕	19		B-2	S1-SD-1
S56	甕	18		B-1	S1-SD-1
S57	甕	18		C-1	S1-SD-1
S58	甕	52		C-1	S1-SD-1
S59	甕	26		C-3	S1-SD-1
S60	甕	29		C-1	S1-SD-1
S61	甕	106		D-1	S1-SD-1
S62	甕	18		D-2	S1-SD-1
S63	甕	8		D-2	S1-SD-1
S64	甕	18		D-2	S1-SD-1
S65	甕	24		E-1	S1-SD-1
S66	甕	24		E-2	S1-SD-1
S67	甕	19		E-3	S1-SD-1
S68	甕	12		E-3	S1-SD-1
S69	甕	17		F-2	S1-SD-1
S70	甕	17.6		F-3	S1-SD-1
S71	甕	16.8		F-3	S1-SD-1
S72	甕	18		F-2	S1-SD-1
S73	甕	16.4		F-2	S1-SD-1
S74	甕部		7		S1-SD-1
S75	甕部		7		S1-SD-1
S76	甕部		7.5		S1-SD-1
S77	甕部		7.3		S1-SD-1
S78	甕部		7.2		S1-SD-1
S79	甕部		5.8		S1-SD-1
S80	甕部		7		S1-SD-1
S81	甕部		8.6		S1-SD-1
S82	甕部		8		S1-SD-1
S83	甕部		6.8		S1-SD-1
S84	甕部		5.4		S1-SD-1

標頭番号	器種	口径	底径	器分類	出土地点
S85	底部		7.4		S1-S-D-1
S86	底部		8.2		S1-S-D-1
S87	底部		7		S1-S-D-1
S88	底部		9		S1-S-D-1
S89	底部		8.3		S1-S-D-1
S90	底部		8.6		S1-S-D-1
S91	壺	17			S2-S-D-2
S92	壺	13.4			S2-S-D-2
S93	壺	16.7			S2-S-D-2
S94	壺	14.8			S2-S-D-2
S95	壺	17.6			S2-S-D-2
S96	壺	19.6			S2-S-D-2
S97	壺	22			S2-S-D-2
S98	壺		6.8		S2-S-D-2F
S99					
S100	壺				S2-S-D-2
S101	壺	14.4		A-1	S2-S-D-2
S102	壺	28.4		A-1	S2-S-D-2
S103	底部	7.4			S2-S-D-2
S104	底部				S2-S-D-2
S105	底部				S2-S-D-2
S106	底部				S2-S-D-2
S107	底部				S2-S-D-2
S108	底部				S2-S-D-2
S109	底部				S2-S-D-2
S110	底部				S2-S-D-2
S111	壺	15	6.7		S3-S-D-1A
S112	壺				S3-S-D-1
S113	壺				S3-S-D-1
S114	壺				S3-S-D-1
S115	壺	15.8			S3-S-D-1
S116	壺	13.4			S3-S-D-1
S117	壺	17			S3-S-D-1・3
S118	壺	17.5			S3-S-D-1F
S119	壺	18			S3-S-D-1・2
S120	壺	13.6			S3-S-D-1・3
S121	壺	15.8			S3-S-D-1
S122	壺	21.5			S3-S-D-1
S123	壺	24.7		A-1	S3-S-D-1・3
S124	壺	16.6		A-2	S3-S-D-1・2
S125	壺	18			S3-S-D-1・3
S126	壺	16			S3-S-D-1
S127	壺	16.2			S3-S-D-1・2

標頭番号	器種	口径	底径	器分類	出土地点
S128	壺	3.6	2.6		S3-S-D-1F
S129	壺		2.8		S3-S-D-1
S130	壺	35.4			S3-S-D-1F
S131	壺	37.5		A-2	S3-S-D-1
S132	壺	22.5		A-2	S3-S-D-1F
S133	壺	22.3		A-2	S3-S-D-1・2
S134	壺	10.6		A-2	S3-S-D-1F
S135	壺	16		B-2	S3-S-D-1
S136	壺	19.5		B-2	S3-S-D-1
S137	壺	31		C-1	S3-S-D-1・2
S138	壺	37		A-2	S3-S-D-1・2
S139	壺	35.6		D-2	S3-S-D-1
S140	底部		6.3		S3-S-D-1F
S141	底部		9.5		S3-S-D-1F
S142	底部		11		S3-S-D-1F
S143	底部		9.6		S3-S-D-1C
S144	底部		7.1		S3-S-D-1F
S145	底部		10		S3-S-D-1C
S146	底部		7		S3-S-D-1
S147	底部		11.8		S3-S-D-1
S148	底部		7.8		S3-S-D-1
S149	底部		7.2		S3-S-D-1
S150	底部		9.4		S3-S-D-1F
S151	底部		7.8		S3-S-D-1
S152	底部		9.2		S3-S-D-1
S153	底部		7.2		S3-S-D-1F
S154	底部		8.7		S3-S-D-1
S155	底部		12.8		S3-S-D-1
S156	底部		5.6		S3-S-D-1
S157	底部		7		S3-S-D-1F
S158	底部		6.3		S3-S-D-1F
S159	底部		5.3		S3-S-D-1F
S160	底部		6		S3-S-D-1F
S161	底部		6.4		S3-S-D-1・2
S162	底部		8		S3-S-D-1A
S163	壺	13			S3-S-D-2・3
S164	壺	14			S3-S-D-2
S165	壺	15.6			S3-S-D-2・3
S166	壺	16.2			S3-S-D-2F
S167	壺	18			S3-S-D-2F
S168	壺	16.5			S3-S-D-2
S169	壺	20.8			S3-S-D-2A
S170	壺				S3-S-D-2F

插回番号	器種	口径	底径	遡分	出土地点
S171	甕	12.9			S3-SD-2・3
S172	壺	13			S3-SD-2・2
S173	壺	13.7			S3-SD-2・3
S174	壺	15.8			S3-SD-2・3
S175	甕	14.8			S3-SD-2A
S176	壺	16.3			S3-SD-2F
S177	壺		7.2		S3-SD-2C
S178	壺	16			S3-SD-2・2
S179	甕	17.5			S3-SD-2・3
S180	壺	13.6			S3-SD-2
S181	壺	17.5			S3-SD-2F
S182	壺	20.6			
S183	甕	23.8			S3-SD-2
S184	甕	19.6	C-3		S3-SD-2A
S185	甕	21	D-3		S3-SD-2B
S186	甕	23	C-1		S3-SD-2
S187	甕	24	E-1		S3-SD-2
S188	甕	28.8	C-1		S3-SD-2・3
S189	甕	34.8	C-1		S3-SD-2下
S190	甕	22.8	E-3		S3-SD-2
S191	甕	21	C-3		S3-SD-2
S192	甕	22.8	E-3		S3-SD-2B
S193	甕	22.8	C-1		S3-SD-2D
S194	甕	27.2	H-1		S3-SD-2・3
S195	甕	24	F-1		S3-SD-2
S196	甕	18.2	A-1		S3-SD-2・3
S197	甕	15	A-2		S3-SD-2・2
S198	甕	11.4	A-2		S3-SD-2・3
S199	甕	12	A-2		S3-SD-2・2
S200	甕	16.8	B-1		S3-SD-2・3
S201	甕	19.6	C-3		S3-SD-2
S202	甕	12.7	C-2		S3-SD-2A
S203	甕	21	C-3		S3-SD-2
S204	甕	20.4	D-1		S3-SD-2・2
S205	甕	24.2	D-1		S3-SD-2D
S206	甕	30.2	D-1		S3-SD-2・3
S207	甕	18.6	D-3		S3-SD-2・3
S208	甕	16.2	F-3		S3-SD-2
S209	甕	16.8	E-3		S3-SD-2
S210	甕	15.4	E-3		S3-SD-2・3
S211	甕	21.2	F-3		S3-SD-2
S212	甕	11.2	F-3		S3-SD-2F
S213	甕	20	F-1		S3-SD-2・3

插回番号	器種	口径	底径	遡分	出土地点
S214	甕	24		F-3	S3-SD-2F
S215	甕	26		E-1	S3-SD-2
S216	甕	18		C-1	S3-SD-2A
S217	甕	21.8		C-1	S3-SD-2・3
S218	底部		7.2		S3-SD-2
S219	底部		8.5		S3-SD-2
S220	底部		11.6		S3-SD-2
S221	底部		10.3		S3-SD-2
S222	底部		7		S3-SD-2B
S223	底部		7.4		S3-SD-2
S224	底部		10.7		S3-SD-2・3
S225	底部		5.6		S3-SD-2A
S226	底部		7.3		S3-SD-2
S227	底部		6.2		S3-SD-2上
S228	底部		7.2		S3-SD-2上
S229	底部		7.5		S3-SD-2
N1	甕	15.8			N1-2(NO.5)
N2	壺	12.8			N1-2(NO.5)
N3	壺	15.8			N1-2(NO.5)
N4	壺	18			N1-2(NO.5)
N5	壺	17.6			N1-2(NO.5)
N6	壺	19.6			N1-2(NO.5)
N7	壺	14.8			N1-2(NO.5)
N8	壺	17.6			N1-2(NO.5)
N9	壺	18.9			N1-2(NO.5)
N10	壺	21.4			N1-2(NO.5)
N11	壺	21.5		A-1	N1-2
N12	壺	28.8		A-1	N1-2
N13	甕	6.7		A-1	N1-2
N14	甕	17.8		A-2	N1-2
N15	甕	15.6		B-2	N1-2
N16	甕	16		A-3	N1-2
N17	甕	23		A-2	N1-2
N18	甕	20.4		B-2	N1-2
N19	甕	11.6		C-3	N1-2
N20	甕	19.5		D-2	N1-2
N21	甕	15.6		E-2	N1-2
N22	甕	15.6		D-2	N1-2
N23	甕	18.4		E-3	N1-2
N24	甕	10.8		E-1	N1-2
N25	甕	35.4		F-1	N1-2
N26	底部		6		N1-2

样园序号	器种	口径	底径	底分瓣	出土地点
N27	底部		10		N1-2
N28	底部		8.8		N1-2
N29	壶	15.3	8.7		N1-SD-1H
N30	壶	10			N1-SD-1
N31	壶	13.8			N1-SD-1
N32	壶	14			N1-SD-1
N33	壶	13.5			N1-SD-1
N34	壶	17.6			N1-SD-1
N35	壶	18			N1-SD-1
N36	壶	21.4			N1-SD-1
N37	壶	22			N1-SD-1
N38	壶	14.8			N1-SD-1
N39	壶	17.8			N1-SD-1
N40	壶	14			N1-SD-1
N41	壶	13.5			N1-SD-1
N42	壶	15.6			N1-SD-1
N43	壶	18			N1-SD-1
N44	壶	19.6			N1-SD-1
N45	壶	19.8			N1-SD-1
N46	壶	22			N1-SD-1
N47	壶	23.6			N1-SD-1
N48	壶	16.4			N1-SD-1
N49	壶	14			N1-SD-1
N50	壶	13.7			N1-SD-1
N51	壶	13.8			N1-SD-1
N52	壶	14			N1-SD-1
N53	壶	16			N1-SD-1
N54	壶	18			N1-SD-1
N55	壶	17.8			N1-SD-1
N56	壶	18			N1-SD-1
N57	壶	17.6			N1-SD-1
N58	壶		3.8		N1-SD-1
N59	壶	17.2		A-1	N1-SD-1
N60	壶	14.5		A-1	N1-SD-1
N61	壶	18		A-2	N1-SD-1
N62	壶	18		A-2	N1-SD-1
N63	壶	16.6		A-2	N1-SD-1
N64	壶	23		A-2	N1-SD-1
N65	壶	18.2		A-2	N1-SD-1
N66	壶	36		A-1	N1-SD-1
N67	壶	18.4		A-3	N1-SD-1
N68	壶	7.5		B-1	N1-SD-1
N69	壶	18		B-3	N1-SD-1

样园序号	器种	口径	底径	底分瓣	出土地点
N70	壶	27.5		B-2	N1-SD-1
N71	壶	30		C-1	N1-SD-1
N72	壶	17.8		C-2	N1-SD-1
N73	壶	18.6		C-1	N1-SD-1
N74	壶	11.8		D-2	N1-SD-1
N75	壶	18.2		D-1	N1-SD-1
N76	壶	17		—	N1-SD-1
N77	壶	22		E-1	N1-SD-1
N78	壶	19.2		E-2	N1-SD-1
N79	壶	19.8		E-3	N1-SD-1
N80	壶	20		E-3	N1-SD-1
N81	壶	15		F-3	N1-SD-1
N82	壶	18.2		F-3	N1-SD-1
N83	壶	12.5		F-3	N1-SD-1
N84	底部		6		N1-SD-1
N85	底部		7.5		N1-SD-1
N86	底部		7.4		N1-SD-1
N87	底部		7		N1-SD-1
N88	底部		6.8		N1-SD-1
N89	底部		8.3		N1-SD-1
N90	底部		9		N1-SD-1
N91	底部		6.4		N1-SD-1
N92	底部		8.8		N1-SD-1
N93	底部		11		N1-SD-1
N94	壶		6.7		N1-SD-2
N95	壶	12.2			N1-SD-2
N96	壶	14			N1-SD-2
N97	壶	14.5			N1-SD-2
N98	壶	18			N1-SD-2
N99	壶	17.6			N1-SD-2
N100	壶	18			N1-SD-2
N101	壶	10			N1-SD-2
N102	壶	12			N1-SD-2
N103	壶	17.8			N1-SD-2
N104	壶	17.6			N1-SD-2
N105	壶	20			N1-SD-2
N106	壶	31		A-1	N1-SD-2
N107	壶	8.5		A-1	N1-SD-2
N108	壶	18.5		A-1	N1-SD-2
N109	壶	22.8		A-1	N1-SD-2
N110	壶	17		A-2	N1-SD-2
N111	壶	18.8		A-2	N1-SD-2
N112	壶	22.4		A-2	N1-SD-2

標同番号	器種	口径	底径	要分類	出土地点
N113	甕	13.5		A-2	N1-SD-2
N114	甕	37.6		B-3	N1-SD-2
N115	甕	11		B-2	N1-SD-2
N116	甕	15		B-2	N1-SD-2
N117	甕	16		E-3	N1-SD-2
N118	甕	29		F-2	N1-SD-2
N119	甕	16.8		G-2	N1-SD-2
N120	甕	10		B-2	N1-SD-2
N121	甕	8		B-2	N1-SD-2
N122	底部		6		N1-SD-2
N123	底部		5.2		N1-SD-2
N124	底部		6.3		N1-SD-2
N125	底部		6.5		N1-SD-2
N126	底部		8.8		N1-SD-2
N127	甕	12.5			N2-SD-1A
N128	甕		7.4		N2-SD-1A
N129	甕	20		C-2	N2-SD-1C
N130	甕	23		A-2	N2-SD-1R
N131	甕	21.6		A-2	N2-SD-1B
N132	甕	22		A-2	N2-SD-1B
N133	甕	4.7	7		N2-SD-1C
N134	体部				N2-SD-1
N135	体部				N2-SD-1C
N136	体部				N2-SD-1C
N137	甕	22.8		E-2	N2-SD-1
N138	甕	18.8		C-3	N2-SD-1C
N139	甕	34.6		D-2	N2-SD-1C
N140	甕	20		E-3	N2-SD-1
N141	甕		7.1		N2-SD-1D
N142	甕	25		A-2	N2-SD-1E
N143	甕	24		E-1	N2-SD-1E
N144	甕			E-1	N2-SD-1
N145	甕	17.6		D-2	N2-SD-1E
N146	甕	11			N2-SD-1
N147	体部				N2-SD-1E
N148	体部				N2-SD-1E
N149	体部				N2-SD-1E
N150	体部				N2-SD-1E
N151	体部				N2-SD-1E
N152	甕	23		A-2	N2-SD-1E
N153	甕	30.8		A-2	N2-SD-1E
N154	甕	30		A-3	N2-SD-1F
N155	甕	22.6		F-3	N2-SD-1F

標同番号	器種	口径	底径	要分類	出土地点
N156	甕	7		F-3	N2-SD-1F
N157	甕	20.8		F-3	N2-SD-1F
N158	甕	15.8		E-3	N2-SD-1
N159	甕	26		C-3	N2-SD-1F
N160	甕	5.6		B-2	N2-SD-1
N161	甕	18.6		F-3	N2-SD-1F
N162	甕	32		F-3	N2-SD-1F
N163	甕	19.6		E-1	N2-SD-1
N164	体部				N2-SD-1G
N165	体部				N2-SD-1J
N166	甕	15			N2-SD-1H
N167	甕	19.3			N2-SD-1I
N168	甕	12			N2-SD-1H
N169	甕	13.6		C-3	
N170	甕	11		A-1	N2-SD-1J
N171	甕	16.2		A-1	N2-SD-1J
N172	甕	17.6		D-2	N2-SD-1J
N173	甕		8		N2-SD-1K
N174	甕	21			N2-SD-1L
N175	甕	19.2			N2-SD-1L
N176	甕	19.8			N2-SD-1L
N177	甕	19			N2-SD-1L
N178	体部				N2-SD-1L
N179	体部				N2-SD-1L
N180	甕	30		A-1	N2-SD-1L
N181	甕	24		A-1	N2-SD-1L
N182	甕	16.2		D-3	N2-SD-1L
N183	甕	6.5		C-3	N2-SD-1L
N184	甕	15		A-3	N2-SD-1
N185	体部				N2-SD-1M
N186	甕	22.7		A-1	N2-SD-1M
N187	甕	35		A-1	N2-SD-1M
N188	甕	18		A-2	N2-SD-1M
N189	甕	19.8		A-1	N2-SD-1M
N190	甕	35.4		A-1	N2-SD-1M
N191	甕	20		A-1	N2-SD-1N
N192	体部				N2-SD-1N
N193	甕	12.2		A-2	N2-SD-1M
N194	甕	23		C-3	N2-SD-1N
N195	甕	18		A-1	N2-SD-1O
N196	甕	9			N2-SD-1O
N197	甕	22.4		G-1	N2-SD-1O
N198	甕	21.4		C-3	N2-SD-1O

押四番号	器種	口径	高さ	裏分類	出土地点
N199	壺	17.2		C-3	N2-S D-1 P
N200	体部	体部			N2-S D-1 P
N201	体部				N2-S D-1 P
N202	壺				N2-S D-1 R
N203	壺				N2-S D-1 R
N204	壺	22.8		A-2	N2-S D-1 S
N205	甕	20.4		F-3	N2-S D-1 R
N206	甕	25		C-3	N2-S D-1 R
N207	壺	15			N2-S D-1 R
N208	甕			E-3	N2-S D-1 R
N209	蓋	4.9			N2-S D-1 R
N210	蓋	6.2			N2-S D-1 R
N211	体部				N2-S D-1 R
N212	体部				N2-S D-1 R
N213	蓋	19.4	6.7		N2-S D-1 R
N214	蓋		6.5		N2-S D-1 R
N215	蓋		7		N2-S D-1 R
N216	甕	22		A-3	N2-S D-1 X
N217	壺	20			N2-S D-1
N218	甕	19.5			N2-S D-1
N219	蓋	20			N2-S D-1 Q
N220	壺	16.4			N2-S D-1
N221	壺	20.2			N2-S D-1
N222	壺	16		A-1	N2-S D-1
N223	甕	20.6		A-1	N2-S D-1
N224	壺	14			N2-S D-1
N225	甕	15.8			N2-S D-1
N226	壺	16			N2-S D-1
N227	壺	19.7			N2-S D-1
N228	壺	14			N2-S D-1
N229	甕	20			N2-S D-1
N230	壺	20			N2-S D-1
N231	甕	15.6	7.2	A-1	N2-S D-1
N232	蓋	27.8			N2-S D-1
N233	甕	22		A-3	N2-S D-1
N234	甕	22		A-2	N2-S D-1
N235	壺	25.4		A-1	N2-S D-1
N236	甕	46.8		A-1	N2-S D-1
N237	甕	26.4		A-1	N2-S D-1
N238	壺	15.5		A-2	N2-S D-1
N239	甕	16.7		A-2	N2-S D-1
N240	甕	16.8		A-2	N2-S D-1
N241	壺	17		A-2	N2-S D-1

押四番号	器種	口径	高さ	裏分類	出土地点
N242	甕	25.6		A-2	N2-S D-1
N243	壺	31		A-3	N2-S D-1
N244	壺	20.6		A-2	N2-S D-1
N245	甕	11.8		H-2	N2-S D-1
N246	甕	17		B-2	N2-S D-1
N247	壺	19.5		B-2	N2-S D-1
N248	甕	17.6		B-2	N2-S D-1
N249	甕	16.5		B-3	N2-S D-1
N250	甕	11.8		B-3	N2-S D-1
N251	壺	18		B-3	N2-S D-1
N252	壺	11.6		B-3	N2-S D-1
N253	壺	16.4		C-2	N2-S D-1
N254	甕			C-2	N2-S D-1
N255	壺			C-2	N2-S D-1
N256	壺	39.5		C-3	N2-S D-1
N257	甕	21		C-3	N2-S D-1
N258	甕	17.4		C-3	N2-S D-1
N259	壺	40.3		C-1	N2-S D-1
N260	壺	16.5		D-3	N2-S D-1
N261	甕	22.6		D-3	N2-S D-1
N262	壺	12.3		D-2	N2-S D-1
N263	壺	17.6		D-3	N2-S D-1
N264	甕	17		D-3	N2-S D-1
N265	壺	21		D-3	N2-S D-1
N266	壺	9.2		D-3	N2-S D-1
N267	壺	20		E-1	N2-S D-1
N268	甕	17.6		E-1	N2-S D-1
N269	壺	16.5		F-3	N2-S D-1
N270	壺	25.5		E-3	N2-S D-1
N271	壺	32.8		F-1	N2-S D-1
N272	甕	14.6		F-3	N2-S D-1
N273	壺	14.8		F-3	N2-S D-1
N274	壺	14.8		F-3	N2-S D-1
N275	甕	21.2		A-3	N2-S D-1
N276	壺	18.5		B-2	N2-S D-1
N277	壺	29		D-3	N2-S D-1
N278					
N279	甕	15		C-2	N2-S D-1
N280	壺	20		D-2	N2-S D-1
N281	甕	20		D-2	N2-S D-1
N282	底部		9.6		N2-S D-1 P
N283	底部		7.6		N2-S D-1 T
N284	底部		10		N2-S D-1 R

牌园番号	器種	口径	直径	壺分類	出土地点
N285	底部		6.8		N2-S D-1
N286	底部		8		N2-S D-1
N287	底部		7.7		N2-S D-1 P
N288	底部		7.5		N2-S D-1
N289	底部		7.2		N2-S D-1 Z
N290	底部		9.4		N2-S D-1 Z
N291	底部		7.3		N2-S D-1
N292	底部		10.2		N2-S D-1
N293	底部		18.4		N2-S D-1 J
N294	底部		10		N2-S D-1 F
N295	底部		7.3		N2-S D-1 F
N296	底部		6.7		N2-S D-1 F
N297	底部		9.8		N2-S D-1 F
N298	底部		8.2		N2-S D-1 F
N299	底部		7.2		N2-S D-1 J
N300	底部		6.5		N2-S D-1 J
N301	底部		6		N2-S D-1 J
N302	底部		6		N2-S D-1 M
N303	底部		7.2		N2-S D-1 D
N304	底部		8.1		N2-S D-1 E
N305	底部		7.7		N2-S D-1 L
N306	底部		6		N2-S D-1 L
N307	底部		8.8		N2-S D-1 L
N308	底部		8.6		N2-S D-1 M
N309	底部		7.2		N2-S D-1 M
N310	底部		8		N2-S D-1 M
N311	底部		7.3		N3-S D-1-2
N312	底部		7.4		N3-S D-1-2
N313	底部		10.2		N3-S D-1-2
E 1	壺		4.8		E 1-S D-1
E 2	壺	14			E 1-S D-1
E 3	壺		5.2		E 2
E 4	壺	14			E 5-2
E 5	壺	16			E 5-2
E 6	壺	11.6			E 5-2
E 7	壺	16			E 5-2
E 8	壺	13.5			E 5-2
E 9	壺	14			E 3
E 10	壺		6.8		E 4-S D-1
E 11	壺	14			E 5-2
E 12	壺	16.2			E 5-2
E 13	壺	14			E 4-S D-1

牌园番号	器種	口径	直径	壺分類	出土地点
E 14	壺	15.6			E 4-S D-1
E 15	壺	17.6			E 4-S D-1
E 16	壺	18	5		E 5-2
E 17	底部				E 4-S D-1
E 18	底部				E 4-S D-1
E 19	底部				E 4-S D-1
E 20	底部				E 4-S D-1
E 21	底部				E 4-2
E 22	底部				E 4-2
E 23	底部				E 4-S D-1
E 24	底部				E 4-S D-1
E 25	底部				E 4-2
E 26	壺	15.6		E-2	E 1-4
E 27	壺	18		A-2	E 4-2
E 28	壺	9.6		A-2	E 4-2
E 29	壺	18.6		A-1	E 4-S D-1
E 30	壺	37.4		A-2	E 4-S D-1
E 31	壺	11		C-2	E 4-S D-1
E 32	壺	9.8		C-3	E 4-S D-1
E 33	壺	17.4		E-1	E 5-2
E 34	壺	25.4		E-1	E 5-2
E 35	壺	17.6		B-2	E 4-S D-1
E 36	壺	15.2		E-2	E 4-S D-1
E 37	底部		9.3		E 1-2-2
E 38	底部		8		E 1-4
E 39	底部		11.6		E 1-4表
E 40	底部		5.3		E 5-2
E 41	底部		6.5		E 5-2
E 42	底部		9		E 5-2
E 43	底部		10.3		E 5-2
E 44	底部		7		E 4-S D-1
E 45	底部		7.3		E 4-S D-1
E 46	底部		3.2		E 4-S D-1
E 47	底部		9		E 4-S D-1
E 48	底部		11		E 4-S D-1
E 49	底部		7		E 4-2
E 50	底部		5.7		E 4-S D-1
E 51	底部		9.4		E 4-S D-1
E 52	底部		11.5		E 4-S D-1
E 53	底部		8.7		E 4-S D-1
E 54	底部		2.6		E 4-S D-1
E 55	底部		19		E 4-2
E 56	底部		12.7		E 4-S D-1

表32 石器一覧表 二次調査

标本番号	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
S 1	石鏃	サヌカイト	2.5	1.7	0.4	0.9	S 2-2	
S 2	石鏃	サヌカイト	3.5	1.5	0.6	2.3	S 2-2	
S 3	石鏃	サヌカイト	3.3	3.2	0.8	7.1	S 2-2	
S 4	石鏃	サヌカイト	3.5	2.2	0.7	5.0	S 2-2	
S 5	石鏃	サヌカイト	3.6	2.2	1.1	5.6	S 2-2	
S 6	調整剥片	サヌカイト	6.9	4.7	0.8	35.5	S 2-2	
S 7	磨製石包丁	滑石	5.7	4.4	0.5	17.0	S 2-2	
S 8	調整剥片	サヌカイト	6.5	9.9	1.4	109.8	S 2-2	
S 9	石鏃	サヌカイト	2.1	1.8	0.5	1.1	S 3-2	
S 10	石鏃	サヌカイト	2.2	1.4	0.3	0.6	S 3-2	
S 11	石鏃	サヌカイト	2.9	1.0	0.4	0.8	S 3	
S 12	石鏃	サヌカイト	4.4	1.8	0.7	4.0	S 3-2	
S 13	石鏃	サヌカイト	4.3	2.7	0.9	8.6	S 3-2	
S 14	調整剥片	サヌカイト	9.9	4.9	1.6	91.4	S 3-2	
S 15	石鏃	サヌカイト	2.3	1.6	0.4	1.3	S 1-SD-1	
S 16	石鏃	サヌカイト	1.5	1.5	0.4	0.6	S 1-SD-1	
S 17	石鏃	サヌカイト	2.5	1.7	0.3	1.1	S 1-SD-1	
S 18	石鏃	サヌカイト	3.1	1.6	0.5	1.8	S 1-SD-1	
S 19	石鏃	サヌカイト	6.0	1.2	0.8	5.8	S 1-SD-1	
S 20	磨製石包丁	片岩	6.0	4.3	0.8	19.3	S 1-SD-1	
S 21	打製石包丁	サヌカイト	5.5	4.6	1.4	39.6	S 1-SD-1 F	
S 22	磨製石包丁	片岩	10.1	3.8	2.4	113.6	S 1-SD-1 F	
S 23	磨製石包丁	頁岩	7.2	5.4	0.7	42.1	S 1-SD-1	
S 24	調整剥片	サヌカイト	7.8	4.6	0.9	50.1	S 1-SD-1	
S 25	柱状片/石鏃	粘板岩	6.7	1.9	1.2	157.0	S 1-SD-1	
S 26	磨製石包丁	絹岩	6.8	1.8	1.1	26.7	S 2-SD-2	
S 27	調整剥片	サヌカイト	5.1	4.7	0.7	16.9	S 1-SD-1	
S 28	調整剥片	サヌカイト	3.7	4.2	1.2	24.6	S 1-SD-1	
S 29	石鏃未製品?	サヌカイト	4.0	2.6	0.5	5.5	S 3-SD-1	
S 30	調整剥片	サヌカイト	6.3	5.2	0.95	44.7	S 3-SD-1	
S 31	調整剥片	サヌカイト	5.9	4.4	0.8	25.7	S 3-SD-1・2	
S 32	磨製石包丁	緑色片岩	4.5	3.3	0.7	16.5	S 3-SD-1	
S 33	石鏃	サヌカイト	2.3	1.8	0.3	1.0	S 3-SD-1	
S 34	打製石包丁	サヌカイト	6.7	4.4	1.9	73.6	S 3-SD-1	
S 35	調整剥片	サヌカイト	11.1	5.8	1.4	85.4	S 3-SD-1	
S 36	打製石包丁	サヌカイト	3.3	3.1	0.6	9.8	S 2-SD-2	
S 37	石鏃	サヌカイト	2.5	1.6	0.4	0.9	S 3-SD-2・3	
S 38	石鏃	サヌカイト	2.9	1.6	0.4	0.9	S 3-SD-2・3	
S 39	石鏃	サヌカイト	3.3	1.0	0.5	2.2	S 3 SD 2・2	
S 40	石鏃	サヌカイト	2.8	1.8	0.5	1.7	S 3-SD-2・3	
S 41	石鏃	サヌカイト	3.7	1.4	0.5	3.1	S 3-SD-2	
S 42	石鏃	サヌカイト	3.7	1.5	0.4	1.2	S 3 SD 2・3	
S 43	石鏃	サヌカイト	4.1	1.7	0.6	2.7	S 3-SD-2	
S 44	石鏃	サヌカイト	5.2	3.6	0.7	11.3	S 3-SD-2	
S 45	鉛刀磨製石鏃	粘板岩?	7.8	3.2	1.6	2.6	S 3-SD-2	
S 46	調整剥片	サヌカイト	5.2	3.0	0.8	16.7	S 3-SD-2	
S 47	調整剥片	サヌカイト	5.2	3.1	0.8	17.6	S 3-SD-2	

機回番号	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	出土地点	備考
S48	調整銅片	サヌカイト	5.6	2.3	0.7	11.1	S3-S-D-2	
S49	調整銅片	サヌカイト	3.2	3.8	0.7	11.2	S3-S-D-2	
S50	調整銅片	サヌカイト	4.6	2.5	0.7	8.5	S3-S-D-2	
S51	調整銅片	サヌカイト	1.8	3.3	0.6	4.3	S3-S-D-2	
S52	調整銅片	サヌカイト	4.5	2.8	0.8	11.6	S3-S-D-2	
S53	調整銅片	サヌカイト	7.8	1.8	0.5	1.7	S3-S-D-2・3	
S54	調整銅片	サヌカイト	5.5	4.3	0.7	17.5	S3-S-D-2	
S55	調整銅片	サヌカイト	5.8	3.0	0.7	23.6	S3-S-D-2	
S56	調整銅片	サヌカイト	3.5	3.3	0.7	13.5	S3-S-D-2	
S57	調整銅片	サヌカイト	5.0	4.0	0.8	18.3	S3-S-D-2・3	
S58	調整銅片	サヌカイト	4.0	3.9	0.6	11.0	S3-S-D-2	
S59	調整銅片	サヌカイト	3.6	5.1	0.9	20.3	S3-S-D-2	
S60	調整銅片	サヌカイト	4.8	6.7	1.3	37.8	S3-S-D-2下	
S61	調整銅片	サヌカイト	5.0	3.7	1.4	51.5	S3-S-D-2	
S62	調整銅片	サヌカイト	7.6	4.6	1.0	42.0	S3-S-D-2	
S63	調整銅片	サヌカイト	6.8	6.8	1.2	71.4	S3-S-D-2	
S64	調整銅片	サヌカイト	9.0	4.5	0.9	41.3	S3-S-D-2	
S65	調整銅片	サヌカイト	7.8	5.1	0.9	36.7	S3-S-D-2	
S66	調整銅片	サヌカイト	6.2	5.0	1.1	30.3	S3-S-D-2	
S67	調整銅片	サヌカイト	5.8	5.6	1.3	52.7	S3-S-D-2	
S68	打製石包丁	黒色頁岩	5.0	4.7	0.8	21.5	S3-S-D-2・3	
S69	磨製丸入片刃石斧	粘板岩?	3.9	3.7	0.9	17.9	S3-S-D 2E	
S70	打製石包丁	サヌカイト	8.8	4.8	0.8	41.5	S3-S-D-2F	
S71	打製石包丁	サヌカイト	5.4	5.4	1.0	36.9	S3-S-D-2・2	
S72	打製石包丁	サヌカイト	7.3	4.7	1.0	39.4	S3-S-D 2・3	
S73	打製石包丁	サヌカイト	7.1	5.0	0.7	41.2	S3-S-D-2・3	
S74	打製石包丁	サヌカイト	8.7	3.8	0.9	44.8	S3-S-D-2・2	
S75	打製石包丁	サヌカイト	8.7	4.6	1.3	77.5	S3-S-D 2・2	
S76	打製石包丁	サヌカイト	3.0	3.3	0.8	9.7	S3-S-D-2・2	
S77	打製石包丁	サヌカイト	12.0	5.3	1.2	58.8	S3-S-D-2F	
S78	磨製石斧	頁岩	13.0	7.2	3.0	455.0	S3 S-D-2	
S79	打製石斧	サヌカイト	11.3	8.5	2.3	297.2	S3-S-D-2E	
S80	打製石包丁	サヌカイト	5.8	4.15	0.6	17.8	S3-S-D-2・2	
S81	打製石包丁?	サヌカイト	9.0	5.9	1.2	65.3	S3-S-D-2F	
S82	スクレイパー?	サヌカイト	8.7	6.6	1.7	114.5	S3-S-D-2F	
S83	スクレイパー?	サヌカイト	7.0	4.8	1.6	50.8	S3-S-D-2F	
S84	スクレイパー	サヌカイト	8.5	5.2	1.7	75.6	S3-S-D-2・3	
S85	スクレイパー	サヌカイト	6.7	4.6	1.0	32.6	S3-S-D-2F	
S86	スクレイパー	サヌカイト	4.1	1.7	0.6	2.7	S3-S-D-2	
S87	打製石包丁	サヌカイト	12.9	5.5	1.6	124.1	S3-S-D-2	
S88	調整銅片	サヌカイト	9.0	3.4	0.7	23.8	S3-S-D-2・2	
S89	調整銅片	サヌカイト	8.9	4.8	1.0	46.7	S3-S-D 2	
S90	石核 or 素材銅片	サヌカイト	12.1	6.1	2.6	182.1	S3-S-D-2F	
S91	石核	サヌカイト	17.6	11.5	2.9	485.0	S3-S-D-2	
S92	調整銅片	サヌカイト	2.5	4.8	0.8	12.2	S1表2	
S93	打製石包丁	サヌカイト	3.0	4.3	0.8	11.9	S1表2	
S94	打製石包丁	サヌカイト	6.7	4.7	0.9	43.1	S1表2	
S95	調整銅片	サヌカイト	4.5	1.9	0.7	5.5	S3-S-D-1・2	

検出番号	物 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
S06	調整銅片	サヌカイト	4.0	4.3	0.8	18.1	S3-SD-1・2	
N1	石鏃	サヌカイト	1.6	1.5	0.3	0.6	N1-SD-1	
N2	石鏃	サヌカイト	1.7	1.5	0.3	0.3	N1-SD-1	
N3	石鏃	サヌカイト	2.8	1.1	0.4	1.2	N1-SD-1	
N4	石鏃	緑泥片岩	10.2	4.0	1.4	100.8	N1-SD-1	
N5	磨片刀石鏃	頁岩	7.6	4.4	1.3	101.9	N1-SD-1	
N6	磨製石包丁	頁岩	4.3	4.2	0.9	32.9	N1-SD-1	
N7	調整銅片	サヌカイト	4.6	3.3	0.6	10.5	N1-SD-1	
N8	調整銅片	サヌカイト	4.9	2.9	1.0	12.7	N1-SD-1	
N9	調整銅片	サヌカイト	4.4	3.0	0.6	9.5	N1-SD-1	
N10	調整銅片	サヌカイト	4.3	3.6	1.2	27.1	N1-SD-1	
N11	調整銅片	サヌカイト	4.1	2.6	0.6	7.1	N1-SD-1	
N12	調整銅片	サヌカイト	5.3	4.3	1.0	22.1	N1-SD-1	
N13	調整銅片	サヌカイト	5.7	4.7	1.4	44.6	N1-SD-1表	
N14	調整銅片	サヌカイト	5.2	2.5	0.4	8.6	N1-SD-1	
N15	調整銅片	サヌカイト	8.5	5.5	2.1	105.1	N1-SD-1	
N16	調整銅片	サヌカイト	1.5	1.5	0.4	0.6	N1-SD-1	
N17	調整銅片	サヌカイト	7.3	4.4	1.1	41.3	N1-SD-1	
N18	調整銅片	サヌカイト	7.4	5.6	3.4	111.1	N1-SD-1表	
N19	調整銅片	サヌカイト	6.4	4.8	3.2	98.4	N1-SD-1	
N20	石鏃	サヌカイト	2.1	1.9	0.4	1.2	N1-SD-2	
N21	磨製石包丁	頁岩	4.3	3.5	0.4	5.2	N1-SD-2	
N22	調整銅片	サヌカイト	4.5	3.0	0.6	10.4	N1-SD-2	
N23	打製石包丁	サヌカイト	9.0	5.0	1.3	65.6	N1-SD-2	
N24	スクレイパー	サヌカイト	5.6	3.9	1.0	21.3	N1-SD-2	
N25	調整銅片	サヌカイト	5.5	5.1	0.7	20.1	N1-SD-2	
N26	調整銅片	サヌカイト	8.6	5.2	1.5	72.5	N1-SD-2	
N27	調整銅片	サヌカイト	5.5	5.4	1.3	47.7	N1-SD-2	
N28	石鏃	サヌカイト	7.0	2.2	1.0	13.5	N1-SD-2	
N29	スクレイパー	サヌカイト	5.2	4.2	1.1	29.5	N1-SD-2	
N30	スクレイパー	サヌカイト	4.5	4.8	1.1	22.6	N1-SD-2	
N31	敲石	砂岩	13.2	4.9	3.4	317.0	N1-SD-2	
N32	磨製石包丁	頁岩	4.6	4.3	0.9	15.7	N1-SD-2	
N33	調整銅片	サヌカイト	5.3	4.1	1.2	28.0	N1-SD-2	
N34	調整銅片	サヌカイト	4.3	6.0	0.8	25.2	N1-SD-2	
N35	磨製石包丁	頁岩	6.8	5.7	0.5	38.5	N1-SD-2	
N36	磨製石包丁	頁岩	4.7	4.7	0.8	32.6	N2-SD-1 F	
N37	打製石包丁	サヌカイト	10.3	3.9	1.0	53.0	N2-SD-1	
N38	打製石包丁	サヌカイト	12.3	3.8	1.2	61.6	N2-SD-1 F	
N39	打製石包丁	サヌカイト	5.0	3.0	0.7	8.8	N2-SD-1	
N40	石斧	片岩	8.7	4.6	1.9	164.9	N2-SD-1	
N41	打製石包丁	サヌカイト	10.2	4.8	1.7	130.4	N2-SD-1 F	
N42	打製石包丁	サヌカイト	6.5	4.2	1.2	42.5	N2-SD-1 F	
N43	スクレイパー	サヌカイト	5.2	3.6	0.7	11.3	N2-SD-1	
N44	石鏃	サヌカイト	4.3	0.9	0.5	2.6	N2-SD-1	
N45	調整銅片	サヌカイト	6.9	3.7	0.9	20.1	N2-SD-1 F	
N46	調整銅片	サヌカイト	4.6	4.4	1.1	25.8	N2-SD-1	

標識番号	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
N47	打製石包丁	サヌカイト	4.6	4.3	1.1	27.6	N2-S D-111	
N48	打製石包丁	サヌカイト	7.8	4.8	2.3	124.9	N2-S D-1	
N49	調整剥片	サヌカイト	5.2	4.0	0.6	17.2	N2 S D-1	
N50	調整剥片	サヌカイト	4.7	3.8	0.7	18.6	N2-S D-1 F	
N51	スクレイパー	サヌカイト	7.5	5.0	1.8	95.1	N4-2	
N52	石鏃	サヌカイト	2.1	4.0	0.7		N4	
N53	調整剥片	サヌカイト	5.8	3.9	0.6	9.8	N2-S D-1	
E1	調整剥片	サヌカイト	8.0	5.4	0.9	30.5	E4-2	
E2	石鏃	サヌカイト	4.0	1.3	0.5	2.3	E4-S D-2	
E3	石鏃	サヌカイト	2.5	2.1	0.4	1.7	E4 S D-2	
E4	スクレイパー	サヌカイト	5.1	7.0	1.7	79.3	E4-S D-2	
E5	スクレイパー	サヌカイト	7.1	4.2	0.8	27.2	E4-S D-2	
E6	スクレイパー	サヌカイト	5.3	3.8	1.0	28.3	E4-S D-1	

表33 土器一覽表 三次調査

標記番号	器種	口径	底径	腹分額	出土地点
N 1	壺	13			第一調査
N 2	壺	13.8			第一調査
N 3	壺	12			第一調査
N 4	壺	10.4			第一調査
N 5	壺	12.3			第一調査
N 6	壺	13.2			第一調査
N 7	壺	14.2			第一調査
N 8	壺	15.2			第一調査
N 9	壺	16.5			第一調査
N10	壺	12.2			第一調査
N11	壺	17.4			第一調査
N12	壺	15.8			第一調査
N13	壺	24.8			第一調査
N14	壺	27.8			第一調査
N15	壺	15.8			第一調査
N16	壺	18.6			第一調査
N17	壺	17.2			第一調査
N18	壺	20.2		A-1	第一調査
N19	壺	21.2		A-1	第一調査
N20	壺	24.8		A-2	第一調査
N21	壺	34.2		A-1	第一調査
N22	壺	21.8		A-2	第一調査
N23	壺	21.5		A-3	第一調査
N24	壺	22.2		E-2	第一調査
N25	壺	19.2		C-3	第一調査
N26	壺		6.4		第一調査
N27	底部		10.2		N 1
N28	底部		9.5		N 1
N29	壺	18.8		A-1	第一調査
N30	壺	13.6		A-1	第一調査
N31	壺	13.1		A-2	第一調査
N32	壺	29.8		A-2	第一調査
N33	壺	14.6		A-1	N 5
N34	壺	16.8		A-2	N 2
N35	壺	?		B-3	第一調査
N36	壺	12.2		B-2	第一調査
N37	壺	18.5		C-3	第一調査
N38	壺	30.4		C-2	第一調査
N39	壺	20.4		C-3	第一調査
N40	壺	17.8		C-3	第一調査
N41	壺	16.2		C-1	第一調査
N42	壺	18.7		C-3	N 3
N43	壺	?		C-3	N 3

標記番号	器種	口径	底径	腹分額	出土地点
N44	壺	15.6		E-2	第一調査
N45	壺	22.7		E-3	第一調査
N46	壺	20.6		F-2	N 1
N47	壺	20		F-1	第一調査
N48	壺	10.4			N 8 S D-2
N49	壺	14.2			N 8 S D-2
N50	壺	20.2		A-1	N 8 S D-2
N51	壺	24.6		B-1	N 8 S D-2
N52	壺	14		A-2	N 8 S D-2
N53	壺	14.8		A-2	N 8 S D-2
N54	壺	18.8		E-1	N 8 S D-2
N55	壺	16.4		E-2	N 8 S D-2
N56	壺	12.2			N 9
N57	壺	12.2			N 9
N58	壺	20		A-1	N 9
N59	壺	11.6		A-2	N 9
N60	壺	20.8		A-2	N 9
N61	壺	15.6		C-2	N 9
N62	壺	17.8		C-2	N 9
N63	壺	20.7		H-3	N 9
N64	壺	14.6		H-3	N 9
N65	壺	19		H-3	N 9
N66	壺	22.8		F-1	N 9
N67	壺	17		F-1	N 9
N68	壺	9.2	6.2		N 8 S D-1
N69	壺	8.6	5.2		N 8 S D-1
N70	壺	15			N 8 S D-1
N71	壺	14			N 8 S D-1
N72	壺	13.2			N 8 S D-1
N73	壺	16.8			N 8 S D-1
N74	壺	14			N 8 S D-1
N75	壺	17.8			N 8 S D-1
N76	壺	18.2			N 8 S D-1
N77	壺	19.8			N 8 S D-1
N78	壺	16.1			N 8 S D-1
N79	壺	23.8			N 8 S D-1
N80	壺	17.3			N 8 S D-1
N81	壺	19.6			N 8 S D-1
N82	壺	19.6			N 8 S D-1
N83	壺	15.2			N 8 S D-1
N84	壺	16.1			N 8 S D-1
N85	壺	28			N 8 S D-1
N86	壺	14.9			N 8 S D-1
N87	壺	14.8			N 8 S D-1

神國番号	器種	口径	底径	舞分類	出土地点
N88	壺	15.8			N8-S D-1
N89	壺	17.6			N8-S D-1
N90	壺	12.8			N8-S D-1
N91	壺	14.8			N8-S D-1
N92	壺	12.6			N8-S D-1
N93	壺	10.8			N8-S D-1
N94	壺	24.8			N8-S D-1
N95	壺	20			N8-S D-1
N96	壺				N8-S D-1
N97	壺				N8-S D-1
N98	壺	5.6			N8-S D-1
N99	壺				N8-S D-1
N100	壺				N8-S D-1
N101	蓋	20.4			N8 S D 1
N102	蓋	23.2			N8-S D-1
N103	蓋		6.2		N8-S D-1
N104	蓋		6.4		N8-S D-1
N105	蓋		3.4		N8-S D-1
N106	蓋				N8-S D-1
N107	蓋		5.2		N8-S D-1
N108	甕	16.1	22	A-2	N8-S D-1
N109	甕		9.6		N8-S D-1
N110	紡錘車				N8
N111	紡錘車				N8
N112	甕	23.2		A-1	N8-S D-1上
N113	甕	21.3		A-1	N8-S D-1下
N114	甕	22		A-1	N8-S D-1
N115	甕	22.1		A-2	N8-S D-1
N116	甕	19		A-2	N8-S D-1
N117	甕	19.8		A-2	N8-S D-1
N118	甕	21		A-3	N8-S D-1
N119	甕	22.4		A-3	N8-S D-1
N120	甕	21		A-2	N8-S D-1上
N121	甕	18.8		C-8	N8-S D-1
N122	甕	20.8		C-1	N8 S D 1
N123	甕	22.8		C-1	N8-S D-1
N124	甕	21.6		C-1	N8-S D-1
N125	甕	22.8		C-1	N8-S D-1上
N126	甕	49.6		A-1	N8
N127	甕	22		A-1	N8-S D-1
N128	甕	18.3		A-1	N8-S D-1
N129	甕	37.2		A-1	N8-S D-1
N130	甕	25.3		A-1	N8-S D-1
N131	甕	23		A-2	N8 S D 1

神國番号	器種	口径	底径	舞分類	出土地点
N132	甕	15.6		A-2	N8-S D-1
N133	甕			A-2	N8-S D-1
N134	甕	21		A-2	N8-S D-1
N135	甕	不明		B-3	N8-S D-1
N136	甕	12.2		B-1	N8-S D-1
N137	甕	23.6		C-1	N8-S D-1
N138	甕	20.7		C-3	N8-S D-1
N139	甕	26		C-2	N8-S D-1
N140	甕	12		C-2	N8-S D-1
N141	甕	22.5		C-1	N8-S D-1
N142	甕			C-3	N8-S D-1
N143	甕	22.8		D-3	N8-S D-1
N144	甕	23		D-3	N8-S D-1
N145	甕	18.6		E-1	N8-S D-1
N146	甕	17.4		E-3	N8-S D-1
N147	甕	13.8		E-3	N8-S D-1
N148	甕	23.8		F-3	N8-S D-1
N149	甕	25.4		F-3	N8-S D-1
N150	甕			E-1	N8-S D-1
N151	甕	20.2		E-2	N8-S D-1
N152	甕	21.2		E-2	N8
N153	甕	13.2		F-1	N8-S D-1
N154	甕	14.1		F-1	N8-S D-1
N155	甕	14.2		F-3	N8-S D-1
N156	甕				SD-05
N157	甕				SD-05
N158	甕				SD-01
N159	甕				SD-01
N160	甕				SD-01
N161	甕				SD-01
N162	甕				P37
N163	甕				P37
N164	甕	11		A-2	P48
N165	甕	8.2		A-1	SD-01
N166	甕	22.4		A-2	SD-03
N167	甕			A-1	P16
N168	甕	14.7		A-1	P46
N169	甕	15.8		C-3	N14
N170	甕	17.2		C-1	N16
N171	甕	15.2		F-1	N15
N172	甕				N15
N173	甕				N15
N174	甕				N15
N175	甕				N15

表34 石器一覧表 三次調査

標記番号	器 種	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
N1	磨製包丁	結晶片岩	11.2	4.6	0.8	85.6	第一調査	
N2	磨製石斧	砂岩	7.6	6.5	1.6	115.3	N8 SD 2	
N3	打製石包丁	サヌカイト	11.7	4.0	1.0	64.9	N8-SD-2	
N4	調整剥片		5.2	3.6	0.2	23.9	N8-SD-2	
N5	磨製石斧	結晶片岩	6.7	4.7	1.2	66.2	N8-SD-2	
N6	調整剥片	サヌカイト	5.3	3.6	0.9	19.5	N2	
N7	調整剥片	サヌカイト	3.8	2.2	0.7	6.6	N1	
N8	調整剥片	サヌカイト	4.6	3.5	0.6	12.1	第一調査	
N9	調整剥片	サヌカイト	5.1	3.2	1.0	22.4	N1	
N10	磨製石包丁	結晶片岩	7.7	4.6	0.6	35.6	N2	
N11	調整剥片	サヌカイト	5.8	3.4	0.6	14.3	N2	
N12	調整剥片	サヌカイト	4.3	3.8	0.8	20.4	N2	
N13	調整剥片	サヌカイト	2.7	1.7	0.3	0.9	第一調査	
N14	石鏃	サヌカイト	1.5	1.1	0.1	0.3	第一調査	
N15	石鏃	サヌカイト	3.0	1.5	0.4	1.6	第一調査	
N16	調整剥片	サヌカイト	2.8	2.2	0.6	3.1	第一調査	
N17	打製石包丁	サヌカイト	4.5	4.0	1.1	21.6	第一調査	
N18	調整剥片	サヌカイト	2.2	3.1	1.1	8.1	第一調査	
N19	調整剥片	サヌカイト	3.7	4.1	0.5	8.3	第一調査	
N20	打製石斧	サヌカイト	4.6	4.2	0.8	24.6	第一調査	
N21	調整剥片	サヌカイト	4.9	4.0	0.9	19.4	第一調査	
N22	調整剥片	サヌカイト	2.7	3.6	1.3	18.1	第一調査	
N23	打製石斧	サヌカイト	5.3	4.6	0.9	24.4	第一調査	
N24	磨製石包丁	結晶片岩	3.8	3.6	0.5	11.3	N8	
N25	調整剥片	サヌカイト	3.4	2.1	0.4	2.6	N8	
N26	調整剥片	砂岩	3.3	5.5	1.0	18.9	N9	
N27	スクレイパー	サヌカイト	6.1	4.4	0.8	16.9	N8	
N28	打製石包丁	サヌカイト	9.0	5.0	0.8	31.6	N8-SD-2	
N29	打製石包丁	サヌカイト	6.6	4.0	0.8	24.3	N9	
N30	調整剥片	サヌカイト	5.3	4.5	1.5	43.8	N9	
N31	スクレイパー	サヌカイト	9.8	6.0	0.9	84.7	N9	
N32	大型給刃石斧	結晶片岩	7.9	4.3	4.3	225.8	N8-SD-1	
N33	打製石包丁	サヌカイト	7.9	5.3	1.0	68.7	N9	
N34	打製石包丁	サヌカイト	6.1	4.9	2.8	110.4	N8-SD-2	
N35	打製石斧	サヌカイト	7.8	6.0	2.3	126.4	N8-SD-2	
N36	大型給刃石斧	結晶片岩	8.6	3.7	3.8	129.7	N8	
N37	大型給刃石斧	結晶片岩	11.5	5.8	4.0	330.4	N8-SD-1	
N38	打製石斧	サヌカイト	5.4	7.1	1.8	77.8	第一調査	
N39	打製石斧	サヌカイト	5.8	6.5	1.9	77.6	第一調査	
N40	打製石斧	サヌカイト	11.5	7.9	1.1	210.7	第一調査	
N41	板状石斧	サヌカイト	10.1	10.7	1.7	256.7	N2	
N42	打製石斧	サヌカイト	7.9	7.8	1.9	128.6	第一調査	
N43	打製石斧	サヌカイト	7.6	7.2	2.2	164.7	第一調査	
N44	打製石斧	サヌカイト	9.9	4.6	2.8	174.4	N8 SD 2	
N45	調整剥片	サヌカイト	7.0	3.6	3.0	103.2	N8-SD-1	
N46	調整剥片	サヌカイト	6.7	6.4	1.9	82.1	N8-SD-1	
N47	調整剥片	サヌカイト	4.6	4.3	1.8	48.4	N8 SD 1	

神図番号	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
N48	尖頭器	サヌカイト	6.9	3.1	1.5	29.6	N8-S D-1	
N49	打製石器	サヌカイト	4.5	5.2	1.2	37.6	N8-S D-1	
N50	打製石器	サヌカイト	7.5	4.8	1.8	79.8	N8-S D-1	
N51	調整薄片	サヌカイト	8.8	4.0	1.4	38.7	N8-S D-1	
N52	調整薄片	サヌカイト	4.0	4.9	1.0	17.8	N8-S D-1	
N53	調整薄片	サヌカイト	6.4	4.3	0.8	25.2	N8-S D-1	
N54	打製石包丁	サヌカイト	3.6	3.3	0.3	6.0	N8-S D-1上	
N55	打製石包丁	サヌカイト	2.5	2.9	0.8	9.0	N8-S D-1	
N56	石鏃	サヌカイト	3.2	1.0	0.3	1.0	N8-S D-1	
N57	石鏃	サヌカイト	5.2	1.5	0.4	5.7	N8-S D-1	
N58	スクレイパー	サヌカイト	6.0	4.0	0.8	29.6	N8-S D-1	
N59	調整薄片	サヌカイト	3.5	4.9	1.0	21.4	N8-S D-1	
N60	調整薄片	サヌカイト	6.2	3.5	1.1	24.7	N8-S D-1	
N61	調整薄片	サヌカイト	6.4	3.0	0.8	21.9	N8-S D-1	
N62	調整薄片	サヌカイト	8.3	6.3	1.3	100.5	第一調査	
N63	磨製石斧	サヌカイト	8.7	4.7	1.6	91.2	第一調査	
N64	打製石包丁	サヌカイト	3.7	3.8	2.0	103.9	第一調査	
N65		サヌカイト						
N66	調整薄片	サヌカイト	5.8	4.8	2.5	92.5	N8-S D-1	
N67	調整薄片	サヌカイト						
N68	打製石包丁	サヌカイト	7.2	5.6	0.7	39.7	N8-S D-1上	
N69	調整薄片	サヌカイト						
N70	打製石斧	サヌカイト	11.7	7.9	2.1	243.4	N8-S D-1	
N71	打製石斧	サヌカイト	11.8	6.9	2.9	234.8	N8-S D-1	
N72	すり石	砂岩	14.2	12.6	2.4	587.0	N3	
N73	砥石	泥岩	13.9	7.1	4.5	910.0	第一調査	
N74	石核	サヌカイト	20.2	16.6	1.8	769.0	N8-S D-1	
N75	砥石	砂岩	17.2	10.8	7.3	1200.0	N8-S D-1	
N76	砥石	砂岩	13.1	9.6	3.4	628.0	N8-S D-1	
N77	砥石	泥岩(砂岩)	7.3	5.6	5.0	295.8	N8	
N78	砥石	砂岩	6.2	6.2	4.1	223.3	N8	



# 版 圖

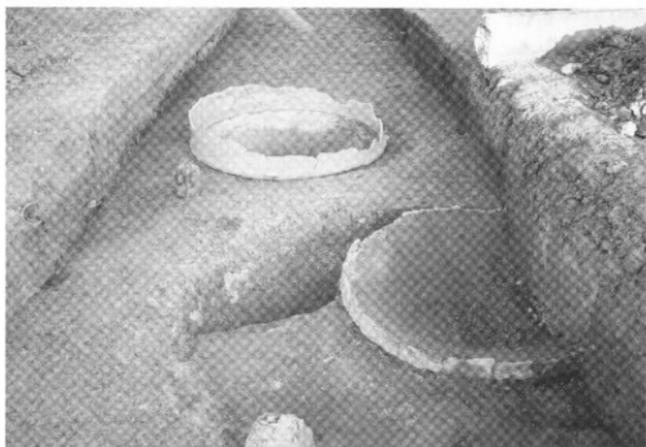




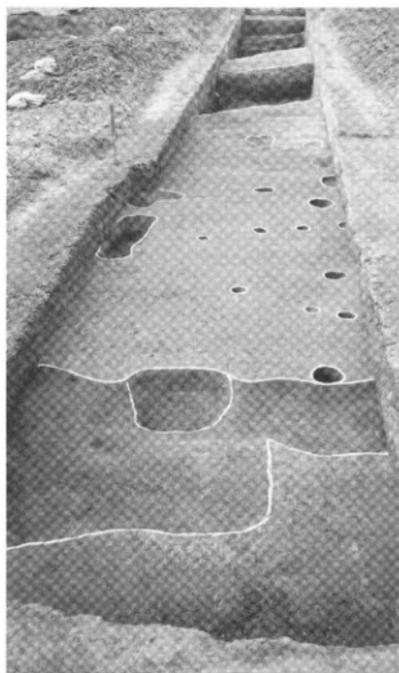
図版1 溝・S1-SD-1



图版2 满·S3-SD-2



図版3 S1調査区貯水槽出土状況



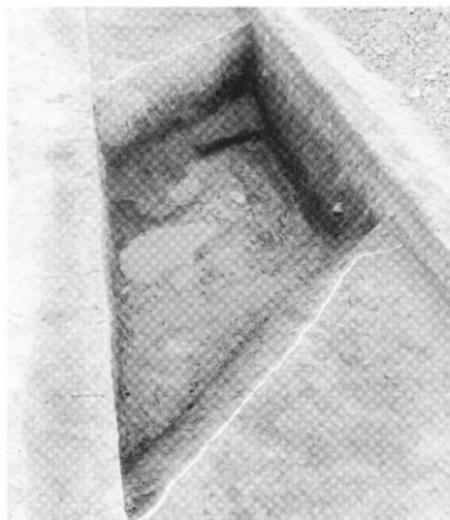
図版4 S3調査区ピット群



図版5 S1調査区ピット群



図版6 溝・S3-SD-2



図版7 溝・S3-SD-1



図版8 溝・S2-SD-2



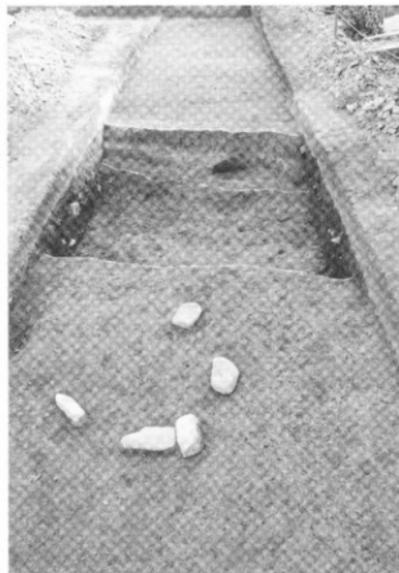
図版9 溝・N2-SD-1 遺物出土状況



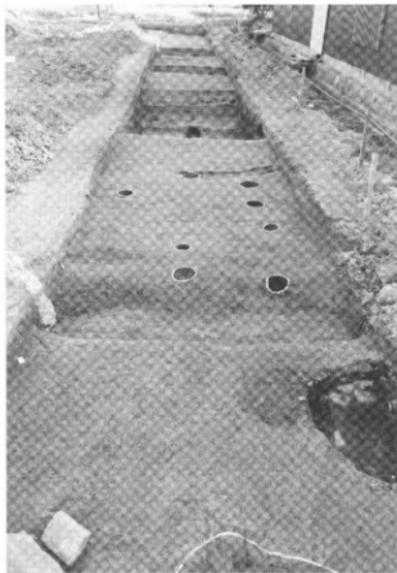
図版10 溝・N3-SD-1



図版11 溝・N2-SD-1

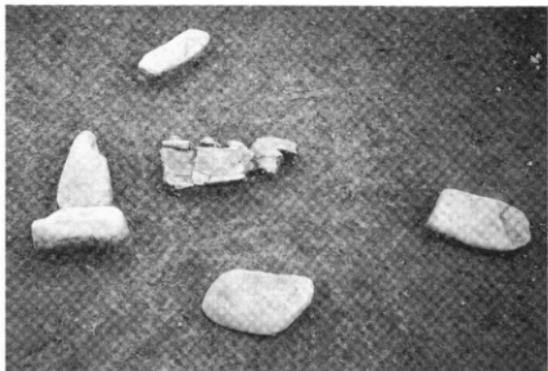


図版12 S1調査区・配石と  
溝・N1-SD-1



図版13 N2調査区ビット群

图版14 S1調査区・配石遺構



图版15 溝・N1-SD-1



图版16 溝・N1-SD-2



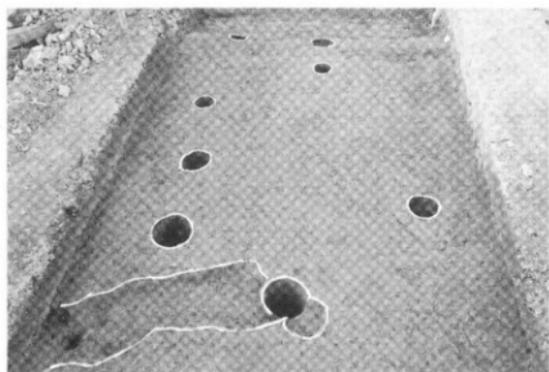
図版17 溝・N3-SD-1



図版18 N2調査区 ビット群



図版19 N2調査区 ビット群



図版20 溝・E1-SD-1



図版21 溝・E1-SD-1の下層



図版22 溝・E4-SD-1

